

第十六條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第十七條 營業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業者其責ニ任スヘシ

第十八條 此條例ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事東京府縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出ヘシ

第三十六章

銃砲取締規則 明治五年正月二十九日 第八號布告

銃砲取締規則別紙之通被定候條來ル四月ヨリ規則之通可相守事

別紙

第一則

一府下

一大小銃並彈藥類商賣ノ儀ハ府縣共定員商賣ノ外取扱致間敷右定員ノ商賣ハ其地方管

應ニ於テ精選ノ上免許狀可差遣事 八年第十一號公達ヲ以テ内務省管理ニ

免許商賣ノ定員

一府下 各五員

一縣下 各三員

一鎮臺本分營下 各一員

一開港場 各五員

右免許差遣候商賣ノ姓名住所等内務省ヘ届クヘキ事同上ニ付東京武庫

右免許差遣候商賣ノ姓名住所等内務省ヘ届クヘキ事同上ニ付東京武庫

第二則

一免許商人タリトモ軍用ノ銃砲彈藥類ヲ竊ニ賣買不相成賣渡候節ハ買主ヨリ官ノ免手

形ヲ受取其員數ヲ照シ賣渡可申又買入ノ節ハ其管廳ヘ願出免手形ヲ受其員數ヲ以テ

買取可申事 同上但書

一免許商人ハ陸海軍准士官以上ノ武官ヨリ其所有ノ軍用銃并ニ其彈藥類ヲ買入レント

スル片ハ買入願書ニ其賣主ノ連署ヲ爲サシムヘキ事 十三年第八號布告

第三則

一免許ノ商人其賣買ノ銃砲彈藥類ハ多少ヲ論セス買取賣渡共其主人ノ姓名其物品ノ員

數等明細附記シ軍用ノ物ハ免手形相添毎月其管廳ヘ可差出其廳ヨリ毎月十日ヲ限リ

内務省ヘ差送可申事 八年第十一號公達ヲ以テ内務省管理替ニ

第四則

一彈藥ノ儀ハ假令些少ノ品タリトモ唯便利ノミナ計リ勝手ノ場所ヘ差置間敷兼テ其地

方管廳ヘ願出差圖ヲ受相圍可申事 同上但書

第五則

一華族ヨリ平民ニ至ル迄免許銃類ヲ除クノ外軍用ノ銃砲并彈藥類ビストリルニ至ル迄

私ニ貯蓄不相成就テハ是迄銘々所持致居候軍用銃砲ハ一々其管廳ニ持出別紙銃砲改

刻印式ノ通番號官印ヲ受可申他人ヘ譲リ與ヘ候節ハ第二則ノ手續ニ從フヘシ 同上(持

別紙ヲ

除ク

十七年第三
十一號布告
ヲ以テ火藥
取締規則
定ニ付彈藥
ノ離ハ消滅
ス(第三十
六章)
刑罰第百五
十七條以下
參看

但彈藥買入致シ度者モ亦二則ノ通りタルヘシ

銃砲改刻印ノ式

千支何番

何府縣同上ニ付何府縣ノ上
(武庫司或ハ)ヲ副ル

右所持ノ人名番號等逐一書記シ置届出可申事同上ニ付(母)ノ下四字(届
出)ノ下十二字ヲ副ル

免許ノ銃類

一和銃四文目八分玉以下

一各國諸徽銃

但西洋獵銃ノ儀ハ其玉目稍大ナレトモ假彈ヲ用ユルモノハ之ヲ許ス

右獵用銃所持ノ者ハ其銃名員數等巨細附記シ其管廳へ届出其應ヨリ内務省へ差出
可申萬一軍用獵用銃ノ差別難相辨者官へ尋出候得ハ検査ノ上免許ノ証印ヲ据へ可
相渡事同上(其應ヨリ)ノ下(東京武庫司)ヲ
(内務省)トシ(可中)ノ下(別紙)ヲ副ル

第六則 六年第十五號布告銃徽規則ニ依リ廢ス
但該規則ハ十年第十一號布告ヲ以テ改正ニ付揭ケス

第七則

一銃砲彈藥下々ニ於テ猥リニ製造不相成候尤モ新ニ奇巧便利ヲ發明シ爲試製作致度者
ハ其管廳へ相願管轄鎮臺へ届出免許ヲ可受事

但製作其宜キニ適ヒ最モ便利ナル者ハ鎮臺ヨリ武庫司へ差送り検査ヲ遂ケ採用可
相成分ハ西洋免許ノ法ニ倣ヒ何分ノ御沙汰可有之事
是迄銃砲彈藥類買致來候者ハ現今所持ノ物品員數等無遺漏書記シ管轄廳へ爲届出

其應ヨリ内務省へ可差出事八年第十一號公達ニ依リ(其應ヨリ)ノ下
(東京武庫司)ヲ(内務省)トシ但該布告除ク

右之通ニ候事

○銃砲取締規則違背ノ者處分方

明治五年九月二十三日
第百八拾貳號布告

銃砲取締ノ儀ニ付別紙ノ通被相定候條此旨相違候事
別紙

銃砲取締規則ニ違ヒ銃砲彈藥類ヲ竊ニ所持シ且致取扱候者有之節ハ各地方ニ於テ其品
取上ケ更ニ五拾錢ノ過料可申付候事

但取締向ニ關係無之者見當リ訴出候ニ於テハ犯人過料ノ半金ヲ可被下候事

免許ヲ得スシテ銃砲彈藥ヲ製造スル者ハ其品取上ケ更ニ三圓以内ノ過料可申付事七年
第百

三十二號布告ヲ
以テ但該共追加

但書同前

右取上候品(東京大坂ハ武庫司其他ハ所管ノ鎮臺へ)可差出事

○銃砲外國人ヨリ買入手續

明治五年六月
第百八拾五號布告

銃砲取締規則中第二回開港開市場ニ限リ自今左ノ通可取扱事

一開港開市場ニ於テ免許商人ノ輩銃砲(并彈藥)類外國人ヨリ買入度儀願出候節ハ其管
轄廳ニ於テ嚴重取調へ一旦管廳へ買上然ル後願出ノ商人へ可相渡賣拂ノ節モ同様管
廳ニ於テ致取引可違事

但免許商人ヨリハ買入賣渡共其都度々々員數書ヲ以テ開港開市場管廳へ願出處置

ヲ可受事

○銃砲彈藥類取締管理替

明治八年六月二十八日 第百拾壹號使府縣へ達

今般銃砲彈藥取締ノ儀内務省へ管理被仰付候ニ付テハ追テ相達候儀モ可有之候得共差向キ從前規則ノ通相心得取締可致尤右規則中是迄陸軍省及各鎮臺等へ申出候分ハ總テ内務省へ可申出其他管理替ニ付牒觸ノ箇條ハ廢シ候儀ト可心得此旨相達候事

○免許商人外國人ト銃砲彈藥賣買出願取扱

明治十一年五月二十四日

第拾七號開港開市 場有之使府縣へ達

銃砲彈藥賣買免許商人外國人ト銃砲〔彈藥〕類賣買願出候節取扱方ノ儀ハ明治七年（七月）第九十九號八年（六月）第百十一號達ノ趣有之候處今般第十一號布告ノ趣モ有之ニ付自今銃獵免狀付與有之外國人へ獵用ノ銃器彈藥類賣渡候儀ハ其應限リ開屆候儀ト可心得此旨相達候事

但免許商人ヨリハ其姓名數量等ヲ記載シ其時々爲届出候儀可取計事

○武官所有ノ軍用銃賣買取扱規則

明治十三年三月二十五日第貳拾貳號使府縣（東京府ヲ除ク）へ達

陸海軍武官所有ノ軍用銃ハ明治五年（正月）第貳拾八號布告ニ依リ管轄廳ノ検査番號ヲ受來候處自今准士官以上ノ武官ハ左ノ規則ニ據ルヘシ此旨相達候事

武官所有ノ軍用銃賣買取扱規則

第壹條 陸海軍省ニ於テハ武官所有ノ軍用銃并其彈藥類買入ノ節交付スヘキ買入免狀ヲ定メ置キ豫メ其印影等照會ノタメ使府縣廳東京ハ特 視本署へ通知スヘシ

十四年第一號達ヲ以テ

第貳條 武官軍用銃〔并其彈藥〕類ヲ買入ル、時ハ前條ノ免狀ヲ受取之ヲ該地ノ免許商人ニ交付シテ其買入ヲ爲スヘシ

第三條 武官轉任又ハ免官スル時ハ其奉職中所有セシ銃器ハ其銃名檢印アラフナ記載シ使府縣廳 東京ハ特 視本署へ届出常則ニ從ヒ其取締ヲ受クヘシ

第四條 武官奉職中所有ノ軍用銃及ヒ其彈藥類ヲ人民へ賣渡サントスル時ハ買受人ヨリ其使府縣廳東京ハ特 視本署へ差出スヘキ願書へ連署スヘシ

○銃砲類外國人ト賣買許可

二十年四月十四日 内務省訓令第廿六號開港場開市場アル廳府縣

銃砲類外國人ト賣買ノ儀免許商人ヨリ願出ノ節ハ其廳ニ於テ許可シ賣買員數種目及ヒ雙方國人名共一周年間統計シ翌年一月三十一日限リ當省へ報告スヘシ

第三十七章 火藥取締規則

明治十七年十二月二十七日 第百三拾壹號布告

火藥取締規則別冊ノ通制定ス

但從前ノ成規中此規則ニ矛盾スルモノハ總テ廢止ス

右奉 勅旨布告候事

（別冊）

火藥取締規則

第一章 總則

第一條 凡火藥劇發火藥棉火藥、ナイトログリセリン、ダイナミイト、雷汞、其他劇發質ノ品物ハ人民ニ於テ製造スルコトヲ禁ス但烟火マツチノ類ハ此限ニ在ラス

刑法第百五十七條以下

第二章 火藥類火藥類ニテハノ買賣營業ヲ爲サントスル者ハ管轄廳東京府ハニ願出免許鑑札

ヲ受ク可シ但營業者ハ一管内ニ十五人以上トス

第三條 火藥類ハ營業者ニ限り陸軍海軍兩省ヨリ其貯藏品ヲ拂下ク可キモノトス

第四條 管轄廳東京府ハニ於テ火藥類ノ検査ヲ必要ト認ムル時ハ營業者タルト否トヲ問

ハス警察官ヲシテ之ヲ検査セシムルコトアル可シ

第五條 戰時若クハ事變ニ際シテハ陸軍卿海軍卿ハ火藥類ノ拂下ケヲ停止シ内務卿ハ

其買賣運搬ヲ停止スルコトアル可シ

第六條 火藥類ハ官許ヲ得ルニ非サレハ日出前日没後ニ於テ買賣運搬其他荷造等ヲ爲

ス可カラス

第二章 買賣

第七條 營業者ハ毎月買受ケタル火藥類ノ種類數量ヲ記シ監署アレハ翌月十日迄ニ所轄

警察署ニ届出可シ

第八條 營業者ニ非スシテ所有ノ火藥類ヲ賣ラントスル者ハ營業者ニ之ヲ賣渡ス可シ

營業者ハ其賣渡證書ヲ取り置ク可シ

第九條 營業者ハ銃砲用又ハ坑業土工烟火其他職業用ニ限り火藥類ヲ賣渡ス可キモノ

トス但十六歳未満若クハ白痴風癪ノ者ニハ之ヲ賣渡スコトヲ許サズ

第十條 火藥類ヲ買受ントスル時銃獵若クハ烟火製造ノ免許ヲ得タル者ハ其免狀ヲ營

業者ニ示シ銃砲用ノ爲メニスル者ハ所轄警察署ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡シ陸

海軍軍人ノ射的用に供スル者ハ其省ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡ス可シ但一回ニ左ノ數量ヲ超ルコトヲ許サス

小銃用	火藥	三百目	雷管	五百個
船舶設備銃砲用	大砲一門ニ付	火藥	五十發分	導火管類
	小銃一挺ニ付	火藥	百分	雷管
烟火製造用	火藥	五百目		

坑業土工其他職業用ニ供スル火藥類ヲ買受ケントスル者ハ其旨趣及種類數量並ニ使用ノ場所ヲ記シ所轄警察署ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡ス可シ

第十一條 營業者ハ買受人ノ免狀ヲ檢シ若クハ許可證ヲ受取り火藥類ヲ賣渡ス可シ但

第十條ノ數量ヲ超ルコトヲ許サス

第十二條 營業者ハ毎月火藥類買受人ノ住所氏名及其賣渡シタル種類數量年月日ヲ記

シ監署アレハ翌月十日迄ニ所轄警察署ニ届出可シ

第三章 貯藏

第十三條 火藥類ハ火藥三百目雷管導火管類五百個迄ハ安全ナル場所ニ之ヲ貯藏スル

コトヲ得

營業者ハ前項制限ノ外火藥拾貫目劇發火藥壹貫目雷管導火管類壹萬個迄烟火製造人ハ火藥五貫目劇發火藥五百目迄ハ管轄廳東京府ハノ許可ヲ受ケ倉庫ニ之ヲ貯藏スルコトヲ得其數量ヲ超ル時ハ火藥庫ノ外之ヲ貯藏スルコトヲ許サス火藥五百貫目以上劇發火藥五拾貫目以上ハ火藥庫ト雖モ之ヲ貯藏スルコトヲ許サス

第十四條 火藥類ヲ一庫内ニ貯藏スル時ハ其種類毎ニ不燃質物ヲ以テ之ヲ區畫ス可シ
第十五條 火藥庫ヲ建設セントスル者ハ其位置並ニ建設ノ方法書及近傍ノ地圖ヲ添ヘ
管轄廳東京府ハニ願出許可ヲ受ク可シ

第十六條 火藥庫ハ皇居離宮ノ區域ヲ距ル十町以内ノ地ニ建設スルコトヲ許サス

第十七條 火藥庫ハ皇陵社寺公園家屋火ヲ取扱フ場所宅地國道縣道鐵道電信柱瀕船ノ
通スヘキ河湖及他ノ火藥庫境界トノ中間ニ五十間以上ノ距離ヲ有ツ可シ

第十八條 火藥庫ハ土藏又ハ煉瓦造ニシテ家根ハ輕量ノ不燃質物ヲ用ヒ内部ニハ鐵釘
石瓦ヲ露ハサス窓ニハ透明ノ硝子ヲ用フ可カラス又避雷針ヲ設ケ庫外ノ周圍ニ二間
以上ヲ隔テ、高サ六尺以上ノ土堤ヲ築キ其入口ニ火藥庫ト書シタル標木 曲尺六尺以上
ニシテ五寸角
以上ノヲ建ツ可シ

第十九條 火藥庫ヨリ十四間以内ノ地ニ材本草秣其他燃質物ヲ蓄積ス可カラス又五十
間以内ニ於テ火ヲ取扱フ建造物ヲ設ケ若クハ瓦斯ノ傳送管ヲ施シ若クハ發火質ノ物
品ヲ蓄積ス可カラス

第二十條 坑業土工其他多量ノ火藥類ヲ要スル爲メ其事業中假貯藏所ヲ設ケントスル
者ハ第十七條ニ掲ケタル距離ヲ二倍シ第十五條ニ據リ管轄廳東京府ハニ願出許可ヲ受
ク可シ但貯藏ノ數量ハ火藥貳百貫目劇發火藥三拾貫目ヲ超ルコトヲ許サス
第二十一條 烟火製造所ハ家居若クハ火ヲ取扱フ場所ヨリ十間以上ノ距離ヲ有ツ可シ
又五貫目以上ノ火藥類ヲ置ク可カラス

第四章 運搬

第二十二條 五貫目以上ノ火藥類ヲ運搬セントスル時ハ其種類數量運搬ノ日時場所及
水陸通路ノ名稱ヲ記シ所轄警察署ノ許可證ヲ受ケ之ヲ携帶シ運搬畢ラハ直ニ之ヲ返
納ス可シ若シ其警察署管轄外ノ地ニ運搬スル時ハ其地ノ警察署ニ之ヲ納ム可シ

第二十三條 五貫目以上ノ火藥類ヲ運搬スル時ハ鐵釘鐵輪ヲ用ヒサル木製銅製若クハ
亞鉛製ノ器ニ入レ其外部ハ疋包若クハ細巻ト爲シ毛布類ヲ以テ之ヲ覆ヒ赤地ニ火藥
ノ二字ヲ白書シタル小旗 陸路ニハ曲尺縱二尺横二尺五寸水路
ノ小船ニハ曲尺縱三尺五寸横五尺ヲ建テ護送人ヲ附ス可シ但船積
スル時ハ明治六年(八月)第貳百九拾貳號布告危害品船積法ニ從フ可シ

第二十四條 火藥類ヲ運搬スルニハ火氣ニ注意シ休泊ノ時ハ安全ナル場所ヲ撰ヒ看守
人ヲ附ス可シ

第五章 罰則

第二十五條 私ニ火藥類ヲ製造シ若クハ販賣シタル者ハ軍用品ニアラスト雖モ刑法第
百五十七條ヲ適用シ私ニ之ヲ所有シタル者ハ刑法第百六十條ヲ適用ス

第二十六條 刑法第百五十八條第百五十九條第百六十一條ハ前條ノ犯罪ニ關シタル者
ニモ亦之ヲ適用ス

第二十七條 私ニ火藥庫又ハ假貯藏所ヲ建設シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處
ス

第二十八條 第四條ノ檢査ヲ拒ミ又ハ第五條ノ停止ヲ犯シテ賣買運搬シ第九條第十條

第十一條第十三條第十九條ニ違犯シ又ハ第二十條ノ制限ヲ超テ貯藏シ又ハ第二十一條ニ違犯シタル者又ハ營業者賣買ヲ除クノ外火藥類ヲ讓受若クハ讓渡シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 第六條第七條第八條第十二條第十四條第十八條第二十二條第二十三條第二十四條ニ違犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
第三十條 營業者此規則ニ違犯シタル時ハ其情狀ニ因リ行政ノ處分ヲ以テ營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

附則

一從前免許ヲ得タル火藥製造人ハ來ル明治十八年二月廿八日迄其營業ヲ差許シ又同日迄ニ火藥製造諸器械及火藥類ノ現貯藏數量ヲ記シ管轄廳東京府ハニ願出ルニ於テハ相當ノ代價ヲ以テ之ヲ買上ク可シ
一從前免許ヲ得タル彈藥免許商人ハ來ル明治十八年二月廿八日迄火藥賣買營業ヲ差許シ從前免許ヲ得タル烟火製造所ハ右同日迄其製造ヲ差許ス又從前火藥類ヲ貯藏シタル者ハ來ル明治十八年一月卅一日迄其貯藏ヲ差許ス其日限ヲ過クルトキハ總テ此規則ニ從フヘシ

○火藥類賣買ヲ免許シ火藥庫設置ヲ許可セシキ届

出方 明治十八年一月六日 第壹號警視廳府縣東京府ヲ除クヘシ
明治十七年(十二月) 第三拾壹號布告ヲ以テ火藥取締規則被定候ニ付テハ管轄廳ニ於テ

届出方左ノ通可相心得此旨相達候事

- 一火藥類ノ賣買營業ヲ免許シ又ハ火藥庫設置ヲ許可シタル時ハ營業者ノ住所族籍氏名及火藥庫設置ノ地名番號ヲ記シ内務陸軍海軍ノ三省へ届出ヘシ
- 一營業者ノ賣買シタル火藥類ノ種類數量ヲ統計シ毎年一月内務陸軍海軍ノ三省へ届出ヘシ

○陸軍省ニ於テ火藥拂下ノ場所

明治十八年二月二十七日 陸軍省達甲第拾號警視廳(東京府ヲ除ク)ヘシ

昨年第三十一號布告火藥取締規則ニ依リ於當省ハ砲兵第一方面及同第二方面ニ於テ火藥類拂下候條拂下希望之者ハ同方面へ願出候様營業人へ達方可取計此旨相達候事
但營業人住所姓名并營業免許證見本豫メ其廳ヨリ本文兩方面へ通知シ置キ營業人火藥類拂下出願之節ハ必ス營業免許證ヲ携帶セシムヘシ

○海軍省ニ於テ火藥拂下場所

明治十八年三月二十四日 海軍省乙第四號警視廳府縣(東京府ヲ除ク)ヘシ

昨年十二月第三拾壹號布告火藥取締規則ニ依リ當省ニ於テハ東京赤羽兵器局ニ於テ火藥類拂下候條望ノ者ハ同局へ出願候様營業人へ達方可取計此旨相達候事
但營業免許證見本豫テ其廳ヨリ同局へ通知シ置キ營業人ヨリ拂下出願ノ節ハ必ス營業免許證携帶セシムヘシ

第三十八章 火藥庫圍線規則

火藥庫圍線規則別紙之通相定候條此旨布告候事

明治九年九月十八日 第百貳拾號布告

(別紙)

火藥庫圍線規則

第一條 火藥庫周圍近接ノ地ヲ分テ二圍トシ火害ヲ豫防スルヲ左ノ如シ

第一圍 火藥庫牆壁外十四間以内ノ地ニ於テ諸種ノ建物ヲ設ケ材木草秣其他總テ燃質物ヲ蓄積スルヲ禁ス

第二圍 火藥庫牆壁外二十八間以内ノ地ニ於テ火ヲ取扱フ建物ヲ設ケ瓦斯ノ傳送管ヲ施シ及ヒ發火質ノ物品ヲ蓄積スルヲ禁ス

第二條 全國火藥庫所在ノ地名

(地名表略之)

第三十九章

爆發物取締罰則

明治十七年十二月二十七日
第三拾貳號布告

爆發物取締罰則別冊ノ通制定ス

右奉 勅旨布告候事

(別冊)

爆發物取締罰則

第一條 治安ヲ妨ケ又ハ人ノ身體財産ヲ害セントスルノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用シタル者及ヒ人ヲシテ之レヲ使用セシメタル者ハ死刑ニ處ス

第二條 前條ノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用セントスルノ際發覺シタル者ハ無期徒刑又ハ有期徒刑ニ處ス

第三條 第一條ノ目的ヲ以テ爆發物若クハ其使用ニ供ス可キ器具ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

第四條 第一條ノ罪ヲ犯サントシテ脅迫教唆煽動ニ止ル者及ヒ共謀ニ止マル者ハ重懲役ニ處ス

第五條 第一條ニ記載シタル犯罪者ノ爲メ情ヲ知テ爆發物若クハ其使用ニ供ス可キ器具ヲ製造輸入販賣讓與寄藏シ及ヒ其約束ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

第六條 爆發物ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者第一條ニ記載シタル犯罪ノ目的ニアラサルコトヲ證明スルコト能ハサル時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七條 爆發物ヲ發見シタル者ハ直ニ警察官吏ニ告知ス可シ違フ者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 本則ニ記載シタル重罪犯アルコトヲ認知シタル時ハ直ニ警察官吏若クハ危害ヲ被ムラントスル人ニ告知ス可シ違フ者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第九條 本則ニ記載シタル重罪ノ犯人ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメ又ハ其罪證ヲ湮滅シタル者ハ正犯ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

第十條 本則ニ記載シタル重罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第八十條及ヒ第八十一條ノ例ヲ用ヒス但十六歳未満ニシテ是非ノ辨別ナキ者ハ刑法ニ從フ

第十一條 第一條ニ記載シタル犯罪ノ豫備陰謀ヲ爲シタル者ト雖モ未タ其事ヲ行ハサ

ル前ニ於テ官ニ自首シ因テ危害ヲ爲スニ至ラサル時ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス第五條ニ記載シタル犯罪者モ亦同シ

第十二條 本則ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ仍ホ重キ者ハ重キニ從テ處斷ス

第四十章 石油取締規則

明治十六年二月十五日

明治十四年(八月)第四十號及ヒ同年(九月)第五十號布告石油取締規則左ノ通改定ス
第六號布告
第十號布告
第十號ヲ以テ施行期限ハ追テ布告アル
マテ延期ノ旨ヲ布告ス仍テ但書ヲ除去ス

第一條 石油ヲ分テ二種トシ閉塞發焰試驗法ヲ用ヒ攝氏驗温器三十度(華氏八十六度)以上ノ温度ニ達セサレハ發焰セサルモノヲ第一種トシ三十度ニ達セスシテ發焰スルモノヲ第二種トス

第二條 點燈用ニ供スルハ第一種ノ石油ニ限リ第二種ノ石油ハ醫療製藥調劑及ヒ物理學化學工業上ニ於テ業用ニ供スルノ外之ヲ用フルヲ許サス

第三條 石油營業者ヲ分テ擴業者精製者問屋及ヒ小賣商ノ四類トス其營業者ハ都テ轉應東京府下ノ警視廳ノ許可ヲ受クヘシ但二類以上兼業スルトキハ別ニ其許可ヲ受クヘシ

第四條 石油ノ種類ハ内務卿ノ必要トスル地方ニ於テ検査員ヲシテ之ヲ検査セシムヘシ石油ハ検査済ノ證アルモノニアラサレハ之ヲ販賣スルヲ許サス但擴業者ヨリ精製者ニ販賣スルハ此限ニアラス

第五條 検査済ノ石油ヲ家屋内ニ貯藏スルヲ得ルハ第一種ノ石油一石以内第二種ノ石油五斗以内トシ容器ハ漏出ノ虞ナキ不燃質物ニ限ルヘシ

第六條 石油營業者前條制限外ノ石油並ニ検査未済ノ石油ヲ貯藏スル場所建物及ヒ精製所ノ構造方ハ都テ管轄廳東京府下ノ警視廳ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 第二種ノ石油ハ精製者問屋ヨリ直ニ需用者ニ販賣シ小賣商ハ第一種ノ石油ニ限リ販賣スルヲ得ルモノトス

第八條 第二種ノ石油ヲ販賣スル者ハ購買者ヨリ其數量及ヒ需用ノ趣意年月日住所氏名ヲ詳記シタル書付ヲ取り置キ一年間保存スヘシ但販賣時限ハ日出ヨリ日没マテトス

第九條 石油ヲ運搬スルトキハ其石油タルコトヲ表記スヘシ但其積卸ニ必要ナル時間ノ外物揚場又ハ路傍ニ置ヘカラス

第十條 此規則ヲ犯シタル者ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス
右奉 勅旨布告候事

第四十章 危害品船積法則

明治十六年八月九日
第二十號布告

危害ヲ生スヘキ物品ヲ漫リニ船積致シ候テハ他ノ物品ヲ傷害シ甚シキハ至船ヲ失ヒ人命ヲ損シ不容易儀ニ付左ノ條件之法則ヲ定メ當明治十六年十月一日ヨリ令施行候條此旨布告候事

一 火藥硝石硫黃ノ類及ヒ發火シ易キ製藥品其他油脂醬液并腐敗シ易キ性質ニシテ他物ヲ損害スヘキ物品船積致シ候片ハ其品名ヲ表包之外部ニ書キ記シ或ハ其送狀ニ記載致シ船主船長又ハ運漕會社危難請合會社等ノ承諾ヲ得テ後差出スヘシ若シ其手數無

之尋常ノ荷物ト伴リ之ヲ船積致シ或ハ船積セント謀ル者ハ金五百圓以内之罰金ニ處スヘキ事

一尋常之品物トシテ差出シタル荷物ノ内ニ前條ノ如キ危害品可有之ト見受候片ハ船主船長運漕會社危險請合會社ハ何時ヲ限ラヌ何地ヲ論セス直ニ發包シテ之ヲ視查スルノ權利可有之事

但爲視查發包シタル荷物中ニ危害品無之片ハ船主會社等之入費ヲ以テ故之如ク荷造可致然共其荷物中ニ危害品有之片ハ是等ノ入費都テ荷主ヨリ可拂事

一此危害品ヲ船積セサル以前運漕會社又ハ危險請合會社之倉庫等ニ於テ見出ス片ハ之ヲ安全之場所ニ移シ置キ直ニ其管轄廳或ハ裁判所ヘ可届出事

但安全之場所ニ之ヲ移ス之費用ハ荷主ヨリ辨償可致事

一此ノ危害品ヲ既ニ船積シタル後ニ見出シ之ヲ安全之場所ニ保子難キ時ハ船中ニ於テ三人以上ノ保證人ヲ立テ之ヲ海中ニ投棄シ着港之上直チニ其次第書及ヒ荷主ノ姓名ヲ其地ノ管轄廳或ハ裁判所ヘ可届出事

但投棄シタル荷物及ヒ是ヨリ生スル荷主之損失ヲ辨償スルニ不及事

一船長及ヒ運漕會社等荷主ト申合此危害品ヲ尋常之荷物トシテ船積シ成ハ船積セント謀ル者ハ金五百圓以内又之ヲ見出ストイヘ片官ニ訴ヘ出サル片ハ金二百圓以内之罰ニ處スヘキ事

第四十二章

不開港場規則難船救助心得條目

明治三年二月

不開港場規則難船救助心得方等ノ條目別紙彫刻之通被仰出候間此旨相達候事

(別紙)

外國貿易之儀ハ神奈川港ヲ初大坂兵庫長崎新潟箱館六ヶ所御取開相成候上ハ諸商賈トモ右場所オイテ取引可致處不開港場オイテ密商イタシ候哉之趣相聞以之外ノ事ニ候右ニ付而者先達而御布令之趣モ有之御條約面ニモ明細ニ揭載致シ有之儀ニ付向々オイテ厚可相心得筋ニハ候得共津々浦々邊鄙之場所ニ至候而者取計方不相辨モノモ可有之或ハ難船救助之筋ト入混シ難船人ヘ對シ不親切之取扱イタシ候而者御交際上ニ差響候儀ニ付夫是以今般猶又廉々別紙之通心得方被仰出候依而者府藩縣オイテ取締不行届其土民共外國人ヲ引入レ内密ニ賣買致シ候節ハ假令其事不仕遠候共當人並其支配タル者マテ急度御咎可被仰付候尤吟味之上其土地管領之モノ同意致シ居候歟又ハ心得ナカラ見廻シ候儀相知レ候節ハ猶更嚴重御處分可有之候ニ付向々オイテ取締之儀猶一層行届候様可致候事

一外國人之儀自己相對ヲ以雇入候儀不相成趣者兼而御布令之通ニ候得共諸學科又者國地開發或ハ西洋形之船々運用筋ニ付相雇度モノハ其次第ニヨリ御開届可相成候間給料年限等取極其筋々ヨリ書面ヲ以東京外務省ヘ可願出其上御印章御渡可相成候尤御印章所持之外國人者何レノ向ニ而モ御國人同様相心得無隔意接待致シ無差支通行セシムヘク候尤諸場所ニ而右御印章相改可申萬一右御印章所持不致外國人有之節者御許容不相願私ニ雇入候ニ付内地通行不相成儀者勿論竊ニ隱シ置相願ル、ニ於テハ急

度御沙汰之向モ可有之關心得違無之様可致事

午正月

太 政 官

追而別紙條目之儀者外務省ニ摺モノ有之候間不足之向者何部ニ而モ同省へ申立可
受取候事

條目

不開港場取締心得方規則

一何レノ濱邊又者港浦ナイテ西洋形之船入津候ハ、時刻ヲ移サス直様港役人役人不居長
場所ハ村合ノ内ヨリ其船へ乗組入津之趣意可相尋事
可罷出事

但言語不通ニ而十分難相分儀モ可有之候得共初テ來ル外國船ハ故ナク入津イタシ
候儀甚少ク候間其大意丈ケ和語手具似ニテ相分可申候事

一尋問之上薪水食料ニ盡キ其品々ヲ求候タメ入津之儀ニ候ハ、其土地ヨリ横濱兵庫長
崎新潟箱館迄之里數ヲ勘辨イタシ格別遠路ニモ無之候ハ、右品々タリトモ前文開港
場之内へ參リ可受取旨申サトシ渡方ヲ斷リ可申或ハ右開港場へ七八十里又ハ百里モ
遠キ場所ニ候ハ、無餘儀事ニ付其土地支配ニテ承届候上右里數ヲ計リ船中人數相當
之分丈渡遣シ代金可受取事

但金高品數ハ勿論船之碇泊日數刻限等委細相認届出可申事

一其船之國名船名船主之名書付ニテ承リ札スヘキ事

但船名者多ク船之艦ニ横文字ノ摺書ニテ認有之モノニ付右字樣寫取置ヘキ事

一船ニ引上ケ有之國旗並船主之旗等總而目印ニ可相成モノハ其雜形寫取可差出事

一闕乏之品相渡候上出帆通々致シ候様子ニ候ハ、早々出帆候様催促可致事

一御免許之上海岸測量之タメ船ヲヨセ候節ハ相當ニ言語イタシ若石隠レ洲有之場所等
差示可遣尤御免許之船ハ其印狀必ス所持イタシ居候事

一軍艦ニ候ヤ商船ニ候ヤ蒸氣船風帆船共總而船形大小トモ取札相届可申事

一軍艦ニ候ハ、大砲之備有之商船トハ船形相違ニ付假令見ナレサルモノニ而モ相知レ
可申軍艦ハ別而何事モ禮儀ヲ正シ不敬之取扱イタサ、ル様可心掛候事

一薪水食料等船中必用之品之外餘分ハ勿論其外土地產物類相求度旨申立候トモ一切賣
渡候事不相成萬一利益ニ迷賣渡候者有之後日相願ハル、ニ於テハ吟味之上屹度御答
可有之事

一船中ニ積載有之品々彼方ヨリ賣渡度段申立候トモ買求候儀是又一切不相成万一竊ニ
取引イタシ候節ハ前同様御答可有之事

一濱邊ニ近キ村里之モノ共其濱邊之モノ共内々外國人ト荷物之取引致シ候様子ニ候ハ
、其支配力又者開港場へ可申立時証ニヨリ御賞可有之事

一難船ニ無之食料闕乏等ニ托シ密商仕向候節ハ定而其土地ニモ右ヲ呼迎候者可有之速
ニ探索之上彌密商イタシ候ニ相違無之候ハ、雙方トモサシ押外國人者引留置御國人
ハ入半手鎖等其土地相當之仕置ニイタシ早々申立差圖可受尤横文字之書付類後日證
據ニ可相成品ハ始末イタシ可置事

但各國御條約書ニ何レモ外國人共日本不開港場等へ參り密商シ或ハ密商ヲ企テントイタシ候者ハ其犯セル度毎ニ其品取上ケ爲過料メキシコドルラルニ而千枚ニ當候程御取立相成候間御國人ニ於テモ右同様之企致シ候モノ於有之者兼而御布告之通其品取上過料トシテ金千兩御取上之事

一御國人買求候西洋形商船ニ外國人乘組居万一商買取引等致シ度段申立候歟或ハ其乘組御國人手引ニテ商買取引候様ニ相見候ハ、篤ト様子ヲ探索致シ嚴敷拒絶可致万一仕遂候跡ニ候ハ、其事實穿鑿之上早々其筋へ可申立事

但本文西洋形商船ニ不限御國通例之地乘船ニ而西洋人乘組居候節モ同様之事

一外國船ヲ御國人トモ借リ受開港場ヨリ開港場へ荷物運輸之儀ハ願之上御開港可相成筋ニ候得共不開港場へハ決而御開港無之儀ニ付万一不良之徒村民ヲ欺キ御免許受候ニ付賣買致シ度杯ト申唱へ候トモ一切差許間敷事

但地方餓饉等ニテ不得止事外國船相雇不開港場へ相廻リ候事御免許無之筋ニモ無之其節ハ府藩縣之知事ヨリ其沙汰可有之且乘組人之内開港之役人爲取締立會居候等ニ付事實實留候上其取扱ニ可及事

一湊へ碇泊イタサス沖繫リ又者其近海ニナイテ雙方ノ船出會致密商候様子ニ候ハ、是又早々穿鑿可致事

一不開港場へ外國船碇泊イタシ薪水食料而已賣渡候儀ニテ聊心障リ之事無之トモ其都度相雇可申事

難船救助之事

一難船ニ而困苦之體ニ相違無之節ハ其困苦之輕重ニ隨ヒ相當ニ扶助イタシ可過事

但船ニ乘組居リカタキ程ニ候ハ、其海岸最寄寺院也民家也可然場へ止宿爲致食料衣服等迄仕賄可過事

一船之修復ニ取掛リ候ハ、鍛冶大工職其他入夫ハ勿論器材运用意致シ可過事

一乘組人之内溺死之尸有之歟或者滯留中病死之者埋葬之儀申立候ハ、墓所之内都合ヨキ場所へ埋葬可爲致事

一洋中ナイテ大船破損シ乘組外國人之内船具等ニ取付生殘リ居候體見當候ハ、早々我船へ助ケ載開港場へ送届候歟又者其土地支配之者へ引渡其支配之者受取海陸便宜ヲ見計開港場へ可差送事

一難船漂着候ハ、早々外務省歟又者開港場之内可成里數近キ所へ晝夜ニ不限注進ニ及其掛リ官員之出張ヲ申立差圖可受事

一難破イタシ船難用立陸路ヨリ開港場へ罷越度段外國人ヨリ願出候ハ、承届附添之者可成餘計ニサシ出最寄之開港場へ可送届事

一困難之船隠レ洲等ニ乘掛ケ難引出其儘船主引拂候節ハ右船津又ハ鐵具碇鎖等迄沈没之マ、追々流失候トモ又ハ村方ニ而取捨候トモ向後異存ナキ旨外國人ヨリ横文之書而取置ヘキ事

一難破之船津其マ、差置外國人ハ一旦引拂追々右船引出シ方トシテ再可差越候ニ付其

開船其外之モノトモ預リ置クレ候様外國人ヨリ相願候トモ容易ニ引受申聞敷彼方ヨリ遮而申立候ハ、其筋へ伺之上可引受勿論入費可相掛儀ニ付右賃銀受取候儀ハ不及申跡々ニ而異論不差起様何事ニモ書而可取置事

- 一沿海地方ニ於テ外國船困難ノ節救助方ニ付出費ノ儀ハ總テ其船主ニ屬シ相當ニ候得共船主ニ屬スヘカササル部分於有之ハ内譯精細區分致シ其地管轄ノ府縣廳ヨリ官費ヲ以テ仕拂候事ト相心得船主ヘ談判致シ船主ヨリ相當償却高ノ外猶不足ノ殘額ハ内譯精細書相添管轄府縣ヨリ大藏省ヘ申出處分ヲ可受候或ハ船主ノ自費ト地方廳ノ官費ト區別判然致サ、ル部分ハ暫ク官費ヲ以テ操替置船主滞留中ナラハ其趣船主ヘ心得置セ若シ船主其他乘組ノ者既ニ困難場引拂後ナル時ハ先以テ最寄開港場ノ府縣長官ヘ照會シ同所長官ヨリ其旨船主又ハ船主管轄ノ領事ヘ申入置セ而後右區分ノ見込外務省ヘ申出何分ノ指揮ヲ可受若シ船主ヨリ受取ルヘキ分本人持合セ無之候ハ、證書取置是又前文同様開港場ノ府縣長官ヘ可相廻事八年第七十號布告ヲ以テ全條改正
- 一難破之船具又ハ沙濡之荷物或ハ船津等賣拂度旨外國人ヨリ申立候ハ、右ハ相當之價ヲ以買求候儀不苦尤其段可相届事
- 一難船ニ而永々滞留可相成様子ニ候ハ、府藩縣トモ其筋ヨリ警備之モノ可差出事
- 一乘組人無之西洋之難破船海岸ヘ漂着候ハ、其様子イサイニ可相届事
- 一總而外國人ニ取引イタシ候勘定書或ハ證書之類ニ至ル迄和文ニ而者難用立候ニ付彼國之文字ニ而爲相認書キ判又ハ調印爲致置ヘシ和文ニ而者後日之證ト難相成候此方

ヨリ可差出證文等有之候ハ、和文ニ相認右へ調印イタシ可差出彼方ヨリ望候トモ意味不相知西洋文へ調印ハ勿論名而認職候儀不相成被欺候儀有之候トモ後ニ其餘無之事ト可相心得事

- 一右條目ニ有之伺出候儀又ハ届書トモ其場所ヨリ最近キ開港場歟又ハ東京外務省ヘ差出候事ト可相心得勿論事柄永引キ手輕ニ不相濟儀ハ開港場ヘ相届候上猶又外務省ヘ可申立事

右之通

午正月

○日本海ニ於テ英國船舶難破救助ノ費用支出方

明治十年七月二十五日
内務省乙第百六拾八號府縣へ達

日本海岸ニ於テ英國船舶難破救助ノ費用向後別紙條目之通區別ヲ立支出相成候條右ニ憑據可致處分尤モ取扱方ノ儀ハ從前ノ通可相心得此旨相達候事

(別紙)

- 一英國船日本海岸ニテ難破ノ節官吏及ヒ巡查並ニ區戶長等其場所へ出張ノ諸費官員困難人ヲ護送ノ旅費其他官府ノ間ニ報告スル諸費ハ總テ御國政府ノ給スル所タリ但シ難破セル者又ハ英國政府ヨリ償却セシムヘキ分左ノ通
- 第一救助人足及ヒ大小船雇賃並沈没荷物引上人足賃
- 第二船或ハ破損諸具及ヒ荷物番人雇賃

第三因難船事件ニ相用タル薪炭蠟燭及破船塢番小屋取建其他雜費

第四因難人ニ給セシ衣類及脂料其他諸物品代

第五言語不通ノ爲官員ニ非ラサル通辨人雇料及費用

第六因難人開港地へ發足ノ節荷物運送及途中諸費用

第七因難人溺死シタル時其搜索入費

第八同前ノモノ死傷スルトキ治療埋葬入費

○日英兩國船舶難破救助費償還方

明治十二年三月二十六日
內務省乙第拾五號府縣へ達

明治十年七月乙第六拾八號ヲ以テ英國難破船救助費支出方之儀相達置候處今般日英兩國船舶難破救助費償還方ノ義ニ付別紙之通約定書交換相成候條此旨相達候事

(別紙)

日本政府ニ於テ英國破船人救助ノ爲メ衣類食料旅費或ハ溺流人骸ノ救援或ハ病者負傷者ノ治療其外死去人ノ埋葬ニ係ル諸入費ハ英國政府ヨリ日本政府へ償還スヘシ英國政府日本破船人ヲ救助スル時ハ日本政府ニテ右同様ノ手續タルヘシ

日本政府又ハ英國政府ハ何レモ破船又ハ船内物貨ノ回復或ハ其保護ニ係ル費用ハ之ヲ償還スルノ責ニ任セサルヘシ總テ斯ノ如キ費用ハ難ヲ免レタル貨物ヲ以テ右貨物ヲ受取ル節右關係ノ者ヨリ其費用ヲ償却スヘシ

日本政府又ハ英國政府ハ難船ノ場所ニ出張スル政府ノ官吏警察吏又ハ地方官ノ費用即チ破船人護送ノ官吏ノ旅費及ヒ公信往復費ヲ拂ハサル可シ是等ノ費用ハ右官吏警察吏

及ヒ地方官所屬ノ政府ニ歸ス可キ者トス

○日米兩國難破船舶費用償還方

明治十四年九月二十八日
內務省乙第百四拾五號府縣へ達

難破船舶費用償還方ノ儀別紙之通米利堅合衆國政府ト結約批准相成候條此旨相達候事

(別紙)

日本帝國ト米利堅合衆國ト俱ニ約ヲ締ヒ以テ此國ノ船彼邦ノ海岸ニ於テ難破ノ際ニ當リテ支出ス可キ一定ノ費用償還ノ法ヲ設ケン事ヲ欲シ仍テ之カ爲メニ特約ヲ結フニ決意シ其全權委員トシテ日本國

皇帝陛下ハ外務卿正四位勳一等上井馨ヲ之ニ任シ米利堅合衆國

大統領ハ閣下ニ駐劄セル合衆國特命全權公使シヨン、エー、ビンハムヲ之ニ任シ互ニ其委任狀ヲ相示シ其式ノ善長適切ナルヲ認メテ訂約スルヲ左列ノ如シ

凡ソ風波ノ難ニ罹レル日本ノ窮民ヲ救ヒ之ニ衣食シ之ニ旅費ヲ給シ若クハ溺者ノ遺骸ヲ收得シ病者傷者ノ醫料ヲ償フノカナキハ之ニ醫藥ノ資ヲ給シ若クハ死者埋葬等ノ爲メ合衆國政府ニ於テ支出シタル諸費ハ宜シク日本政府ヨリ之ヲ償還スヘシ又合衆國市民ノ難破ニ遭遇シ日本政府ヨリ扶助ヲ受クル者アル時ニハ合衆國政府宜シク上下同様ノ手續ニ遵フヘシ然レトモ日本政府ニ於テモ將タ合衆國政府ニ於テモ難破船乃至其船中ノ貨財ヲ回收保存スルニ方リテ支出シタル費用ニ至テハ之ヲ償還スルノ責任ナカルヘシ凡テ這様ノ費用ハ其拾得シタル貨財ニ課シコレニ關係アル輩ヲシテ該貨財引取ノ上償還セシムル者トス

日本政府ニ於テモ將タ合衆國政府ニ於テモ其難破ノ地ニ出張セシムル政府ノ官吏警察吏或ハ地方吏ノ手當又ハ難民ヲ護送スル吏員ノ旅費若クハ公信往復ノ費用ハ之ヲ取立サルヘシ此類ノ費用ハ右官吏警察吏地方吏所屬ノ國ノ政府ニ於テ負擔スルモノトス此約書ハ正當ノ法式ニ從ヒ各自政府ニ於テ之ヲ批准シ其批准ハ可成速ニ之ヲ華盛頓府ニ於テ交換シ右交換後三十日ヲ越ヘ之ヲ各自ノ國中ニ實施スル者トス此約書ハ日本文及ヒ英文各二本ヲ作り右ノ證據トシテ茲ニ兩國ノ全權委員各其名ヲ記シ印ヲ鈐ス

東京ニ於テ

明治十三年五月十七日

西曆千八百八十年五月十七日

井 上 馨 國

第四十三章

內國船難破及漂流物取扱規則

シヨン、エー、ビンハム 印

明治八年四月廿四日第六拾六號布告

內國船難破及漂流物取扱規則別冊ノ通相定候條本年六月一日ヨリ施行可致此旨布告候事

但本年同日ヨリ浦高札ハ廢シ候事

(別冊)

內國船難破及漂流物取扱規則

第一條 諸通船海上又ハ川筋ニ於テ難破沈没其他ノ災厄ニ逢ヒ候節救助心得方及ヒ之

ニ屬スル諸費用ノ立方ハ總テ左ノ簡條ニ從テ取扱フヘシ

第二條 各地浦方ニ於テ難破救助ノ爲メ其管轄ヨリ區戸長其他用掛リ等ノ内ヲ以テ適宜ニ浦役人ヲ申付置クヘシ

第三條 諸通船難風ノ爲ニ困難シ又ハ其他災厄ニ罹リ候節ハ最寄ノ者見附次第直チニ

浦役人ニ報知シ且ツ浦役人ヨリ指圖無之厄速ニ助船ヲ出シ救助方精々盡力致スヘシ但救助ノ者困難船ニ漕寄セ候節船長其他重立タル者ヨリ頼談無之内ハ猥リニ船中ノ物品ヲ積ミ移ス可カラス

第四條 浦役人ハ難船ヲ見附或ハ其報知ヲ得ル時ハ速カニ其乗組人及ヒ船體積荷ヲ救助保安スルノ手立ヲ盡ス可シ若シ多人數ヲ要スル程ノ大難船ト見受ケ候節ハ板木半鐘等打鳴ラシ人數ヲ呼聚メ且近隣ノ船持ニ申付助船ヲ出サシム可シ

第五條 少人數ニテ救助シ得ヘキ時ハ勿論前條ノ如ク多人數ヲ要スル程ノ大難船ノ節モ浦役人ニ於テ諸事取締ヲ付ケ成丈ケ失費掛カラサル様篤ク注意致シ救助方行届候ハ、早速人數ヲ退散セシム可シ

第六條 保安シタル船具積荷其他ノ物品ハ最安全ニシ且便利ノ場所ニ之ヲ置ヘシ尤小屋掛ヲ要シ番人ヲ差置クヘキ程ノ場合ニ於テハ夫々其手數ヲナシ諸事懇切ノ取扱ヲ致スヘシ

第七條 難破ニ逢ヒタル船長又ハ乗組ノ者ハ上陸次第直チニ電信郵便其他ノ急報ヲ以テ之ヲ船主又ハ荷主ニ報知ス可シ

方ヲ除クノ外各船ノ處置ハ其管轄ニ申立テ其筋出張官員ノ差圖ヲ受ク可シ尤モ小難船ノ處置ハ二名以上ノ浦役人及ヒ船長其他重立乗組ノ者二名以上合議ノ上之ヲ決スルヲ得可シ

- 第十五條 船體積荷ヲ併セテ悉皆沈没ニ至ルノ大難船ハ浦方ニ於テ其救助ノ爲ニ許多ノ雜費相掛リ候トモ船主荷主ヨリ之ヲ取立ルヲ得ス故ニ其差出スヘキ費用ノ分ハ官費ヲ以テ支給スヘキニ付費用明細帳ヲ作り浦役人船長連署押印シ管轄ヘ差出ス可シ
 - 第十六條 危難ヲ冒シテ乗組人ノ必死ヲ救フ者又ハ救助ノ爲メ盡力シテ死傷ニ至ル者アルハ必ス管轄ヘ届出ヘシ其事實ノ輕重ニヨリ相當ノ賞譽或ハ手當金ヲ給ス可シ
 - 第十七條 總テ浦役人及船長合議ノ上處置シタル時ハ其事柄ヲ詳細ニ記シタル證書ニ通テ作り之レニ連署押印シ其一通ヲ船長ヘ渡シ他ノ一通ヲ浦役人ニテ保チ置クヘシ
 - 第十八條 二名以上ノ浦役人合議ノ時ハ其内一名ハ必ス他村ヨリ出ス可シ
 - 第十九條 難船救助ニ属スル諸費用ハ二名ノ浦役人及船長其他重立乗組ノ者二名以上立會ノ上第十一條第十二條第十三條第十五條ニ照シテ夫々其費用ノ種類ヲ區別シ成ル可ク速カニ精算書ヲ作り之ニ難破明細書ヲ添テ管轄ニ差出シ其檢査ヲ受ク可シ
- 但精算取調ノ節ハ成丈ケ船主又ハ荷主ノ立會ヲ要ス可シ
- 第二十條 前條ノ精算書ハ管轄ニ於テ速カニ調査ヲ遂ケ不審ノ處無之ハ早速下ケ渡ス可シ然ル上浦役人ハ第十五條ニ記スル場合ヲ除クノ外船主荷主或ハ船長ヨリ夫々出金致サスヘシ若シ其即時辨金相成難キ分ハ相當ノ日數ヲ猶豫ス可シ

但シ民費ノ分ハ其管轄ヨリ取立浦役人ヘ下渡ス可シ

- 第二十一條 洋中ニ於テ難破或ハ打荷等有之趣ヲ以テ浦証文ヲ願出ル時ハ二名以上ノ浦役人立會ノ上船長及ヒ乗組ノ者二名以上ヲ別々ニ取調ヘ其實跡アルカ又ハ航海日記アルモノハ之レニ照シ各々符合スル時ハ浦証文ヲ作り連署調印シテ之ヲ船長ニ付與シ寫ヲ以テ管轄ニ届出ヘシ
- 但浦証文中左ノ箇條ヲ載ス可シ
- 第一 難破ニ逢タル場所其時日及ヒ風波ノ模様
 - 第二 破損ノ箇所
 - 第三 打荷ノ種類箇數並他ノ積荷ノ種類
 - 第四 船號及ヒ免狀ノ番號並船主船長ノ本貫苗字名乗組人數
 - 第五 荷打シタル荷物主ノ苗字名本貫
 - 第六 仕出シ地及ヒ仕向ケ地ノ港名
 - 第七 乗組ノ内死傷有之ハ其本貫苗字名年齢
 - 第二十二條 軍艦其他ノ官有船困難候節ハ早速助船ヲ出シ精々盡力シテ救助ス可シ且其難破ノ大小ニ拘ハラズ其旨ヲ直チニ管轄ヘ報知ス可シ
 - 第二十三條 前條ノ救助ニ属スル諸費用ハ船將又ハ其筋ノ士官ヨリ直チニ受取ヘシト雖モ總テ管轄ノ指揮ヲ受クヘシ
 - 但シ第十一條ニ記載スル保安物ニ就テハ別段相當ノ手當ヲ與フ可シ

第二十四條 貢米及ヒ其他ノ官物ヲ積入候船難破ニ及ヒ候節現場救助ヲ除クノ外總テノ處置ハ管廳ヘ申立ノ上其指揮ヲ受ク可シ

但郵便物ヲ積込候船ハ其最寄郵便役所又ハ取扱所ヘ郵便行齎ヲ至急引渡ス可シ

第二十五條 難船取扱ノ間浦役人ノ日給ハ一日五十錢ヨリ多カラス十錢ヨリ少ナカラサルモノトス

難破ノ節働人足賃及ヒ小舟賃ハ土地ノ異同ト勞役ノ難易ニ依リテ同シカラスト雖モ各管廳ニ於テ適宜見積リ豫カシメ其額ヲ定メ置ク可シ

第二十六條 船長及ヒ擔任ノ者怠慢ニヨリ難破沈没其他ノ損害ヲ生スル時ハ右損失ヲ其者ヨリ償却セシムヘシ若シ其災厄人智ノ前知ス可カラス人カノ豫防ス可カラサルニ出ルヲ瞭然明証スル時ハ此限ニアラス

第二十七條 浦役人船長其他救助ノ者ト申合セ其保安シタル難船物ヲ沈没ト偽リ竊ニ賣買スル者ハ律ニ照シテ處分ス可シ

第二十八條 凡テ難船ノ節救助ニ託シテ積荷船具其他ノ物品ヲ竊盜或ハ掠奪スル者又ハ其竊盜掠奪ニ與スル者或ハ其本犯ヲ陰匿スル者又ハ竊盜物ト知テ之ヲ賣買スル者ハ律ニ照シテ處分ス可シ

第二十九條 以下漂着ノ部 凡原因ノ知レサル難船漂着物及ヒ乗組人ナキ漂着船ヲ見附ル者ハ之ヲ浦役人ニ報知ス可シ浦役人ハ其調書ヲ作り之ヲ其管廳ヘ届出可シ

第三十條 乗組人ナキ船ハ其漂着ノ月日船ノ大小破損ノ模様等ヲ精細ニ書記シ漂着物

ハ其品名箇數等精細ニ書記ルシ其漂着近傍人民輻輳ノ地ノ揭示場及ヒ船政所ヘ六十日間出張ス可シ尤モ漂着物ノ代價二十圓以上ト思量シ或ハ二十圓以下タリモ必要ノ品柄ト思量スル時ハ其管廳ヨリ三府五港ノ管廳及ヒ税關ヘ報告シテ張出ヲナシ或ハ新聞紙ニ載セテ公告ス可シ

第三十一條 漂着物ノ持主知レタル時ハ左ノ區別ニ循ヒ處置ス可シ

第一 一ケ年以内ハ其見積代價ノ三分一ヲ取揚主ニ與ヘ其現品ハ持主ニ返還スル事

但持主ノ情願ニヨリ現品賣拂ヒ其代金ニテ受取ルヲ得可シ

第二 一ケ年ヲ過クレハ之レヲ公賣シ其代價ヲ平分シ一半ハ其取揚主ニ與ヘ一半ハ官ニ收ムル事

但シ三ケ年以内ニ其持主知レタル時ハ官ニ收メシ部分ハ下戻ス可シ

第三十二條 乗組人無之漂着船ノ持主知レタル時ハ左ノ區別ニ循ヒ處置ス可シ

第一 一ケ年以内ハ其見積代價ノ十分一ヲ見附主ニ與ヘ其船ハ持主ニ返還スル事但書ハ前條第一項ニ同シ

第二 一ケ年ヲ過クレハ之ヲ公賣シ其代價ノ三分一ヲ見附主ニ與ヘ其餘ノ二分ハ官ニ收ムル事

但書ハ前條第二項ニ同シ

第三十三條 前二條ニ記スル場合ニ於テハ律例得遺失物ノ條ト牴觸スルヲナカル可シ

刑法第三百五十九條以下及ヒ第五十條第一項ノ規定ニ依リテ罰金ノ額ハ其罪ノ輕重ニ依リテ定メ置ク可シ

第三十四條 凡漂着物ヲ保存シ及ヒ之ヲ公告スル等ノ事ニ付費用アルモノハ第十一條ニ照シ浦役人ノ與印シタル証書ヲ以テ代價ノ全部中ヨリ之ヲ償却ス可シ

第三十五條 洋中ニ於テ難破イタシ桅樁其他ノ船具ニ取附キ海岸ニ漂着致シ候者有之節ハ浦役人ヨリ一通リ取調ヘ相當ノ保護ヲ加ヘ置直チニ管轄ニ届出其指揮ヲ受ク可シ尤モ本人歸郷ノ旅費其他ノ手當等貸遣ハシ候節ハ第十三條ノ通り追テ本人ヨリ償却セシム可シ

第三十六條 凡漂着物ヲ見附ケタル者之ヲ浦役人ニ報知スルヲナク其物品ヲ私カニ使用シ又ハ之ヲ賣買スル者ハ第二十八條ニ照シテ處分ス可シ

第三十七條 暴風雨等ニテ流失ノ材木ヲ取揚クル時ハ此規則第二十九條以下ニ照準シ其代價十分ノ一ニ過キサル取揚料ヲ遣スヘシ十年第廿九號布告

第三十八條 前條ノ場合ニオイテ取揚タル材木巨大ニシテ領置ニ不便ナルモノハ官之ヲ公賣シ其代價ヲ以テ現物ト看做シ材主ノ有無ニ從ヒ處分スヘシ十一年第三十二號布告

● 伺指令

● 漂流ノ訴訟文通用野紙拾揚ノ儀ニ付和歌山縣ヨリ大藏省ヘ伺 十六年十一月八日

第一條 所取用野紙ト雖モ其拾揚人ヘハ内國離船及漂物取扱規則ニ依リ相當保安料給與スヘキ儀ニ候得共該野紙ハ普通ノ物品ト異ニシテ規則ニ依リ賣下爲取扱候儀ニ付限リニ人民ニ於テ取扱フキヘモノニ無之且本紙ハ已ニ輸入ト相成廢物ニ属スシキ者ニ有之候既テハ其見積代價如何相立可然哉

第二條 前條用紙ハ假令遠航貨物丸ノ積載品ト推測スルモ現場離船物ノ保安ニアラスニシテ離破ノ當日ヨリ五日ヲ經過シ數里隔絶セル場所ニ於テ拾揚候儀ニ付規則第八條ニ據ラヌ全ク第三十一條ヲ適用シ可然哉

第三條 前條用紙積載ノ船又ハ到達スヘキ港等道ヲ例然候モ到底正當ノ賣下用ニ不相成モノニ付其國ハ送還テ要セ

明治九年四月大藏省乙第三十六號通ニ準據シ管轄ニ於テ燒却取附可然哉

指令 十七年二月十四日

但第三條現品處分方ノ儀ハ申出ノ趣

第四十四章 西洋形日本船各開港場出入規則

明治七年(十一月)第百二十三號布告國內回漕規則來ル十二月一日ヨリ當分停止シ西洋形日本船各開港場出入規則別紙ノ通相定右同月同日ヨリ施行候條此旨布告候事

(別紙)

西洋形日本船各開港場出入規則

第一條 凡ソ西洋形日本船ハ蒸氣風帆ノ別ナク橫濱神戸大坂長崎箱館新潟ノ六港ニ入津スル片ハ其投錨時刻ヨリ十二時間ニ第一號書式ノ通其港稅關ヘ届出ヘキ事

但風潮ノ不順等ニ因リ一時無餘儀入港シ十二時間ニ出港スルモノハ届書ヲ出スニ及ハス

第二條 貨物ノ積卸ハ其港稅關ノ免許ヲ受タル後ニ非サレハ一切相成ラサル事

第三條 輸入稅未納ノ外國貨物及ヒ貨主外國人ニテ輸出稅未納ノ内國貨物回漕ノ儀ハ本年第二十號布告ニ照シ夫々手數致スヘキ事

第四條 出港セントスル片ハ必ス二時前マテニ第二號書式ノ通稅關ニ届出ヘキ事

第五條 出入港ノ届ヲ等閑ニスルモノハ左ノ通料申付ヘキ事九年第廿九號布告ヲ以テ左ノ諸項ヲ改正ス

蒸氣船	三百噸迄	金五圓	三百噸以上三百噸コトニ五圓ヲ加フ
風帆船	三百噸迄	金三圓	三百噸以上三百噸毎ニ三圓ヲ加フ

(書式略ス)

第四十五章

外國船乘込規則

明治九年三月十八日
第三拾號布告

外國船ニ乘込旅行セントスル者取締ノタメ左之通規則相定候條此旨布告候事

外國船乘込規則

第一條 外國船ニ乘込旅行セントスル者ハ出船當日或ハ一日前其屬籍住所姓名及ヒ何國人所持船何號ニ乘込何港迄赴ク旨ヲ具シタル届書ヲ其出船スル地ノ廳ニ差出シ乘船證書ヲ受クヘシ

第二條 乘船證書ハ壹人壹枚タルヘシ

第三條 乘船證書ヲ受取ルニハ壹枚ニ付手数料トシテ金拾錢ヲ納ムヘシ
九年第六十一號布告ヲ以テ廿五錢ヲ改メ

第四條 乘船證書ハ每人親ヲ出屬シテ受取ルヘシ代人ヲ以テスルヲ許サス

第五條 乘船證書ハ着港上陸ノ上其地警察官吏ニ返付スヘシ其途中一時上陸
例ハ横濱港ニ到ル者其船神戶港ニ卸候シタ
ル時用便ノタメ暫時上陸スルノ類

第六條 乘船證書ハ一度ノ出船ニ用フルモノトス故ニ途中ヨリ上陸スル歟又ハ事故アリテ乘込止メ更ニ他ノ船ニ乘込歟又ハ同船タリトモ他日航海ノ便ニ乘込ム時ハ最初受取タル證書ハ其出船スル地ノ廳ニ納メテ更ニ證書ヲ受取ルヘシ

第七條 乘船證書ヲ所持セスシテ乘船シタル者ハ上陸ノ節違式ニ照シテ處分スヘシ

第八條 開港場アル地方廳ニ於テハ外國船ニ乘込ントスルノ届書ヲ差出ス者アル時ハ第一條第四條ノ手續ニ相違ナキヤテ檢閲シ別紙雛形ノ證書ヲ直ニ本人ニ相渡シ手数料ヲ領收スヘシ

第九條 右地方廳ハ兼テ船場ノ要所ニ於テ警察官吏ノ出張所ヲ設ケ置キ外國船出入港毎ニ若干員ヲ臨檢セシメ内國人ノ乘船又ハ上陸スル者ノ證書ヲ一々檢閲シ若シ證書ヲ所持セサル歟又ハ其證書最前ノ出船ニ請取リタルヲ其儘再用シタル歟ヲ視認メタル時ハ詳カニ其所由ヲ取糺シ證書所持セサル者ハ乘船證書ヲ受取ル手續ヲナサシメ或ハ其乘込ミヲ止ム證書ヲ再用スル者ハ違式ニ照シテ處分スヘシ

第十條 警察官吏乘船證書ヲ臨檢シ着港上陸者ノ分ハ之ヲ領收シ一時途中上陸者ノ分ハ之ヲ本人ニ還付スヘシ

(證書雛形略之)

第四十六章

海外旅券規則

明治十一年二月二十日
外務省第壹號布告

從來當省ヨリ發行候海外行免狀之儀海外旅券ト改稱別紙規則相定候條此旨布告候事
(別紙)
海外旅券規則
旅券ハ日本國民タルヲ證明スルノ具ニシテ海外各國ニアリテ要用少ナカラサルヲ以テ外務省ヨリ之ヲ發行ス規則左ノ如シ

第一條 旅券ヲ請フ者ハ別紙雛形ノ書面ヲ以テ外務省又ハ開港場管廳へ願出之ヲ受取ルヘシ右郵便ヲ以テスルモ若シカラス旅券ヲ受取ラハ直ニ其示シアル所へ當人姓名ヲ自記スヘシ

第二條 旅券ヲ受クルモノハ手数料トシテ金五拾錢ヲ納ムヘシ但旅券ハ一人一枚ニ限ルヘシ若シ五歳以下ノ小兒ニ其父母同道ナルキハ其父母ノ旅券ニ附記スルヲ以テ足レリトス

第三條 内地ニ於テ右旅券受取ル間合之ナキカ又ハ海外ニ於テ遺失シタルカノトキハ其國在留ノ日本公使館又ハ領事館へ其趣ヲ記載セル書面ヲ出タシ自身出頭シテ願ヒ受クヘシ但其手数料トシテ金貳圓ヲ納ムヘシ

第四條 公用ヲ以テ旅行シ官費ヲ以テ留學スル者ハ内地ニアリテハ其官廳ヨリ直ニ外務省ニ掛合海外ニ在テハ前條ノ趣ニ從ヒ旅券ヲ受取ルヘシ但手数料ハ納ムルニ及ハス

第五條 旅券ハ其趣クヘキ國ノ公使又ハ領事ノ證明ヲ得ル儀其國ニヨリ要川少ナカラズ其節ハ其館ニ就テ直ニ之ヲ請フヘシ但其定規ニ隨ヒ手数料ヲ拂フヘキモノトス

第六條 海外ニアリテ所持ノ旅券我領事官ノ證明ヲ要用トスルヲアリ其節ハ之ヲ請ヒ得ヘシ但領事官ナキ地ニ於テハ公使館ニ到リテ之ヲ請フヘシ

第七條 旅券ハ歸朝ノ後三十日以内ニ其最初受取リタル官廳へ之ヲ返納スヘシ郵船等ノ海員常ニ旅券ヲ要スル者ハ此限ニ在ラス但シ海外ニアリテ我公使又ハ領事館ヨリ受取リタル者ハ外務省ニ返納スルヲ以テ足レリトス

旅券願書式

私儀何々ノ爲某國へ罷越或ハ往來致度ニツキ旅券御渡方奉願候也

明治 年 月 日

何府縣下

第何大區何小區
何國何郡何町村何番地又ハ寄留
士族屬職業

何 姓 名 印

年何年何ヶ月

外務省又ハ何府縣御中

右之通相違無之候也

前書之通證明候也

戸長 姓名 印

府知事縣令姓名 印

上封

旅券願

何府縣下

何國何郡何驛村

何町

何 誰

外務省或ハ某府縣

御 中

旅券文言

官印

右

ニ趣クニ付通路故障ナク旅行セシメ且必要ノ保護扶助ヲ與ヘラレンコトヲ其筋ノ諸官ニ希望ス

年 月 日

日本皇帝陛下官位姓名自記

所持人姓名自記

右ハ官員及官費留學生ニ與フル式タリ

籍

當人姓名

齡

右ノ者故障ナク通行セシメ且必要ノ保護扶助ヲ與ヘラレン事ヲ其筋ノ諸官ニ希望ス

年 月 日

日本帝國官位姓名自記

所持人手記

右ハ華士族平民ニ與フル者ナリ共ニ英佛獨魯清文ヲ譯付ス

○朝鮮國旅行ノ者旅券出願方

明治十一年三月六日
外務省第貳號布告

本年二月廿日第壹號達海外旅券規則第壹條外務省又ハ開港場管轄ト掲載有之候處朝鮮國へ旅行候者ニ限リ左ノ縣廳へ願出旅券受取候テ不苦候條此旨布達候事

廣島

山口

島根

福岡

鹿児島

長崎縣嚴原支廳

第四十七章

富興行禁止

明治元年十二月廿三日布告

富興行ノ儀ハ兼而御禁制ニ有之處近年諸國ニ於テ金錢融通ヲ名トシ或ハ社寺再建等ニ托シ興行致候向モ有之趣元來澆季之弊風僥倖之利ヲ以民心ヲ誘惑スルヨリ自然農工商共其職業ヲ惰リ往々之カ爲ニ家産ヲ破候者モ不少哉ニ相聞ヘ以ノ外ノ事ニ候斯御一新ノ折柄右様之所業殊ニ御趣意ニ相戻リ候儀ニ付更ニ嚴禁被仰出候事

○富籤賣買ノ牙保幫助者及富籤購買者處分方

明治十五年五月廿四日
第貳拾五號布告

明治元年十二月二十三日ノ布告ニ原ツキ富籤賣買ノ牙保幫助ヲ爲シ及富籤ヲ購買シタル者處分方左ノ通制定ス

第一條 凡富籤賣買ノ牙保若クハ幫助ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二條 凡富籤ヲ購買シタル者ハ其價ヲ拂ヒタルト未タ拂ハサルトヲ問ハス二十日以上四月以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス他人ノ名ヲ借リテ購買シタル者及他人ヨリ譲リ受ケタル者亦同シ

第三條 第一條第二條ノ罪ヲ再犯シタル者ハ同條ニ定メタル刑期金額ノ二倍ニ處ス但
初犯ニ科シタル刑期金額ニ下ルヲ得ス

第四條 官職ニ關スル犯罪ヲ告發シタル者ニハ其徵スル所ノ罰金ノ半額ヲ給與ス

第五條 官職ニ關スル罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ其罪ヲ
免ス

再犯ニ係ル者ハ自首スト雖モ其罪ヲ免セス

第六條 官職ニ關スル犯罪ニ因テ得タル財物ハ之ヲ沒收ス

自首ニ因テ罪ヲ免シタル者ト雖モ財物沒收ハ仍ホ前項ニ依ル

右奉 勅旨布告候事

第四十八章 帶刀禁止及違犯者處分

明治九年三月二十八日
第三十八號布告

自今大禮服用並ニ軍人及ヒ警察官吏等制規アル服用用ノ節ヲ除クノ外帶刀被禁候條
此旨布告候事

但違犯ノ者ハ其刀可取上事

諸神社神輿渡御ノ節供奉ノ者帶刀

明治九年七月二十日
教部省通書甲第五號

諸神社神官
帶刀官へ達

諸神社神輿渡御ノ節供奉ノ者共從前甲冑又ハ大紋素袍等着用ニテ帶刀致シ來候向ハ供
奉中ニ限リ一社ノ古例ニ任セ帶刀不苦候尤モ其都度其筋へ届出候儀ト可心得此旨相違
候事

達書第二十四號

府 廳

別紙甲第五號之通神宮並官國幣社神官へ相違候條此旨爲心得相違候事

府縣社以下古代ノ裝飾ニ摸倣シ神輿供奉中帶刀

明治十一年三月四日
內務省乙第貳拾號府縣へ達

諸神社神輿渡御ノ節供奉ノ者帶刀之儀ニ付明治九年(七月)舊教部省甲第五號ヲ以神宮
並官國幣社へ相違置候趣處右ハ府縣社以下モ同様專ラ古代之裝飾ニ摸倣シ神輿ニ供
奉致來候舊例有之向ハ其人員ノミ供奉中ニ限リ帶刀不苦尤其都度其筋へ可爲届出儀ト
可心得此旨相違候事

但普通祭服用用之者帶刀不相成儀ハ勿論タルヘシ

第四十九章 賭博犯處分規則

明治十七年一月四日
第壹號布告

賭博犯ノ儀ハ刑法第二百六十條第二百六十一條ニ明文有之候ヘ尺當分ノ內行政警察ノ
處分ニ屬シ東京ハ警視廳其他ハ地方官ヲノ別紙賭博犯處分規則ニ依リ取締懲罰ノ事ヲ
行ハシム

右奉 勅旨布告候事

賭博犯處分規則

第一條 賭博ヲ爲シタル者ハ一月以上四年以下ノ懲罰及ヒ五圓以上貳百圓以下ノ過料

ニ處ス家屋ヲ貸與シ及ヒ見張ヲ爲シ其他總テ幫助ヲ爲シタル者亦同シ

博徒ニシテ黨類ヲ招結シ又ハ賭場ヲ開張シ又ハ兇器ヲ携帶シ又ハ四隣ニ橫行スル者

ハ一年以上十年以下ノ懲罰及ヒ五拾圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス其招結ニ應シタル者ハ賭博ヲ爲サスト雖モ前項ニ依テ處分ス

第二條 賭具及ヒ賭場ニ現存スル財物ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒入ス

第三條 賭博犯ヲ取押フルニハ何人ノ家宅ヲ問ハス何時タリトモ之ニ立入ルコトヲ得但警察官巡查ハ其證票ヲ携帶スヘシ

第四條 此規則ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事東京府縣令ニ於テ便宜之ヲ定メ内務卿ノ許可ヲ得テ施行スルコトヲ得

○歸休兵及豫備後備ノ軍籍ニ在ル者賭博犯ヲ受ケ

タルトキ駐在官へ通報方 十九年五月十九日陸軍省令第十八號
北海道廳府縣(東京府)沖繩縣ヲ除ケ
歸休兵及豫備後備ノ軍籍ニ在ル者賭博犯ノ處分ヲ受ケタル片ハ自今警察官ヨリ犯人本籍地ノ戶長ニ通報シ戶長ヨリ郡區駐在官ニ通報セシム可シ

●伺指令

●賭博犯ニ關スル偽証者處分方ノ儀ニ付新潟縣ヨリ司法省へ伺(電報)十七年一月十一日
賭博犯ニ關スル証人偽証及ヒ誣告者ハ無論刑法ニ依リ處分相成候ト心得可然哉
指令 十七年一月十五日 本月十一日附電報伺ノ趣ハ刑法ニ依ルノ限ニアラス

●賭博犯處分ノ儀ニ付秋田縣ヨリ司法省へ伺(電報)十七年二月十三日
本年第一號公布頒布前ノ賭博犯ヲ該公布ニ依リ懲罰ニ處シタル時ハ其執行ヲ終リタルト百トニ拘ハラス更ニ裁判所へ交付ス可キヤ

指令(電報) 十七年三月十九日

容月十三日付賭博犯處分ノ儀ニ付伺ノ趣ハ其科シタル懲罰過料ノ刑罰金額内ニ在ルモノハ裁判所へ送付スルニ及ハスト雖モ其刑期金額ヲ超過スルモノハ更ニ裁判所へ送付ス可シ

●賭博事件ニ付神奈川縣ヨリ海軍省へ伺(電報)十七年十一月二十八日

軍屬ニシテ賭博犯處分取調中免職セラレタル者アリ其犯ストキ軍屬ナルモ既ニ之ヲ脱シタル上ハ暫入ト同シク處分可然哉

指令(電報) 十七年十一月二十九日

二十八日附伺賭博犯處分ノ儀ハ伺ノ通

●賭博犯過料金不納者ノ件ニ付鹿兒島縣ヨリ内務省へ伺 十九年二月十二日

賭博犯過料不納者身代限印紙費ハ何致目ヨリ出スカ人民ノ厭惡ト異ナルニ付無印紙ニテロキヤ

指令 十九年二月二十五日

賭博犯科料不納者身代限印紙費ハ地方警察費ヨリ支辨スヘシ但シ印紙規則第五條ニ據リ貼用スルモノトス

第五十章 年期奉公等ノ名目ヲ以テ賣買同様ノ所業ヲ

禁ス 明治五年十月二日
第貳百九拾五號布告

一人身ヲ賣買致シ終身又ハ年期ヲ限リ其主人ノ存意ニ任セ虐使致シ候ハ人論ニ背キ育マシキ事ニ付古來制禁ノ處從來年期奉公等種々ノ名目ヲ以テ奉公住爲致其實賣買同様ノ所業ニ至リ以ノ外ノ事ニ付自今可爲嚴禁事

一農工商ノ諸業習熟ノ爲メ弟子奉公爲致候儀ハ勝手ニ候得共年限滿七年ニ過ク可カラ

サル事

但雙方和談ヲ以テ更ニ期ヲ延ルハ勝手タルヘキ事
一平常ノ奉公人ハ一ヶ年宛タルヘシ尤モ奉公取續候者ハ證文可相改事
一娼妓藝妓等年季奉公人一切解放可致右ニ付テノ貸借訴訟總テ不取候事
右之通被定候條屹度可相守事

○人身ヲ書入トシテ金錢ヲ貸借スルヲ禁ス

明治八年八月十四日
第百貳拾八號布告

金錢貸借ニ付引當物ト致候ハ賣買又ハ讓渡ニ可相成物件ニ限リ候ハ勿論ニ候處地方ニ
寄リ聞ニハ人身ヲ書入致候者モ有之哉ノ趣右ハ嚴禁ニ候條此旨布告候事
但期限ヲ定メ工作使役等ノ勞力ヲ以テ負債ヲ償フハ此限ニアラス

○金談上養女ノ名目ヲ爲シ娼妓藝妓ノ所業ヲ爲サシム

ルヲ禁ス

明治五年十月九日
前法省第貳拾貳號布告

本月二日太政官第百九十五號ニ而被仰出候次第ニ付左ノ件々可心得事
一人身ヲ賣買スルハ古來ノ制禁ノ慮年季奉公等種々ノ名目ヲ以テ其實賣買同様ノ所業
ニ至ルニ付娼妓藝妓等雇入ノ資本金ハ賍金ト看做ス故ニ右ヨリ苦情ヲ唱フル者ハ取
札ノ上ハ其金ノ全額ヲ可取揚事
一同上ノ娼妓藝妓ハ人身ノ權利ヲ失フ者ニテ牛馬ニ異ナラス人ヨリ牛馬ニ物ノ扱辦ヲ

求ムルノ理ナシ故ニ從來同上ノ娼妓藝妓ヘ借ス所ノ金錢並ニ賣掛滯金等ハ一切債ル
ヘカラサル事

但本月二日以來ノ分ハ此限ニアラス

一人ノ子女ヲ金談上ヨリ養女ノ名目ニ爲シ娼妓藝妓ノ所業ヲナサシムルモノハ其實際
上則チ人身賣買ニ付從前今後可及嚴重ノ處置事

第五十一章 幼兒ヲ外國人ニ賣渡ヲ禁ス

明治五年二月廿五日
第五十五號布告

各港在留ノ支那人共我國民ノ幼兒ヲ買取候儀ニ付テハ去ル庚午八月中相達候得共未タ
右様ノ所業致候者モ有之哉ノ趣キ畢竟內國人ヨリ賣渡シ候故支那人ニ於テモ買取本國
ヘ連行販賣スルニ至候次第ニテ御國禁ヲ犯シ不易儀ニ付向後右等不心得ノ者於有之
ハ嚴重處置ニ可及候間地方官ニ於テ管内取締厚ク可加教育候事

第五十二章 禁裡御用等ノ會符標札及菊御紋ヲ畫キタ

ル提灯器物等ヲ禁ス

明治元年三月二十八日布告

一禁裡御用或ハ禁裡御料又ハ禁裡御内杯ト會符榜示杭標札等ニ書記シ候儀ハ有之間布
事ニ候處往々見受候ニ付以來屹度相改御用御料ト而已書記致シ候様被仰出候事
但標札ハ姓名相記シ又ハ官名役名等記シ候儀不苦候事

一提燈又ハ陶器其外賣物等ニ御紋ヲ畫キ候事共如何之儀ニ候以來右之類御紋ヲ私ニ附

候事屹度可禁止此旨被仰出候事

但御用ニ付是迄被免之分モ一應伺出可申事
右之通被仰出候條未々迄不洩様可申達事

○由緒有之社寺ノ外菊御紋ヲ用ユルヲ禁ス

明治二年八月二十五日
布告

社寺ニテ是迄菊御紋用ヒ來ル者不少候處今般御改正相成社者伊勢八幡上下加茂等寺ハ
泉涌寺般船院等之外ハ一切被差止候旨被仰出候事

但格別由緒有之社寺ハ由緒書ヲ以テ可親出候事

○由緒ノ有無ニ拘ハラヌ菊御紋ヲ禁ス

明治四年六月十七日布告

菊御紋禁止ノ儀ハ兼テ御布告有之候處猶又向後由緒ノ有無ニ不關皇族ノ外總テ被禁止
候尤御紋ニ紛敷品相用候儀モ同様不相成候條相改可申事

但從來諸社ノ社頭ニ於テ持來候分ハ地方官ニ於テ取調可申出事

○官幣社々殿ノ裝飾及社頭ノ幕提灯ニ限り菊御紋ヲ用
フルヲ許ス

明治七年四月二日

開拓使京都府大坂府兵庫外十四縣へ達

社寺ニテ菊御紋相用候儀禁止ノ旨明治二年已八月布告候處自今官幣社社殿ノ裝飾及
社頭之幕提灯ニ限り菊御紋相用不苦候條此旨管内官幣社へ可相達事

○國幣社々殿ノ裝飾幕提燈ニ限り菊御紋ヲ用フルヲ許

明治十二年四月二十二日

第貳拾陸號國幣社所在使府縣へ達

社寺ニテ菊御紋相用候儀ニ付明治二年(八月)布告ノ趣モ有之候處自今國幣社社殿ノ裝
飾及社頭ノ幕提燈ニ限り菊御紋相用不苦候條此旨管内國幣社へ可相達事

○一般社寺ノ神殿佛堂ニ裝飾シタル菊御紋存置ヲ許ス

明治十二年五月二十二日

第貳拾三號使府縣へ達

一般社寺ニ於テ菊御紋相用候儀不相成旨明治二年八月布告ノ趣モ候處右布告前神殿佛
堂ニ裝飾シタル分ニ限り其儘存シ置若シカラス候此旨相達候事

○菊御紋章ヲ畫キタル賣品取締方

明治十三年四月五日
宮内省乙第二號府縣へ達

菊御紋章ヲ賣物等ニ畫キ候儀并紛敷品相用候儀モ不相成旨明治元年三月廿八日明治四
年六月十七日太政官布告ノ趣モ有之候處近來往々賣品ニ御紋章ヲ畫キ候向有之哉ニ付
取締方一層注意可致此段相達候事

●伺指令

●勸業博覽會賞狀等へ御紋章ヲ附スル儀ニ付若手縣ヨリ宮内省へ伺

十七年三
月十九日

本年四月廿一日ヨリ六月九日マテ九十日間勸業博覽會開設候儀ハ會テ主務省へ御届仕置候就テ
ハ該會出品優劣ヲ審査シ其優等ナルモノハ夫々區分ヲ定メ賞狀賞牌及褒狀ヲ授與致度ニ付右賣品へ御紋章(菊御紋
章)ヲ附シ候條御届被降度別紙雜形五葉相副此段相伺候也
(別紙雜形略ス)

指令 十七年三月廿六日
書面伺之趣難問屆候事

●郡設共進會賞狀賞品へ桐章描畫ノ儀ニ付群馬縣ヨリ宮内省へ同十七年四月
本年九月一日ヨリ向二十日間管下佐位郡伊勢崎町ニ於テ開設ノ佐位郡波聯合共進會出品優等者へ附與優賞狀賞品
共桐章描畫致度旨該會發起者ヨリ出願候ニ付願意御許可相成度此段相伺候也

指令 十七年四月十六日
書面伺ノ趣ハ禁令ノ限ニ非サル儀ト可心得事

●郡役所屋上へ菊御章掲出ノ儀ニ付靜岡縣ヨリ宮内省へ同十七年五月十七日
郡役所支關屋上へ菊御章相附シ不苦候儀

指令 十七年五月二十二日
伺之趣難問屆候事

●桐章ノ儀ニ付内務省ヨリ太政官へ同十六年七月四日

菊章ノ儀ニ就テハ度々御達ノ次第有之候處桐章ノ儀ハ是迄何等御達等無之右ハ一般社寺ニ於テ相用不苦儀ニ候儀往々伺出之向等有之取扱方差支候條此段相伺候也

指令 十六年八月一日
伺之趣桐章ノ儀ハ相用不苦儀ト可心得事

●桐章使用ノ件(和歌山縣)伺明治二十一年十月十八日(電報)

縣下ニ於テ開キタル品評會賞狀ニ五七ノ桐章用フルモ苦シカラスヤ

(宮内省)指令明治二十一年十月十九日(電報)

品評會賞狀ニ桐章ヲ用フルハ禁令ノ限ニアラス

第五十二章 街路、乗合馬車、營業人力車及宿屋取締規

則標準

十九年六月十四日
内務省訓令第十七號 警務部

乗合馬車人力車宿屋ノ營業及街路ニ於ケルヤ警察上各其取締ノ方法ヲ設ケサル可カラス而シテ民度ノ高低土地ノ都鄙ニ由リ其間自ラ寬嚴ノ差ナキヲ得サルモノナレハ必スシモ各地畫一ノ制ヲ要セスト雖モ大體ニ於テ其則ヲ取ル所ナカルハカラス依テ今般街路乗合馬車營業人力車及宿屋取締ノ件ニ付別冊ヲ編制シテ其標準ヲ示ス各地方ニ於テ各其標準ノ趣旨ニ從ヒ便宜増損規則ヲ設ケ本省ノ認可ヲ經テ施行ス可シ

別冊

○街路取締規則標準

第一章 通則

第一條 街路ト稱スルハ道敷及道敷ニ沿フタル下水並橋梁トス

第二條 本則ハ市街ノ道路ニ適用スヘキモノトス

第三條 本則ニ於テ自費ヲ以テ爲スヘキ義務ヲ怠ルトキハ官ニ於テ執行シ其費用ヲ徴收スヘシ

第二章 街路ノ安寧及保存

第四條 街路ニ建物、軒檐、旗柱、招牌、物干等ヲ設ケ或ハ出スヘカラス

第五條 左ノ諸件ニ係ルモノハ街路ニ出スコトヲ得ヘキモノトス

一 釣看板ハ地盤ヲ距ル一丈以上ニ限リ二尺以內

第六類 警察及取締

- 二 軒檐ハ地盤ヲ距ル九尺以上ハ二尺、六尺以上ハ一尺五寸以内
- 三 日除ハ支柱ヲ用ヒス地盤ヲ距ル七尺以上ニ限り三尺以内
- 四 掲燈ハ地盤ヲ距ル六尺以上ニ限り一尺以内
- 第六條 左ノ事項ハ其場ノ圖面ヲ添ヘ管轄廳ニ願出允許ヲ受クヘキモノトス
 - 一 街路ニ床店、簀葎張ヲ設クル事
 - 二 街路ニ樹木ヲ植ヘ又ハ街燈ヲ建ツル事
 - 三 街路ニ柵欄支柱ヲ設ケ又ハ箇止石ヲ置ク事
 - 四 街路ニ華表碑表及指道標其他公衆ノ用ニ供スル標識ヲ建設スル事
 - 五 街路ニ目塗土置場ヲ設クル事
 - 六 工事ノ爲メ一時街路ニ竹、木、土、石類ヲ置キ或ハ板圍、繩張、足代ヲ設ケ其他街路ヲ使用スル事
 - 七 街路ヲ經テ建物ヲ移シ又ハ街路ヲ壅塞スヘキ長大ノ物件ヲ運搬スル事
 - 八 一時街路ニ舞臺(神佛祭典等ノ節)小屋掛(歲市草市等ノ節)及店飾ヲ設クル事
 - 九 街路ニ神輿山車又ハ手踊屋臺ヲ出ス事
 - 十 神佛送迎ノ爲メ街路ニ飾物ヲ出シ又ハ奉納物ヲ牛車ニテ運搬スル事
 - 十一 街路ニ消防具其他公衆ノ用ニ供スル物件ヲ置ク事
 - 十二 工事ノ爲メ一時通行ヲ停止スル事
 - 十三 車馬通行停止ノ傍示アル場所ニ車馬ヲ出入スル事

- 第七條 街路ヲ使用シ之ヲ毀損シタル者ハ直ニ原形ニ復スヘシ
- 第八條 街路ニ出タル軒檐ニハ軒繩及懸繩ヲ設クヘシ其懸繩ハ街路ノ地盤ニ設クルコトヲ得ス但檐溜ノ下水ニ落ルモノハ此限ニアラス
- 第九條 街路ニ沿フタル宅地ニシテ奥行九尺以上ノ空地アル場所ハ其模樣ニ依リ道敷ノ境界ニ墻塼ヲ設クヘキモノトス
- 第十條 街路ニ沿フタル場所ニ竹木ヲ立置クトキハ鐵鎖其他強韌ナル繩索ヲ以テ之ヲ纏束シ又薪炭其他ノ物件ヲ堆積スル者ハ頓仆セサル懸堅牢ノ裝置ヲ爲スヘシ
- 第十一條 街路ニ沿フタル建設物及樹木等崩壞、頓仆ノ虞アルモノハ速ニ修理撤却若クハ扶植伐採スヘシ
- 第十二條 街路ニ竹、木、土、石類ヲ置クトキハ標識ヲ設クヘシ
- 第十三條 運搬中ノ建物若クハ長大ノ物件ヲ夜中街路ニ停メ置クトキハ路傍ニ片寄セ標燈ヲ掲クヘシ
- 第十四條 街路ノ井戸ニシテ通行ノ妨害ヲ爲スヘキモノト認ムルトキハ地並ニ堅牢ナル蓋ヲ以テ之ヲ覆ハシムヘシ
- 第十五條 道路、橋梁、溝渠、下水ヲ毀損壅塞シ街路樹木ヲ伐採シ又ハ街燈ヲ破毀消滅スヘカラス
- 第十六條 制札、指道標、便所及塼壁等ヲ毀棄汚損シ又ハ樂書、貼紙ヲ爲スヘカラス
- 第十七條 街路ニ家畜ヲ放置シ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第十八條 街路ニ商、品、薪炭、荷車其他ノ物件ヲ列シ又ハ出シ置クヘカラス

第十九條 街路ニ於テ荷造木挽其他ノ作業ヲ爲シ又ハ爲サシムヘカラス

第二十條 街路ニ於テ火器ヲ弄シ又ハ焚火ヲ爲スヘカラス

第二十一條 街路ニ於テ濫ニ放歌シ若クハ喧嘩シ高聲ヲ發シ又ハ偃臥スヘカラス

第二十二條 街路ニ於テハ管轄廳ヨリ指定シタル區域ノ外露店屋臺店ヲ出スヘカラス

第二十三條 行商ニ用フル荷車ハ長サ八尺巾三尺屋臺店ハ長サ六尺巾三尺ヲ超過スヘカラス

第三章 街路ノ清潔

第二十四條 街路ハ常ニ清潔ニ掃除ヲ爲シ塵芥雜草ヲ存スヘカラス

第二十五條 街路ノ積雪ハ午前八時迄ニ掃除スヘシ但午前八時後日没迄ノ降雪ハ降歇後直ニ掃除スヘシ

第二十六條 掃除シタル雪ハ河海下水其他妨害ト爲ラサル場所ニ投棄スヘシ

第二十七條 炎天及風日ニハ時々街路ニ淨水ヲ洒クヘシ但冬季ハ風日ト雖モ午前九時前午後三時後ハ水ヲ洒クヘカラス

第二十八條 汚水ヲ街路ニ洒注スヘカラス

第二十九條 下水ハ毎年二回以上浚渫スヘシ其浚ヒ揚ケタル淤泥、溝芥等ヲ街路ニ布キ又ハ路傍ニ留置クヘカラス

第三十條 街路ニ於テ便所ニアラサル場所ニ大小便ヲ爲シ又ハ爲サシムヘカラス

第三十一條 街路ニ於テ敷物、疊、穀類其他塵埃ヲ掃フヘカラス

第三十二條 街路ヲ運搬スル物品ハ墜落、漏出又ハ飛散セシムヘカラス

第三十三條 街路ニ臨ミタル屋根、物干又ハ窓手摺等ニ襤褸其他見苦敷若クハ危険ナル物品ヲ置クヘカラス

第四章 街路ノ通行

第三十四條 牛馬及諸車ハ夜中燈火ナクシテ疾驅スヘカラス

第三十五條 馬車及牛車ハ幅員三間以内ノ街路ヲ通行スヘカラス但其街路ニ沿フタル家屋ニ出入スル者ハ此限ニアラス

第三十六條 車ハ小兒車ヲ除クノ外其種類ノ如何ヲ問ハス路押ノミニテ運轉スヘカラス

第三十七條 末口ノ尖リタル竹木等ヲ運搬スルトキハ其末口ヲ細束スヘシ

第三十八條 牛馬諸車ハ車馬道ノ設アル地ハ左側其設ナキ地ハ中央ヲ通行スヘシ

第三十九條 牛馬諸車ヲ並ヘ輓キ又ハ濫ニ疾驅シテ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第四十條 車二輛以上ヲ連繫シテ輓クヘカラス但長大ノ物件ヲ運搬スル爲メ數車ヲ連結スルハ此限ニアラス

第四十一條 牛馬二頭以上ヲ連繫シテ牽クヘカラス但賣買等ノ爲メ輸送スル此牛馬ハ限ニアラス

第四十二條 車馬及歩行者行途フトキハ互ニ左ニ避ケ軍隊并砲車、輜重車ニ對シテハ

右ニ避ケヘシ

第四十三條 實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ

第四十四條 前車徐行シ後車疾行セントスルトキハ後車ヨリ相當ノ合圖ヲ爲シ前車ハ

左ニ避ケ後車ハ右ヲ通過スヘシ

第四十五條 郵便用、消防用ニ供スル車馬及ヒ灌水車又ハ葬送等ニ行送フトキハ避讓スヘシ

第四十六條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角橋上ヲ通行スル車馬ハ徐行スヘシ

第四十七條 車馬街角ヲ通行スルトキハ右ハ大廻リヲ爲シ左ハ小廻リヲ爲スヘシ

第四十八條 牛馬諸車其他ノ物件ヲ道路ニ横ヘ若クハ妨害物ヲ軌道ニ置クヘカラス

第四十九條 制止ヲ肯ンセスシテ出火場其他雜沓ノ場所ニ牛馬諸車ヲ牽入ルヘカラス

第五十條 街角橋上其他往來ノ妨害ト爲ルヘキ場所ニ牛馬諸車ヲ駐止スヘカラス

第五十一條 街路ニ佇立シ又ハ空車ヲ輓テ彷徨シ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第五十二條 街路ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ嘯シ又ハ驚逸セシメ若クハ殘虐ニ扱フヘカラス

第五十三條 街路ニ於テ看護人ナク五年未滿ノ小兒ヲ遊歩セシメ又ハ遊戯ヲ爲サシムヘカラス

第五十四條 街路ニ於テ紙屑ヲ揚ケ又ハ獨樂、羽子、手毬等ヲ弄シ若クハ其他ノ遊戯ヲ爲スヘカラス

第五十五條 街路ニ於テ軍談、煙業其他ノ人寄セヲ爲スヘカラス

第五十六條 人道車馬道ノ區別アル場所ニ在リテ牛馬諸車ヲ人道ニ牽入レ又ハ濫ニ車

馬道ヲ歩行スヘカラス但人道ニ於テ小兒車ヲ推シ又ハ居住者ニシテ牛馬及空車ヲ其地内ニ出入シ若クハ許可ヲ受ケ地盤ニ相當ノ構造ヲ爲シテ實車ヲ出入スル者ハ此限ニアラス

○乗合馬車取締規則標準

第一章 通則

第一條 乗合馬車營業ヲ爲サントスル者ハ管轄廳ニ願出免許證ヲ受クヘシ

第二條 營業者ニ關スル願届ハ總テ願取ノ加印ヲ要ス

第三條 營業者ハ馭者馬丁ノ族籍住所氏名年齢ヲ管轄廳ニ届出一人ニ付鑑札一箇ヲ受クヘシ

第四條 營業者自カラ馭者馬丁ノ業ヲ爲サントスルトキハ總テ馭者馬丁ノ例ニ從フヘシ

第五條 馭者馬丁ノ鑑札ハ毎年一回管轄廳ノ検査ヲ受クヘシ其検査ヲ受ケサルモノハ無効タルヘシ

第六條 車體及馬匹ハ毎年二回管轄廳ノ検査ヲ受ケ其證ヲ受クヘシ其買受證ヲ爲シ又ハ車體ヲ新造改造シタルトキハ定期ニ拘ラス検査ヲ受クヘシ

第七條 左ノ場合ニ於テハ管轄廳ニ届出書換又ハ再渡ヲ請フヘシ

- 一 轉居、改氏名其他免許證、車馬檢査證、鑑札面ニ異動ヲ生シタル時
- 二 免許證、車馬檢査證鑑札ヲ遺失、毀損シ又ハ其文字不分明ニ至リタル時
- 第八條 左ノ場合ニ於テハ管轄廳ニ届出免許證、車馬檢査證又ハ鑑札ヲ返納スヘシ
 - 一 廢業又ハ車馬ノ使用ヲ廢シタル時
 - 二 車馬ヲ賣渡シ又ハ讓渡シタル時
 - 三 取者馬丁ヲ解僱シ又ハ取者馬丁ノ失踪逃亡若クハ死去シタル時
- 第九條 免許證、檢査證鑑札ハ之ヲ貸與スヘカラス
- 第十條 馬車ヲ運轉スルニハ取者馬丁ヲ缺クヘカラス
- 第十一條 乘客ノ員數ハ車體、馬力ニ應シ之ヲ定メ管轄廳ノ認可ヲ受クヘシ
- 第十二條 車馬檢査證ハ檢査毎ニ之ニ檢印ヲ受ケ馬匹檢査證ハ其頸輪ニ結着シ車體檢査證ハ車體内部ノ見易キ所ニ釘付スヘシ
- 第十三條 檢査證アル車馬ト雖モ第十五條第十六條ノ制限ニ適セス又ハ其車體器具ノ破損若クハ不潔ニ至リ或ハ馬匹疾病衰弱ノ狀アルヲ認ムルトキハ其使用ヲ差止ムヘキモノトス
- 第十四條 營業者ハ檢査證鑑札各一箇ニ付管轄廳ニ於テ定ムル手数料ヲ納ムヘキモノトス
- 第二章 車體馬匹及器具
- 第十五條 車體ハ堅牢ニシテ其構造及附屬品ハ左ノ制限ニ從フヘシ
 - 一 車ハ四輪以上ニシテ適當ナル駐車器ヲ備フヘキモノトス
 - 二 車體ハ無地漆塗ニシテ其屋根ハ木製ノモノトス
 - 三 客座ハ清潔、適當ノ裝置ヲ爲スヘキモノトス但一人ノ座席ハ巾一尺二寸ヲ下ルヘカラス
 - 四 車輪ニハ泥除ヲ設クヘキモノトス
 - 五 車體前面ノ兩側ニハ硝子燈ヲ備フヘキモノトス
 - 六 運轉器、心棒、發條、力革、手綱及其他ノ器具ハ堅牢、強韌ノモノヲ用フヘキモノトス
 - 第十六條 馬匹ハ五歳以上ニシテ強壯ナルモノニ限ルヘシ
 - 第十七條 馬匹ニハ檢査證ヲ結着スル爲メニ頸輪ヲ設クヘシ
- 第三章 取者馬丁ノ資格及服裝
- 第十八條 取者ハ滿二十年以上馬丁ハ滿十八年以上ニシテ身體強壯ナル者且取者ハ取術ニ熟達スル者ニ限ルヘシ
- 第十九條 前條ノ資格ニ適合スト雖モ醉狂又ハ暴行ノ癖アル者若クハ強竊盜、強姦及過失ニアラサル殺傷罪ヲ犯シタル者ハ取者馬丁タルコトヲ得ス其他ノ犯罪ト雖モ監視中ノ者亦同シ
- 第二十條 取者馬丁ハ左ノ制限ニ從ヒ地方毎ニ一定ノ服裝ヲ爲スヘキモノトス
 - 一 取者 帽子、筒袖、ツボン、靴

- 第六類 警察及取締
- 二百七

二 馬丁 帽子又ハ笠、法被、股引但雨雪泥濘ノトキハ半股引及ゴム引又ハ桐油製ノ雨具ヲ用フルモ妨ナシ

第四章 馭者馬丁就業制限

第二十一條 鑑札及乗合馬車取締規則ヲ所持シ警察官吏又ハ乗客ニ於テ見ンコトヲ求メタルトキハ直ニ之ヲ示スヘシ

第二十二條 頰冠リ鉢巻其他不體裁ノ形裝ヲ爲スヘカラス

第二十三條 馭者ハ馬車ヲ離ルヘカラス但馭者避クヘカラス事故アルトキハ馬丁ヲシテ馬車ノ管守ヲ爲サシムヘシ

第二十四條 老幼及婦女昇降ノ際ハ懸篤ニ保護ヲ爲スヘシ

第二十五條 乗客着席シ又ハ降車シ畢リタル後ニアラサレハ車ヲ進行スヘカラス

第二十六條 乗客中粗暴ノ所爲アルトキハ之ヲ制止シ若シ肯セサルトキハ降車セシムヘシ

第二十七條 馭者臺ニ客ヲ乗載シ又ハ屋根ニ物品ヲ載スヘキ構造ヲ爲サシテ物品ヲ載スヘカラス

第二十八條 行車中ハ飲食又ハ喫煙ヲ爲スヘカラス

第二十九條 制止ヲ肯セス出火場其他群集ノ場所ニ馬車ヲ入ルヘカラス

第三十條 他人ヲシテ馬ヲ馭セシムヘカラス

第三十一條 行人ニ對シ言語動作ヲ以テ乘車ヲ勸メ又ハ侮慢ノ言行ヲ爲スヘカラス

第三十二條 馬車ヲ並ヘ馳セ又ハ濫ニ疾驅シ若クハ競走スヘカラス

第三十三條 馬車ノ通行及避讓方ハ左ノ例ニ從フヘシ

一 車馬道ノ設ケアル場所ハ左側其設ケナキ場所ハ中央ヲ通行スヘシ

二 車馬及歩行者ニ行逢フトキハ左ニ避ケ軍隊并砲車輜重車ニ對シテハ右ニ避ケヘシ

三 實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ

四 前車徐行シ後車疾行セントスルトキハ後車ヨリ相當ノ合圖ヲ爲シ前車ハ右ニ避ケ後車ハ左ヲ通過スヘシ

五 郵便用消防用ニ供スル車馬及灌漑水車又ハ葬送等ニ行逢フトキハ避讓スヘシ

第三十四條 二車以上引續キ行進スルトキハ後車ハ前車ヨリ相當ノ距離ヲ取ルヘシ

第三十五條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角、橋上ヲ通過スルトキハ徐行シ相當ノ合圖ヲ爲シ且馬丁ヲシテ前行セシムヘシ街角ニ於テハ右ハ大廻リヲ爲シ左ハ小廻リヲ爲スヘシ

第三十六條 街角橋上其他往來ノ妨害ト爲ルヘキ場所ニ於テ客ヲ昇降セシムヘカラス

第三十七條 馬匹ヲ殘虐ニ使用スヘカラス

第三十八條 夜中燈火ナクシテ行車スヘカラス

第三十九條 車體馬匹ハ常ニ清潔ニスヘシ

第四十條 定員三分一以上ノ乗客アルトキハ正當ノ理由ナクシテ出車ヲ拒ムヘカラス

第四十一條 乘客降車ノ際ハ其遺留品ナキヤニ注意シ若シ之アルトキハ直ニ返付スヘシ其主分明ナラサルトキハ速ニ最寄警察署分署又ハ巡查交番所派出所ニ届出ヘシ

第五章 乘車制限

第四十二條 定員外ノ客ヲ乘載スヘカラス但十年未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ト看做シ三年未滿ノ者ハ定員外トス

第四十三條 左ニ記載シタル者ハ乘載スヘカラス

- 一 六種傳染病、疥癬、癩病、其他乘客ニ於テ厭忌スヘキ病狀アル者
- 二 瘋癲者暴行者亂醉者及乞食體ノ者
- 三 汚穢物其他惡臭ヲ發シ又ハ汚穢ノ虞アル物品
- 四 獸類

第六章 賃錢及駐車場

第四十四條 賃錢額ハ組合ニ於テ之ヲ定メ管轄廳ノ認可ヲ受ケ車内及駐車場ノ見易キ所ニ揭示スヘシ

第四十五條 何等ノ名義ヲ以テスルモ乘客ニ對シ賃錢定額外ノ金錢ヲ請求スヘカラス

第四十六條 駐車場ニハ(乗合馬車駐車場)ト記シタル標識ヲ設ケヘシ

第四十七條 駐車場ノ外車馬ヲ置クヘカラス

第四十八條 駐車場ノ地盤ハ石、煉化石、敲キ又ハ板ヲ敷キ且馬尿溜ヲ設ケヘシ

第四十九條 駐車場ハ日々掃除ヲ爲シ常ニ清潔ナラシムヘシ

第七章 營業組合

第五十條 馬車營業者ハ管轄廳ノ指定シタル區域ニ從ヒ組合ヲ設ケヘシ

第五十一條 組合ニ入ラサル者ハ馬車營業ヲ爲スコトヲ得ス

第五十二條 各組合ハ組合保證金トシテ管轄廳ニ於テ定ムル金額ヲ管轄廳ニ納ムヘシ但適宜公債證書、國立銀行預リ券ヲ以テ納ムルコトヲ得

第五十三條 管轄廳ニ納メタル組合保證金ハ組合中ノ營業者及馭者馬丁營業上ニ關シ他人ニ被ヲシメタル損害ノ償ヒ等ニ充用スルコトアルヘシ

第五十四條 組合保證金ニ缺額ヲ生シタルトキハ十日以内ニ之ヲ完納スヘシ若シ之ヲ完納セサルトキハ組合營業ノ効ヲ失フモノトス

第五十五條 組合ニ於テハ其規約ヲ定メ管轄廳ノ認可ヲ受ケヘシ

第五十六條 營業者ハ組合ニ關スル費用ヲ負擔スヘシ其費額及割賦方ハ規約ヲ以テ定ムルモノトス

第五十七條 組合ニハ頭取一人ヲ置クヘシ頭取ハ組合營業者中ヨリ之ヲ公選シ管轄廳ノ認可ヲ受ケヘシ

第五十八條 組合頭取ニ於テ取扱フヘキ事項左ノ如シ

- 一 組合保證金ニ關スル事
- 二 營業ニ關スル諸規則命令ヲ營業者ニ通知スル事
- 三 組合營業者ノ願屈ニ加印シ意見アルモノハ其旨ヲ記シ添申スル事

第六類 警察及取締

二十年四月
内務省訓令
第二十號
ニテ
貯金預金
ノ八字ヲ
ノ八字ヲ

- 四 營業者及取者馬丁名簿ヲ製シ増減アル毎ニ之ヲ加除スル事
- 五 組合ニ關スル費用ヲ取立及之ヲ仕拂フ事
- 六 組合ニ關スル諸費ヲ決算シ之ヲ組合ニ報告スル事
- 七 頭取ノ選舉ニ關スル事務ヲ取扱フ事

右ノ外規約ヲ以テ定メタル事項

第五十九條 左ノ資格ニ適合スル者ニアラサレハ組合頭取タルコトヲ得ス

- 一 年齢二十五年以上ニシテ組合区域内ニ相當ノ家屋若クハ土地ヲ所有スル者
- 二 營業ニ關スル諸規則ヲ解讀シ筆算ニ通スル者

第六十條 前條ノ資格ニ適合スト雖モ強竊盜及詐欺取財ノ罪ヲ犯シタル者ハ頭取タルコトヲ得ス其他ノ犯罪ト雖モ監視中ノ者亦同シ

第六十一條 管轄廳ニ於テ組合頭取ニ不都合ノ所爲アリト認ムルトキハ臨時改選セシムルコトアルヘシ

○營業人力車取締規則標準

第一章 通則

第一條 人力車營業トハ輓子ヲシテ車ヲ輓カシメ營業スルヲ云フ

第二條 前條ノ營業ヲ爲サントスル者ハ管轄廳ニ願出免許證ヲ受クヘシ

第三條 營業者ニ關スル願届ハ總テ取締人ノ加印ヲ要ス

第四條 營業者ハ輓子ノ族籍、住所、氏名、年齢ヲ管轄廳ニ届出一人ニ付鑑札一箇ヲ受

クヘシ

第五條 營業者自ラ車ヲ輓クトキハ總テ輓子ノ例ニ從フヘシ

第六條 輓子ノ鑑札ハ毎年一回管轄廳ノ検査ヲ受クヘシ其検査ヲ受ケサルモノハ無効タルヘシ

第七條 車體ハ毎年二回管轄廳ノ検査ヲ受ケ其證ヲ受クヘシ其新造、改造、又ハ買受讓受テ爲シタルトキハ定期ニ拘ハラヌ届出検査ヲ受クヘシ

第八條 左ノ場合ニ於テハ管轄廳ニ届出書換又ハ再渡ヲ請フヘシ

- 一 轉居改氏名其他免許證車體検査證、鑑札面ニ異動ヲ生シタル時
- 二 免許證車體検査證鑑札ヲ遺失、毀損シ又ハ其文字不分明ニ至リタル時

第九條 左ノ場合ニ於テハ管轄廳ニ届出免許證車體検査證又ハ鑑札ヲ返納スヘシ

- 一 廢業又ハ廢車シタル時
- 二 人力車ヲ賣渡シ又ハ讓渡シタル時
- 三 輓子ヲ解備シ又ハ輓子ノ失踪逃亡若クハ死去シタル時

第十條 免許證車體検査證、鑑札ハ之ヲ貸與スヘカラス

第十一條 車體検査證ハ車ノ蹴込正面ニ釘付スヘシ

第十二條 検査證アル車ト雖モ第十八條ノ制限ニ適セス又ハ破損若クハ不潔ニ至リタルヲ認ムルトキハ其使用ヲ差止ムヘシ

第十三條 營業者ハ出願ノ際身元保證金トシテ管轄廳ニ於テ定ムル金額ヲ管轄廳ニ納

乗合馬車
準第五十二
條監視ニ全

ムヘシ但適宜公債證書、國立銀行預リ券ヲ以テ納ムルコトヲ得

第十四條 身元保證金ハ廢業又ハ營業禁止若クハ其組合ヨリ除名シタルトキハ之ヲ還付スヘシ

第十五條 管轄廳ニ納メタル身元保證金ハ營業者若クハ其輓子營業上ニ關シ他人ニ被ラシメタル損害ノ償ヒ等ニ充用スルコトアルヘシ

第十六條 身元保證金ニ缺額ヲ生シタルトキハ十日以内ニ完納スヘシ其缺額ヲ納メサルトキハ營業免許ノ効ヲ失フモノトス

第十七條 營業者ハ檢査證鑑札各一箇ニ付管轄廳ニ於テ定ムル手数料ヲ納ムヘキモノトス

第二章 車體ノ構造及輓子ノ資格

第十八條 車體ハ堅牢ニシテ其構造及附屬品ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一 一人乗ハ横巾内法二尺未滿二人乗ハ二尺以上トス

二 車體ハ無地漆塗、中張ハ革、天鵝絨羅紗等ヲ用フヘキモノトス

三 車體ニ同キ塗色ノ泥除ケヲ備フヘキモノトス

四 車體ノ背面中央ニ方一寸ノ楷字ヲ以テ組名及番號ヲ判明ニ記スヘキモノトス

五 ゴム引又ハ桐油製ノ母衣及前掛ヲ備フヘキモノトス

六 不潔ナラサル蒲團及膝掛ヲ備フヘキモノトス

七 組名及車體ノ番號ヲ記シタル細長提灯ヲ備ヘ且蠟燭、摺附木ヲ用意スヘキモノトス

トス

第十九條 輓子ハ左ノ資格ヲ有スル者ニ限ルヘシ

一 年齡滿十八年以上ニシテ身體強壯ナル者

二 其土地ノ路程ヲ略知スル者

第二十條 前條ノ資格ニ適合スト雖モ強竊盜、強姦及幼者ヲ略取誘拐スル罪若クハ過失ニアラサル發傷罪ヲ犯シタル者ハ輓子トスルヲ得ス其他ノ犯罪ト雖モ監視中ノ者亦同シ

第二十一條 輓子ハ左ノ制限ニ從ヒ地方毎ニ一定ノ服裝ヲ爲スヘシ

一 着服ハ法被、股引、但雨雪泥濘ノトキハ半股引ヲ用フルモ妨ケナシ

二 冠リ物ハ帽子又ハ笠

三 雨具ハゴム引又ハ桐油製

第二十二條 法被冠リ物、雨具ニハ組合及鑑札ノ番號ヲ記スヘシ

第三章 輓子就業制限

第二十三條 輓子ハ鑑札及營業人力車取縮規則并賃錢表ヲ所持シ警察官吏又ハ乘客ニ於テ見シコトヲ求メタルトキハ直ニ之ヲ示スヘシ

第二十四條 頰冠リ鉢巻其他不體裁ノ形裝ヲ爲スヘカラス

第二十五條 路上ニ彷徨シ又ハ佇立スヘカラス

第二十六條 乘客ノ承諾ヲ得ス途中ニ於テ他車ニ乗セ替ヘ又ハ濫ニ駐車スヘカラス

第二十七條 駐車場ノ外人力車ヲ匿クヘカラス但乗客用辯ノ爲メ往來ノ妨害ト爲ラサル場所ニ駐車スルハ妨ナシ

第二十八條 乗客ノ指定セサル宿泊店、飲食店及其他ノ場所ニ輓入ヘカラス

第二十九條 制止ヲ肯セスシテ出火場其他群集シタル場所ニ輓入ヘカラス

第三十條 行人ニ對シ言語動作ヲ以テ乗車ヲ勸メ又ハ侮慢ノ言行ヲ爲スヘカラス

第三十一條 車ヲ並ヘ輓キ又ハ濫ニ疾驅シテ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第三十二條 人力車ノ通行及避讓方ハ左ノ例ニ從フヘシ

一 車馬道ノ設ケアル場所ハ左側其設ナキ場所ハ中央ヲ通行スヘシ

二 車馬及歩行者ニ行逢フトキハ左ニ避ケ軍隊並砲車輻重車ニ對シテハ右ニ避ケヘシ

三 實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ

四 前車徐行シ後車疾行セントスルトキハ後車ヨリ懸ケ聲ヲ爲シ前車ハ左後車ハ右ヲ通過スヘシ

五 郵便用、消防用ニ供スル車馬及灌 waters 車又ハ葬送等ニ行逢フトキハ避讓スヘシ

第三十三條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角、橋上ヲ通過スルハ徐行スヘシ且街角ヲ過クルトキハ右ハ大廻リヲ爲シ左ハ小廻リヲ爲スヘシ

第三十四條 二輛以上ノ車ヲ連繫シテ輓クヘカラス

第三十五條 夜中燈火ナクシテ疾驅スヘカラス

第三十六條 街角、橋上其他往來ノ妨害ト爲ルヘキ場所ニ於テ客ヲ昇降セシムヘカラス

第三十七條 乗客降車ノ際ハ其遺留品ナキヤニ注意シ若シ之アリタルトキハ直ニ還付スヘシ其主分明ナラサルトキハ速ニ最寄警察署分署又ハ巡查交番所派出所ニ届出ヘシ

第四章 車賃

第三十八條 人力車ノ賃錢ハ組合ニ於テ之ヲ定メ管轄廳ノ認可ヲ受ケヘシ

第三十九條 何等ノ名義ヲ以テスルモ乗客ニ對シ賃錢定額外ノ金錢ヲ請求スヘカラス

第四十條 瀟車停車場其他群集ノ場所ニ至ラントスルトキハ到着前其賃錢ヲ請求スルヲ得

第四十一條 乗客ニ於テ單ニ行先ヲ示シ其道筋ヲ定メサルトキハ最近ノ路程ニ依リ賃錢ヲ計算スヘシ

第五章 乗車制限

第四十二條 一人乗ニ二人、二人乗ニ三人以上ヲ乘載スヘカラス但十年未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ト見做シ三年未滿ノ者ハ定員外トス

第四十三條 左ニ記載シタル者ハ人力車ニ乘載スヘカラス

一 六種傳染病、疥癬、癩病患者及乞食體ノ者

二 汚穢物其他車ヲ汚染シ又ハ惡臭ヲ留ムヘキ物品

三 車體外ニ限出スヘキ長大ノ物品

第六章 駐車場

第四十四條 駐車場ヲ分テ左ノ二種トス

- 一 分設駐車場(一 般營業人ニ於テ駐車スヘキモノヲ云フ)
- 二 私設駐車場(一 人又ハ數人ニテ設立シ其專用ニ屬スルモノヲ云フ)

第四十五條 公設駐車場ハ管轄廳ニ於テ之ヲ定メ標示スヘシ私設駐車場ヲ設クル者ハ管轄廳ニ届出認可ヲ受クヘシ

第四十六條 客ノ乗用ニ應シ難キ人力車ハ駐車場ニ置ヘカラス

第四十七條 公設駐車場ニ於テハ到着順ヲ以テ整列シ各車ノ間ニ距離ヲ取り出車ニ妨ケナキヲ要ス

第四十八條 公設駐車場ニ在ル人力車ハ整列ノ順序若クハ關取ヲ以テ出車スヘシ但客ノ特ニ指示シタル場合ハ此限ニアラス

第四十九條 客ヨリ求メアリタルトキハ正當ノ理由ナクシテ出車ヲ拒ムヘカラス但暴行者及看護人ナキ瘋癲人ハ此限ニアラス

第五十條 私設駐車場ハ組合取締人ノ烙印ヲ受ケタル標識ヲ設クヘシ

第七章 營業組合

第五十一條 人力車營業者ハ管轄廳ニ於テ指定シタル區域ニ從ヒ組合ヲ設クヘシ
第五十二條 組合ニ入ラサル者ハ人力車營業ヲ爲スコトヲ得ス

第五十三條 組合ニハ取締人一人ヲ置クヘシ取締人ハ組合營業者中ヨリ公撰シ管轄廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五十四條 組合ニ於テハ其規約ヲ定メ管轄廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五十五條 取締人ニ於テ取扱フヘキ事項左ノ如シ

- 一 人力車營業ニ關スル諸規則命令ヲ營業者ニ通知スル事
- 二 私設駐車場ノ標識ニ烙印スル事
- 三 組合營業者ノ願届ニ加印シ意見アルモノハ其旨ヲ記シ添申スル事
- 四 營業者名簿ヲ製シ増減アル毎ニ之ヲ加除スル事
- 五 組合ニ關スル費用ヲ取立及之ヲ仕拂フ事
- 六 組合ニ關スル諸費ヲ決算シテ之ヲ組合ニ報告スル事
- 七 取締人ノ撰擧ニ關スル事務ヲ取扱フ事

第五十六條 營業者ハ組合ニ關スル費用ヲ負擔スヘシ其費額及割賦方ハ規約ヲ以テ定ムルモノトス

第五十七條 左ノ資格ニ適合スル者ニアラサレハ取締人タルコトヲ得ス

- 一 年齢二十五年以上ニシテ組合區域内ニ相當ノ家屋若クハ土地ヲ所有スル者
- 二 組合營業者ニシテ人力車十輛以上ヲ所有スル者
- 三 營業上ニ關スル諸規則類ヲ解讀シ筆算ニ通スル者

第六類 警察及取締

第五十八條 前條ノ資格ニ適合スト雖モ強竊盜及詐偽取財ノ罪ヲ犯シタル者ハ取締人タルコトヲ得ス其他ノ犯罪ト雖モ監視中ノ者亦同シ

第五十九條 管轄廳ニ於テ取締人ニ不都合ノ所爲アリト認ムルトキハ任期中ト雖モ臨時改選セシムルコトアルヘシ

○宿屋取締規則標準

第一章 通則

第一條 宿屋ヲ分テ旅人宿下宿屋木賃宿ノ三種トス

第二條 宿屋營業ヲ爲サントスル者ハ其種類ヲ記シ營業用ニ供スル建物坪數及間取ヲ記シタル明細圖面ヲ以テ管轄廳ニ願出允許ヲ請フヘシ其間取坪數ヲ變更増減シタルトキハ圖面ヲ以テ届出認可ヲ受クヘシ

第三條 左ノ各項ニ觸ル、者ハ允許ヲ與ヘス

- 一 未丁年者ニシテ後見人ナキ者
- 二 白痴瘋癲者

三 強竊盜及詐偽取財ノ罪ヲ犯シタル者又ハ其他ノ罪ヲ犯シ監視中ノ者

四 風俗ヲ紊ルヘキ所爲アリト認メタル者

第四條 改氏名又ハ廢業シタルトキハ其旨管轄廳ニ届出ヘシ

第五條 宿屋營業者ヘ看板ヲ店頭ニ掲ケ旅人宿木賃宿ハ夜中標燈ヲ以テ之ニ代フヘシ

第六條 宿引ヲ出シ客ヲ誘引スヘカラス

第七條 宿泊人ノ所有品ハ特ニ其寄託ヲ受ケサルモ紛失セサル様注意スヘシ

第八條 宿泊人ノ承諾ナクシテ來訪者其他ノ者ヲ濫ニ其室内ニ入ラシムヘカラス

第九條 宿泊人疾病ニ罹ルトキハ醫藥食物等其求メニ應シ特ニ懇切ニ取扱フヘシ

第十條 宿泊人變死ニ係リ又ハ其所有品紛失シタルトキハ即時所轄警察署分署又ハ巡查交番所派出所若クハ巡行ノ巡查ニ届出ヘシ

第十一條 宿泊料ノ抵償トシテ私擅ニ宿泊人ノ所有品ヲ押收又ハ受領スヘカラス

第十二條 宿泊人ニ遊興ヲ勸メ又ハ宿泊料外ノ金錢ヲ得ル目的ヲ以テ客ノ求メナキ飲食物ヲ供スヘカラス

第十三條 宿泊料其他宿泊人ニ關スル緊要ノ事項ハ帳場及客室ニ揭示スヘシ

第二章 旅人宿

第十四條 旅人宿ハ客室二十五坪以上アル家屋ニ於テ營業スル者ニ限ルヘシ

第十五條 客室ハ充分ニ光線ヲ取り且空氣ヲ流通セシムヘシ

第十六條 客室毎ニ堅固ナル錠前附ノ押入又ハ戸柵ヲ設クヘシ

第十七條 二階以上ノ客室十五坪以上アルモノハ階子二箇以上ヲ設クヘシ但階子ノ幅ハ四尺以上タルヘシ

第十八條 便所ハ臭氣ノ客室ニ及ハサル所ニ設ケ屎尿ヲ受容スヘキ部分ハ石、敲キ、陶器等ヲ以テ構造スヘシ但構造上特ニ認可ヲ得タルモノハ此限ニアラス

第十九條 便所ハ日々清潔ニ掃除ヲ爲スヘシ

第六類 警察及取締

第二十四條 下宿屋トハ一箇月ノ賄料、座敷料等ヲ約定シテ寄寓セシムルモノヲ云フ
第二十五條 下宿屋ハ客室十坪以上アル家屋ニ於テ營業スルモノニ限ルヘシ
第二十六條 下宿屋營業者ハ下宿人投宿後二十四時間内ニ其下宿人ト連署ノ上、下宿

人ノ族籍住所氏名年齢并下宿ノ事由ヲ記シタル届書ニ通テ所轄警察署又ハ分署ニ差
出シ一通ニ其捺印ヲ受ケ所持スヘシ

第二十七條 第十六條第十七條第十八條第十九條ハ下宿屋ニ付テモ亦之ニ適用ス
第二十八條 下宿人ノ族籍氏名ヲ記シタル木札ヲ店頭又ハ門戸ニ掲出スヘシ

第二十九條 下宿人他ヘ轉宿シ又ハ五日以上外泊シテ其所在ノ不分明ナルトキハ其旨
所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第四章 木賃宿

第三十條 木賃宿營業ハ場所ヲ定メ許可スヘキモノトス

第三十一條 宿泊人滯在中外泊シタル者アルトキハ其旨ヲ帳簿ニ記シ置クヘシ

第三十二條 宿泊人届出方ハ第二十三條ノ例ニ從フヘシ

第五十四章 漉入紙製造取締規則

朕漉入紙製造取締規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
二十年七月二十五日布告
勅令第三十六號

御名 御璽

明治二十年七月二十三日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文
大藏大臣伯爵松方正義

勅令第三十六號

漉入紙製造取締規則

第一條 文字畫紋ヲ漉入レタル紙ヲ製造スル者ハ現品ノ見本ヲ添ヘ管轄廳東京府ハ二届
警視廳出ヘシ違フ者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二條 紙幣兌換銀行券公債証書大藏省証券其他政府發行ノ証券ニ類似ノ文字畫紋又
ハ凸ニ文字畫紋ヲ漉入レタル紙ヲ人民ニ於テ製造スルコトヲ禁ス違フ者ハ十圓以上
百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三條 此規則ハ本年九月一日ヨリ施行ス

○文字畫紋漉入紙製造者届出書式

二十年八月十六日
大藏省令第十二號

文字畫紋ヲ漉入レタル紙ヲ製造スル者ハ一種毎ニ現品二葉ヲ添ヘ左ノ雛形ニ據リ届書
二通ヲ管轄廳東京府ハ
警視廳ニ差出スヘシ管轄廳又ハ警視廳ハ一通ヲ留メ置キ一通ヲ當省ヘ送
送スルモノトス

雛形(用紙半紙)

漉入紙製造届

一何々漉入紙

右製造仕候間現品相添此段御届仕候也

年月日

廳府縣長官宛

貫籍

何 某印

第七類 監獄

第五十五章 監獄則

明治十四年九月十九日
第八十一號官省院使廳府縣へ達

明治五年達監獄則及本年三月第十三號達在監人給與規則同月第七
規則ヲ合セテ別冊ノ通監獄則相定候條此旨相達候事

但明治十五年一月一日以後施行ノ刑法治罪法ニ關涉スル條件ハ同日ヨリ施行スヘシ
(別冊)

監獄則

第一編

第一章 汎則

第一條 監獄ヲ別テ左ノ六種ト爲ス

一 留置場 裁判所及ヒ警察署ニ屬スルモノニシテ未決者ヲ一時留置スルノ所トス
但時宜ニ由リ拘留ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘留スルコトヲ得

二 監倉 未決者ヲ拘禁スルノ所トス

三 懲治場 懲治人ヲ懲治スルノ所トス

四 拘留場 拘留ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘留スルノ所トス

五 懲役場 懲役ノ刑及ヒ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘禁スルノ所トス

六 集治監 徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ニ處セラレタル者ヲ集治スルノ所トス

北海道ニ在ル本監ハ徒刑流刑ニ處セラレタル者ヲ集治ス

第一條 監獄ハ刑務官ノ管轄ニ屬ス但陸海軍ノ管轄ニ屬スルモノハ此限ニ在ラス
第三條 監獄ハ内務卿之ヲ管轄ス
知事(知事)縣令之ヲ管理ス

第四條 此獄則ハ特ニ陸海軍ノ獄則ヲ以テ處スヘキモノニ適用スルコトヲ得ス
第五條 内務卿ハ毎年其所屬官吏ヲシテ各監獄ヲ巡閱セシムヘシ

警視總監府知事縣令ハ毎年三四次所轄ノ監獄ヲ巡閱スヘシ
裁判官檢察官ハ時々其裁判所ニ屬スル監倉ヲ巡閱スヘシ
府縣會議員ハ臨時其府縣監獄ヲ巡閱スルヲ得

第六條 在監人ト稱スルハ未決已決ノ者及ヒ第十九條第三十條ニ記載シタル者ヲ云フ
第七條 在監人ヨリ司獄官吏ノ處置ニ對シ若シ情苦ヲ訴ヘントスルトキハ第五條第一

項第二項ニ記載シタル官吏巡閱ノ際封書又ハ口述ヲ以テ申告スルコトヲ得
第二章 監署ノ規定

第八條 司獄官吏在監人ヲ管束スルハ一ニ和平ヲ乘リ罰例ニ照シテ犯則者ヲ決責スル
ノ外恣ニ責罰スルヲ得ス
第九條 典獄監守長ハ日夜不時ニ監房ノ内外ヲ視察シ或ハ物件ヲ査閱シ其他囚徒ノ傲

惰ヲ生シ脱越等ノ事ナカラシムルヲ要ス
第十條 新ニ入監スル者アルトキハ典獄先ツ拘引狀拘留狀收監狀又ハ處刑宣告書等ノ
文書ヲ査閱シテ之ヲ領シ其領収ノ證ヲ引致シ來タル者ニ交付ス其文書ナクシテ引致

セラレタル者ヲ入監スルヲ得ス
未決者ノ中共犯人アルトキハ其監局ヲ別異シ談話通譯ヲ禁シ法庭ニ引致ノ時モ同往
セシムルヲ得ス
已決囚ハ第十六條ニ記載シタル差別ニ從ヒ其監房ヲ別異ス

第十一條 入監ノ婦女乳兒(三歲未滿)ヲ携帶セント請フ者アルトキハ之ヲ許ス

第十二條 新ニ入監スル者アルトキハ名籍ノ標本ニ照シ其要項ヲ詳録シ一小房内ニ於
テ通身ヲ搜檢シ利器其他ノ物件ヲ夾帶スルヲ拒クヘシ懲治人ノ監舎ニ入ルトキモ亦
同シ

第十三條 總テ監房ニ入ル、物品ハ典獄一々之ヲ精驗シ其危險ノ虞アルモノハ一切之
ヲ禁スヘシ

第十四條 總テ入監人ノ携有スル財貨物件ハ悉ク點檢シテ其名數ヲ簿冊ニ記載シ典獄
一々證印シテ之ヲ領置シ釋放ノ時還付スヘシ但點檢ノ際隱匿セシ貨物ハ沒収ス

第十五條 在監人書籍ヲ看ント請フトキハ新聞紙及ヒ時事ノ論說ヲ記載スルモノヲ除
キ修身又ハ營業ニ必要ナルモノ、ミナ許スヘシ

第十六條 已決囚ハ各刑名ニ從テ其監房ヲ別異シ又其中ニ就テ左ニ記載シタル者ヲ別
異ス
一 十六歳未滿ノ者ト滿十六歳以上ノ者

二 滿十六歲以上二十歲未滿ニシテ再犯以上ノ者ト同上ノ年齢ニシテ初犯ノ者

第十七條 要犯疑獄ニ係ル者ヲ拘禁スル未決監ニ於テハ其氏名ヲ呼ハス番號ヲ以テ之ニ換フヘシ但著衣ノ外襟ニ白布ヲ縫著シ其番號ヲ墨書シ監房ヲ出入スル毎ニ皂布ヲ以テ覆面シ當眼ノ所ニ小孔ヲ穿テ共犯者ヲシテ共ニ拘禁ノ身タルヲ窺探スルヲ得サラシム

第十八條 放恣不良ノ者ヲ懲治場ニ入レ矯正歸善セシメント其尊屬親ヨリ願出ルトキハ第二十條第一項ノ例ニ照シテ處分スヘシ

第十九條 懲治人ト稱スルハ左ニ記載シタル者ヲ云フ
一 刑法第七十九條第八十條第八十二條ニ從ヒ懲治場ニ留置スル幼年ノ者及ヒ瘡癩

者

二 尊屬親ノ情願ニ由テ懲治場ニ入ルル者

第二十條 前條第二款ニ記載シタル懲治人ハ戶長ノ證票ヲ具スルニ非レハ入場ヲ許サズ但在場ノ時間ハ六個月ヲ一期トシ二年ニ過ルヲ得ズ

入場ヲ請ヒシ尊屬親ヨリ懲治人ノ行狀ヲ試ル爲メ宅舎ニ帶往セント請フトキハ其情狀ニ由リ之ヲ許スヘシ

第二十一條 懲治人ハ左ノ年齢ニ從ヒ其居房ヲ別異ス

一 十六歲未滿ノ者ト滿十六歲以上ノ者

二 滿十六歲以上二十歲未滿ニシテ再ヒ懲治場ニ入ル者ト同上ノ年齢ニシテ初テ入場スル者

第二十二條 在監人ヲ他監ニ移ストキハ其名籍又ハ處刑ノ宣告書其他必用ノ文書及ヒ領置ノ貨物ヲ具シテ送致スヘシ其發遣ノ途中ニ在テノ行狀ハ押送官吏之ヲ記述シテ典獄ニ知會スヘシ

在監人ヲ裁判所又ハ他監ニ押送スルトキハ戒具ヲ用ヒ男ト女ヲ別ツヘシ但懲治人ハ戒具ヲ用ヒス

第二十三條 典獄ハ看守長及ヒ看守ヲシテ常ニ在監人ノ行狀ヲ録サシメ賞罰ヲ行フノ考據トスヘシ

第二十四條 賞表ヲ與ヘタルトキハ賞譽簿ニ其氏名及ヒ賞詞ヲ記載シ褫奪シタルトキハ之ヲ削除スヘシ但其賞罰ヲ行ヒタル旨ヲ囚徒ニ示スハ第二十六條ノ例ニ依ルヘシ

第二十五條 特赦アリタルトキハ速ニ其旨ヲ内務卿ニ申報スヘシ

第二十六條 特赦ヲ受タル者アルトキハ免役日若クハ日曜日ノ午後ニ在テ他ノ囚徒ヲ集メ其旨ヲ聽カシメ仍ホ之ヲ揭示スヘシ

第二十七條 假出獄ヲ許サレタル者ニハ證票ヲ與ヘ最近ノ警察署ヘ護送スヘシ

監署ニ領置セシ金錢ハ出獄者ニ携帶セシメス其金員ヲ錄シテ居住スヘキ地ノ警察署ニ送致スヘシ

十七年内務
刑法第三十三號
送致

其居住スヘキ地ノ隔遠スル者ニハ途中支用トシテ前項ノ金員若干ヲ交付スヘシ

第二十八條 假出獄免幽閉ヲ受タル徒刑流刑ノ者其刑期間ハ典獄ニ於テ營業ノ方法ヲ指示シ其來署ヲ要スルトキハ召喚スルコトヲ得

第二十九條 在監人中能ク獄則チ守ル者ヲ撰テ傳告者誘工者トナス傳告者ハ官吏ノ命令ヲ在監人ニ傳ヘシメ誘工者ハ工場ニ在テ服役者ヲ勸誘セシム但傳告者誘工者ハ滿六ヶ月以上其用務ヲ繼續セシムルヲ得ス

傳告者及ヒ誘工者ハ私ニ在監人ヲ使役シ若クハ凌辱スルノ所爲アルヲ許サス

第三十條 刑期滿限ノ後賴ルヘキ所ナキ者ハ其情狀ニ由リ監獄中ノ別房ニ留メ生業ヲ營マシムルヲ得

第三十一條 刑期滿限ノ者ヲ解放スルハ滿期ノ翌日午前第十時ヲ過ヘカラス

第三十二條 死刑ノ執行ハ午前第十時ヲ過ルヲ得ス其執行中ハ看守ヲシテ嚴ニ刑場ノ門戸ヲ護ラシムヘシ

其遺骸ハ死相ヲ驗シタル後仍ホ二分時ヲ過カレハ埋葬若クハ下付スルコトヲ得ス

第三十三條 刑死者又ハ死亡者アルトキハ其年月日時ヲ記シ典獄ヨリ本籍ノ戶長及ヒ近地ノ親屬若クハ故舊ニ通知スヘシ其監署ニ領置シタル貨物ハ親屬ニ下付ス若シ親屬ナキトキハ遺骸ヲ領取シタル故舊ニ之ヲ下付ス但死者ノ身ニ纏ヒタル衣服ハ此限ニ在ラス

親屬遠地ニ在テ物品ヲ送付スルニ入費ヲ要スルモノハ其物品ヲ販賣シテ代價ヲ送付

スルコトヲ得但送費ハ親屬ノ自辨トス

若シ其物件又ハ代價ヲ受リヘキ者ナキトキハ之ヲ沒收ス

第三十四條 在監人逃走スル者アル時領置ノ貨物ハ前條ノ例ニ依テ處分スヘシ但沒收ハ逃走ノ日ヨリ滿一個年ヲ經ルノ後ニ非レハ之ヲ處分スルヲ得ス

領置ノ工錢ハ第五十七條ニ照ラシテ處分スヘシ

第三十五條 監獄ノ近境ヨリ發火ヲ罹災ノ虞アルトキハ司獄官吏其形勢ヲ量リ在監人ヲ他所ニ押送シ其災ヲ避シムヘシ

水火風震其他激甚ナル變災ニ際シ在監人ヲ押送スルノ違ナキトキハ要犯疑獄ニ係ル者ヲ除クノ外一時解放スルヲ得

第三章 監獄ノ構造

第三十六條 留置場監倉懲治場拘留場懲役場ハ每府縣ニ置キ集治監ハ適當ノ地ニ之ヲ置クモノトス

留置場監倉懲治場拘留場懲役場一區畫内ニ在ルモノハ牆壁ヲ以テ之ヲ區畫スヘシ

第三十七條 未決監已決監及ヒ懲治場ハ男監女監ノ別ヲ嚴劃スヘシ

甲ノ監房ニ在ル者ト乙ノ監房ニ在ル者ト彼是交談シ又ハ物件ヲ交遞スルノ便ヲ得サラシムヘシ各監房ノ鑰匙ハ其製式ヲ同クシ甲乙適用スルヲ要ス

第三十八條 密室ハ監倉ニ設ケ他人ト交通スルコトヲ得サラシムヘシ
閻室ハ已決監ニ設ケ暗ニ空氣ヲ通セシメ毫毛光線ヲ通セシメサルヲ要ス

密室間室ハ一室一人ヲ限トス

第三十九條 接見室ハ監舎ノ首部ニ設ケ其壁面ニ方三尺ノ口ヲ開キ之ニ縱横ノ格子ヲ嵌メ格子ヨリ三尺許ヲ距リ柵欄ヲ設ケ在監人ハ格子内ニ立シメ外人ハ格子外ノ柵欄ニ倚ラシムヘシ但懲治人ノ接見室ハ此例ヲ用ヒス

第四十條 燈火ハ監房外ニ置キ障得スルノ虞ナカラシムヘシ

第四十一條 死刑場ハ監獄ノ一隅ニ設ケ牆壁ヲ以テ外見ヲ防シヘシ

第二編

第一章 役法附時限

第四十二條 定役ニ服スル者ノ作業ハ刑名ニ因テ之ヲ斟酌シ毎四一日ノ科程ヲ定メテ服役セシム滿十二歳以上十六歳未滿ノ者滿六十歳以上ノ者及ヒ病後ノ疲勞若シハ身體ノ虛弱ニ因リ勞作ニ勝ヘサル者ハ體力ニ應シテ作業ノ科程ヲ寬恕ス

若シ已ムヲ得ズ外役ニ服セシムルトキハ鐵鎖ヲ用テ二囚毎ハ聯結シ笠ヲ用テ(晴雨ヲ問ハス)其面ヲ掩ハシム但外役ノ囚徒ハ一組十人以上十五人以下ト定メ看守一人押丁二人以上ヲシテ之ヲ監テセシム

外役ノ囚徒道路往來スル時ハ務メテ他人通行ノ妨ト爲ラサシムルヲ要ス

第四十三條 毎日囚徒ヲシテ役ニ就カシムルニ際シ悉ク之ヲ監房外ニ整列セシメ看守長及ヒ看守點檢ヲナスヘシ歸監セシムル時モ亦同シ

第四十四條 左ニ記載シタル日ハ服役ヲ免ス父母ノ喪ニ遭フ者モ亦一日免役ス

一月一日

孝明天皇祭

一月二日

紀元節

元始祭

春季皇靈祭

神武天皇祭

秋季皇靈祭

神嘗祭

天長節

新嘗祭

十二月三十一日

第四十五條 囚徒ノ專習スヘキ工業ハ授業手若クハ工業殊等ノ囚ヲシテ之ヲ導カシム

其刑期一年以下ノ者ニハ習熟シ易キ工業ヲ授ルヲ要ス

第四十六條 定役ニ服セサル囚徒ト雖モ典獄之ヲ勸誘シテ其將來ノ生業ヲ計リ攝生又

ハ親屬扶助ノ爲メ勞作セント請フニ至ラシムルヲ要ス其工業ノ種別ヲ定ムルハ典獄

ノ指示ニ依ル

未決監ニ在ル者坐作ノ業ヲ爲サント請フトキモ亦同シ

第四十七條 懲治人ニハ教誨ニ充ル爲メ服役時間表ニ準シ七時ニ過キサル時間(休憩時 間ヲ除)

農業若クハ工藝ヲ教ヘ力作セシムヘシ

○時限

第四十八條 未決者及ヒ定役ニ服セサル囚徒ハ毎朝日出ノ頃ニ起床シ各其監房ヲ掃

除シ畢リ喫飯セシム又毎日一時間以内監房外ニ於テ運動ヲ許ス

第四十九條 定役ニ服スル者ハ毎朝日出ノ頃ニ起床シ各其監房ヲ掃除シ畢テ喫飯セシ

ム其起床ヨリ約于一時間ヲ經テ役ニ就カシメ午前十時前後ニ至テ湯若クハ水ヲ與ヘ

正午十二時ニ至リ休役ス飯後暫時休憩シ再ヒ就役日没前罷役セシム其時間ハ別表ニ

示ス

之ヲ定ム但時宜ニ由リ其時間ヲ伸縮スルヲ得
起床還房及ヒ就役罷役其他ノ動止ヲ令スルハ鈴若クハ柝ヲ以テシ全監一齊ニ動止セ
シム

第五十條 科程ヲ終リタル者ハ時限ニ拘ハラズ罷役セシム

午飯ニ就カシムルノ際科程ノ大半ヲ爲シ得タルヤ否ヲ檢視スヘシ若シ偷懶ニシテ怠
役スル者ハ飯後ノ休息ヲ許サス

第二章 工錢

第五十一條 定役ニ服スル囚徒現役一百日ヲ經レハ始テ各自ノ工錢ヲ料定シ之ヲ十分
シテ重罪囚ニハ其一分輕罪囚ニハ其二分ヲ與ヘ餘分ハ之ヲ監署ニ収ム

定役ニ服セサル囚徒及ヒ未決者并ニ第十九條第一款ニ記載シタル懲治人ニシテ作業
スル者ノ工錢ハ十分シテ其三分ヲ監署ニ收メ其七分ヲ與フ定役ニ服スル囚徒ニシテ
當日ノ科程ヲ畢テ仍ホ作業スル者科程外ノ工錢ハ之ニ準ス

第五十二條 尊屬親ノ情願ニ由テ懲治場ニ入スル者其尊屬親ヨリ衣食費ヲ自辨スル者
ノ工錢ハ其全分ヲ與ヘ衣食費ヲ自辨スルコト能ハサル者及ヒ刑期滿限ノ後頼ルヘキ所
ナリシテ監署傍ノ別房ニ留置シタル者ハ其工錢ノ内ヨリ衣食費ヲ扣除シ餘分ハ之ヲ
與フ

第五十三條 在監人ニ與フヘキ工錢ハ監署ニ領置シ毎月ノ首ニ於テ其前月ノ總計金額
ヲ本人ニ知ラシムヘシ

第五十四條 各種ノ工錢ハ其地普通ノ傭工錢ヲ準トシ各自ノ技能ニ應シ一日若干錢ト
定ムヘシ

第五十五條 監署ニ領置ノ工錢ハ本人ノ請ニ由リ親屬ニ贈與スルヲ許シ又ハ書籍其他
必要ノ物品及ヒ第六十九條ニ從ヒ食物ヲ購ヒ之ヲ給スルコトヲ得

第五十六條 在監人死亡シ監署ニ領置ノ工錢アルトキハ親屬ニ下付ス親屬ナキトキハ
遺骸ヲ領取シタル故舊ニ下付ス若シ下付ヲ受ヘキモノナキトキハ之ヲ沒收ス

第五十七條 在監人若シ逃走シタルトキハ已決囚ノ工錢ハ之ヲ沒收ス未決者及ヒ懲治
人ノ工錢ハ其親屬ニ下付ス親屬ナケレハ之ヲ沒收ス

第三章 徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ヲ受タル囚徒押送

第五十八條 徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ヲ受タル者アルトキハ其宣告書ノ附書ヲ具シテ内
務卿ニ申報シ其指揮ニ從ヒ警察遞傳ヲ以テ集治監ニ押送スヘシ

北海道集治監ニ於テ管束スヘキ徒流刑ノ囚徒ハ本監官吏ノ臨時派出シタル地マテ押
送スヘキモノトス

第五十九條 北海道ニ在ル集治監ハ毎歲三四次官吏ヲ派出シ前條第二款ノ例ニ從ヒ押
送シタル徒流刑ノ囚徒ヲ受取ヘシ

第六十條 徒刑流刑ノ囚徒ヲ押送スル時ハ戒具ヲ用ヒ男囚ト女囚トヲ別ツヘシ遞船中
ニ在テハ戒具ヲ用ヒサルモ妨ケナシ

第四章 假出獄免幽閉ノ者ニ貸與スル屋舎

得但一日金五錢ヲ過ルニトテ得ス

第七十條 在監六日用ノ雜費（浴槽掃除又ハ炊用ノ薪炭）ハ一人一日金一錢二厘以下トス

第七十一條 監房常置ノ器具

一貯水器并ニ飲器

木製

一唾壺

同

一便器

木製大小二種但蓋房ニ厨間ノ接

一小箒

織スルモノニハ此器ヲ用ヒス

一洗手盆

木製

第七十二條 浴湯ノ定度ハ毎年六月ヨリ九月マテハ五日毎ニ一次十月ヨリ五月マテハ

十日毎ニ一次トス

第七十三條 已決囚及ヒ懲治人ノ髪ハ常ニ之ヲ短雅シ髭鬚アル者ハ常ニ剃除セシム但

未決者ハ此限ニ在ラス

婦女ノ梳髪ハ膏ヲ用メテ裝飾スルヲ許サス

第七十四條 衣類雜具其他ノ物品ハ種質ニ由リ時々熱湯ヲ用ヒテ之ヲ濯ヒ臭氣ヲ去リ

蟲害ヲ防クヲ要ス但病者ノ物品ト混一シテ之ヲ晒洗スヘカラス

第二章 疾病 附死亡

第七十五條 在監人疾病ニ罹レハ病狀ノ輕重ヲ料リ其監房若クハ病室ニ於テ醫療セシ

懲治場ニ在ル者ハ情狀ニ由リ其親屬ニ交付スルコトヲ得

第七十六條 病者ノ攝養ニ効アル飲食物又ハ温ヲ取ル湯藥等ヲ用ルコトヲ要スルトキ

ハ醫師ヲシテ其旨ヲ證明セシメ典獄之ヲ考檢シテ許否スヘシ

第七十七條 傳染病侵襲ノ兆アルトキハ其消毒豫防ヲ緘密ニスヘシ若シ在監人中傳染

病者アルトキハ直ニ病性及ヒ感染ノ形狀ヲ詳悉シ醫師ノ診察書ヲ副ヘ各其所属長官

ニ報告スヘシ

○死亡

第七十八條 在監人死亡スレハ典獄看守長醫師并葢テ之ヲ驗屍スヘシ

未決者又ハ已決囚ニシテ別故アリ再ヒ訊問ニ係ル者死亡シタルトキハ之ヲ其裁判所

ニ申報スヘシ

第七十九條 死者ノ親屬若クハ故舊第三十三條ニ記載シタル時限ヨリ二十四時以内ニ

在テ遺骸ノ下付ヲ請フトキハ之ヲ請シ其者ヲシテ簿冊ニ署名押印又ハ花押セシムヘ

シ

遺骸ヲ請フ親屬故舊ヲキトキハ棺ニ入テ假葬シ其上ニ氏名標ヲ建ツヘシ其標ハ約テ

面三寸長三寸五寸トス

第三章 書信

第八十條 已決囚其親屬故舊ニ信書ヲ贈ルハ六個月間ニ一次トシ一通ニ過ルニトテ得

ス但其他官司ノ訊問等ニ由テ書信ヲ要スルトキ又ハ親屬故舊ニ回答セント請ヒ司獄

官吏ニ於テ法律ニ觸ルコトナク且必用ト認メタルハ此限ニ在ラル

第八十一條 未決者ニ係ル信書ハ定限ナシ但豫審判事又ハ檢事ノ檢閲ヲ經ルニ非レハ贈答セシムルヲ得ス

第八十二條 懲治人及ヒ幼年ノ已決囚其親屬故舊ニ贈ル信書ハ一個月一次トシ一通ニ過ルコトヲ得ス

第八十三條 在監人ノ獲スル信書ハ典獄之ヲ檢閲スヘシ若シ書中忌諱ニ涉ル等ノ文意アルトキハ通信ヲ許サス

第八十四條 外人ヨリ在監人ニ贈リ來タル信書ハ典獄之ヲ檢閲シ適正ノ事項ヲ陳ヘ又ハ選善ノ諭示ヲ主トシタルモノニ限り之ヲ本人ニ付與ス若シ在監人ノ改悛ヲ妨ルモノイ認ルトキハ之ヲ付與セス

第八十五條 信書ヲ檢閲スルハ先ツ直行ヲ順讀シ次ニ逆讀斜讀又ハ横讀シ嫌疑ノ文意アリヤ否ヲ詳查スヘシ

第八十六條 在監人ヨリ獲スル信書ハ必ス書信紙ヲ用ヒシメ典獄之ヲ緘シ封皮ニ其受領スヘキ者ノ住所氏名ヲ書シ某監獄署ト記シ之ヲ遞送ス但郵便稅ハ自辨セシム親屬故舊若クハ辨護人ノ信書ハ監獄署ニ宛テ之ヲ差出サシムヘシ

第四章 接見

第八十七條 在監人ニ接見セント請フ者アルトキハ典獄先ツ之ニ面接シテ其氏名族籍營業等ヲ訊ヒ其緣由ヲ詳悉シ止ムヲ得サルノ事情アリテ形跡ノ疑フヘキトキヤトキ

ハ之ヲ許シ看守長看守并蒞テ面會セシム但密室ニ在ル者ハ接見ヲ許サス
面會ノ時間ハ三十分時ヲ過ルヲ得ス若シ面會ヲ請ヒシ旨趣ニ違フ談話ヲナシタルトキハ直ニ之ヲ停止ス

第八十八條 死刑ノ執行及ヒ徒刑流刑禁獄ノ刑ヲ受タル囚徒ヲ集治監ニ押送ノ以前親屬故舊其囚徒ニ面會セシト請フトキハ前條第一項ノ例ニ依テ之ヲ許ス但面會ノ時間ハ五十分時ヲ過ルヲ得ス

第五章 差入品

第八十九條 未決者及ヒ懲治人ニ其親屬故舊ヨリ書籍用紙衣服臥具又ハ飲食物(炊煮ヲルモノニシテ一人一食ノ量ニ限ル)ヲ贈ラント請フトキハ之ヲ許ス但酒又ハ煙草其他衛生ニ害アルモノハ此限ニ在ラス

第九十條 已決囚ニハ書籍用紙ノ外一切差入品ヲ許サス

第九十一條 假出獄免幽閉ヲ受タル徒刑流刑ノ者親屬故舊ヨリ金錢衣服家具等ノ寄贈ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ典獄ニ申告セシムヘシ

第四編

第一章 教誨

第九十二條 已決囚及ヒ懲治人教誨ノ爲メ教誨師ヲシテ悔過遷善ノ道ヲ講セシム

第九十三條 教誨ハ免役日又ハ日曜日ノ午後ニ於テ其講席ヲ開クモノトス

第九十四條 懲治人ニハ毎日三四時間讀書習字算術度量圖書等ノ科目中ニ就キ之ヲ教

學科ハ懲治場ノ教場ニ於テ之ヲ研究セシメ其學業ノ進歩ヲ表スル爲メ就學ノ年月卒業ノ科目學業ノ優劣及ヒ行狀ノ真否氏名年齢等ヲ簿冊ニ記載シ巡閱官吏ノ檢閲ニ供シ又ハ其尊屬親ニ示スコトアルヘシ

第九十五條 各監房内ニ左ノ諸款ヲ揭示シ傍訓釋義シテ解シ易カラシムヘシ若シ文字ヲ識ラサル者アレハ入監ノ時ヨリ二十四時内ニ於テ之ヲ讀ミ聽カスヘシ

揭示

- 一 在監人ハ常ニ教令ヲ謹守スヘシ
- 一 平日互ニ和順ヲ主トシ教誨聽聞ノ席ニ就クトハ慎テ容止ヲ正フスヘシ(未決監ニハ此款ヲ除ク)
- 一 毎朝父母若クハ其墳墓所在ノ方位ニ向テ禮拜スヘシ
- 一 毎朝常用ノ諸器具ヲ清潔ニシ之ヲ排列シテ點檢ヲ受ケ及ヒ席壁厠圍等ヲ掃除スヘシ
- 一 窓壁若クハ物件ヲ汚損シ不淨器ノ外ヘ唾キ時水ヲ濫用スルヲ禁ス
- 一 監外ニ出タル時其途上ニ於テ同往ノ者ト交談シ及ヒ手ヲ交ヘ或ハ路人ニ聲語スルヲ禁ス
- 一 夜間ハ最モ鎮靜ヲ主トシ說話或ハ發聲又ハ濫リニ起步スルヲ禁ス但晝間ト雖モ放歌喧噪又高聲ニ誦讀スルヲ禁ス
- 一 許可ヲ得サル物品ヲ監房ニ置キ或ハ賂負ヲ施ヒ若クハ賭博類似ノ惡戯ヲナシ或ハ

同房ノ者ニ汚辱ヲ蒙ラシメ猥褻ニ涉ルカ如キ所爲アルヲ禁ス

一 服役中其作業ニ關セサル他事ヲ交談シ及ヒ休憩ノ時間部外ノ工場ニ至ルヲ禁ス(未決監ニハ此款ヲ除ク)

一 許可ヲ得スシテ衣食其他ノ物件ヲ受與貸借スルヲ禁ス

一 監房ニ於テ異常ノ事アレハ晝夜ニ拘ラヌ直ニ看守所ニ通聲スヘシ

一 日没後ハ發病スルモ其症急劇ナルニ非レハ翌朝ニ至テ醫療ヲ乞フヘキモノトス若シ劇症ナルトキハ直ニ看守所ニ通聲スヘシ

一 獨居ノ者卒ガニ病ヲ發シタルトキハ監房ヨリ看守所ニ架スル所ノ繩器繩ヲ引キ以テ之ヲ報スヘシ

一 病者アルトキハ同房ノ者共ニ介保ニ力ヲ致スヘキハ勿論其看病人カラシムル者ノ切實ニ之ヲ看病スヘシ

一 水火風震等ノ際解放ニ遵フ者ハ其解放ノ時ヨリ二十四時内ニ監獄署又ハ警察署ニ其旨ヲ申出ツヘシ

一 右ノ諸款ニ違フ者及ヒ違フ者アルヲ知テ告ケサル者又ハ官吏ヨリ犯者ヲ問フニ當リ之ヲ舉ケサル者ハ其情狀ヲ量リ處分スヘキモノナリ

年月日

某監獄署

第二章 賞懲

第九十六條 已決囚獄則テ謹守シ且改悛ノ行爲著キ者ト典獄ニ於テ確認スルトキハ之

第二章 賞懲

第九十六條 已決囚獄則テ謹守シ且改悛ノ行爲著キ者ト典獄ニ於テ確認スルトキハ之

ヲ賞譽スヘシ

第九十七條 賞譽セシ者ニハ賞譽セシ毎コ之ヲ表スル爲メ獄衣ノ左袖^{肩背間}ニ方二寸曲ノ淺葱色ノ布ヲ縫着スヘシ

第九十八條 賞表ハ假出獄免幽閉又ハ特赦ヲ具狀スルノ考據ト爲スヲ得

第九十九條 賞表ヲ得タル者コハ二箇月ニ一次親屬故舊ニ接見及ヒ通信スルヲ許ス

第百條 已決囚若シ在監人ノ逃走ヲ密告又ハ捕得シ或ハ監獄ニ係ル水火災ヲ防禦シ人命ヲ救援シタル者アレハ金二十五錢以下ヲ賞與シ其賞金ハ監署ニ領置シ本人ノ請ニ由リ必用品又ハ食物ヲ購求スヘシ但シ第九十七條ノ賞表ヲ與フルノ限ニ在ラス

第百一條 未決監ニ在ル者前條ノ勞動アルトキハ之ヲ錄シテ檢察官及ヒ裁判官ノ參考ニ供スヘシ

第三章 懲罰

第百二條 懲治人第百條ニ適シタル勞動アルトキハ金二十五錢以下ヲ以テ適宜物品ヲ購ヒ之ヲ與フヘシ

一 絶信 親屬故舊ト書信接見ヲ絶ス

二 屏禁 晝夜他ノ監房又ハ工場ト隔絶シタル監房ニ獨居セシメ服役時限表ニ照シテ座作ノ役ヲ科ス

三 減食 常食ノ半若クハ其三分ノ二ヲ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス

四 閉室 閉室ニ入レ常食ノ半若クハ其三分ノ二ヲ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス仍ホ臥具ヲ禁ス

第百四條 絶信屏禁ハ有限若クハ無限ト爲シ減食閉室ハ七晝夜ヲ限トス

第百五條 懲治人及ヒ十六歳未滿ノ已決囚獄則チ犯ストキハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

一 獨愼 晝夜一室ニ獨居セシム

二 減食 常食ノ半以内ヲ減ス但菜ヲ減スルノ限ニ在ラス

第百六條 獨愼ハ七晝夜以内減食ハ三日以内トス

第百七條 未決者及ヒ拘留ノ刑ヲ受ケシ者赦令ニ順ハス或ハ同監ノ者ヲ煽惑シ又ハ其他ノ規則ヲ犯ストキハ所犯ノ輕重ヲ量リ第百三條第百五條ニ準據シ減食スルコトヲ得

第百八條 賞表ヲ有スル者處罰ヲ受タルトキハ賞表一個又ハ數個ヲ褫奪ス

第百九條 無期徒刑ノ囚徒逃走シ若クハ獄舎獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シ其他重罪輕罪ヲ犯シタルトキハ三年以上五年以下兩脚又ハ一脚ニ鉄ヲ施シ仍ホ鐵丸ヲ屬シタル鐵索ヲ其鉄ニ貫キ腰間ニ繚帶セシメ繚帶ノ所ニ下鍵ス但監房ニ在ルモ晝間ハ之ヲ施スモノトス

若シ再ヒ重罪ヲ犯シタルトキハ五年以上十年以下前項ノ例ニ照シ處罰ス

鐵丸ノ量ハ二百目以上一貫目以下トシ被罰者ノ體力ニ應シテ之ヲ施スルハ索尾ニ屬シ地上ヲ轉ハスモノトス其外役ニ服スルトキハ鐵丸ヲ除キ二人聯絆ノ法ニ從フ
第百十條 減食或ハ問室ノ罰ニ處スヘキ者アルトキハ醫師ヲシテ診視セシメ身體ニ妨ナキヲ證シテ後之ヲ行フヘシ

第百十一條 屏禁減食問室又ハ獨慎ノ罰ニ處シタル後ハ典獄若クハ看守長時々其動靜ヲ窺察シ狀況ニ由リ醫師及ヒ教誨師ヲシテ之ヲ問ハシムルコトアルヘシ
第百十二條 罰則ニ處セラレタル者改悛ノ狀著ル、トキハ之ヲ免スコトヲ得
第百十三條 假出獄免幽閉ヲ受タル徒刑流刑ノ者監署ノ命令ニ違背シタルトキハ七口以下之ヲ拘置スルコトヲ得
(書式畧ス)

○沖繩縣人民ノ徒流刑ニ處セラレタルモノノ發配所

年一甲五日
第四號官省院廳府縣へ送

沖繩縣人民ニ限り徒刑流刑ニ處セラレタルモノハ同縣下八重山島ニ發配スルヲ得ヘシ此旨相達候事

但囚人取扱方ハ舊慣ニ因リ沖繩縣令之ヲ管理スヘシ

○囚徒入監後金錢物品ヲ所持スル者處分

明治十四年八月十六日
內務省乙第三十九號警視廳府
廳(東京府ヲ除ク)集治監へ送

未日決監入監ノ際衣服ヲ檢査シ隱蔽物ヲ防クハ勿論ニ候得共若シ入監後金錢物品等隱ニ所持スル者有之時ハ獄則ニ依リ相當處分ノ上其金品(贓ニ係ルモ)悉ク沒収スル義ト心得ヘシ此旨相達候事

○重罪ノ囚徒工錢給與

明治十四年十二月二十三日
內務省乙第六十四號警視廳府縣(東京府ヲ除ク)へ送
監獄則第五十一條ニ重罪輕罪ノ囚徒ニ與フル工錢ノ區別有之候處現行律ニ依リ處刑セラレタル者ハ懲役七年以上ノ者ニ工錢ノ十分一ヲ給シ五年以下ノ者ニ十分ノ二ヲ給スヘシ此旨相達候事

○處刑宣告後犯人ヲ司獄官へ護送ノ際檢察官ヨリ宣告

書ノ謄本送達方
明治十五年三月六日
司法省丙第八號大審院裁判所警視廳府縣(東京府ヲ除ク)へ送
處刑宣告ノ後犯人ヲ司獄官へ護送セシムル際ニ於テハ監獄則ニ從ヒ檢察官ヨリ右宣告書ノ謄本ヲ司獄官へ送達スル義ト心得ヘシ此旨相達候事

○監獄中別房ニ留置シタル者監内諸則ヲ犯ストキ處分

方
明治十六年十二月二十日
第六十二號官省院廳府縣へ送
監獄則第三十條ニ依リ監獄中ノ別房ニ留置シタル者及ヒ刑法附則第三十二條ニ依リ別房ニ留置シタル者若シ監内ノ諸則ヲ犯ストキハ監獄則第百七條ニ準據處分スヘシ此旨相達候事

○假留監設置ニ付徒刑流刑及禁獄ノ刑ニ處セラレタル

十四年第六
十七號布告
刑則ヲ定ム

囚徒送致並聯合地方區分ヲ定ム

沖繩縣北海道三縣ヲ除クヘ達

明治十七年七月八日
内務省乙第三十號警視廳府縣(東京府

今般各假留監設置セラレ候ニ付徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ニ處セラレタル囚徒送致方及ヒ聯合地方ノ區分左ノ通り相定候條此旨相達候事

徒刑流刑禁獄送致方

一 徒刑流刑禁獄ノ刑ニ處セラレタル囚徒裁判確定セシ時ハ之ヲ管束セシ地方ヨリ警察遞傳ヲ以テ直ニ其聯合假留監ヘ押送スヘシ

但本監ノ都合ニ係リ典獄ヨリ其聯合地方ヘ囚徒押送ノ延期ヲ通知スルコトアルヘシ
聯合地方區分

一 兵庫假留監

京都府 大坂府 兵庫縣 滋賀縣 石川縣 富山縣 福井縣
鳥取縣 岡山縣 廣島縣 和歌山縣 德島縣 高知縣
奈良縣 香川縣

一 東京假留監

警視縣 神奈川縣 埼玉縣 群馬縣 千葉縣 茨城縣 栃木縣
三重縣 愛知縣 靜岡縣 山梨縣 岐阜縣 長野縣

一 宮城假留監

新潟縣 福島縣 宮城縣 岩手縣 青森縣 秋田縣 山形縣

一 三池假留監

長崎縣 福岡縣 大分縣 佐賀縣 熊本縣
宮崎縣 鹿兒島縣 山口縣 愛媛縣

○舊刑法ニ於テ懲役終身ノ囚徒刑限内罪ヲ犯シ地方監獄ニ拘禁中ノ方監獄ニ拘禁中ノ者假留監ヘ押送方

明治十七年八月十五日
内務省乙第三拾五號警視廳府縣(東京府沖繩縣北海道三縣ヲ除クヘ達

舊刑法ニテ處斷セラレタル懲役終身ノ囚徒刑限内更ニ罪ヲ犯シ地方監獄ニ拘禁中ノ者其裁判確定ノ上ハ本年當省乙第三拾號達ニ準シ直ニ假留監ニ押送スヘシ此旨相達候事

但新舊比照例ニ依リ新ニ懲役終身ノ刑ニ處セラレタル者モ本文ニ準スヘシ

○罰金ヲ輕禁錮十日以下ニ換ヘタル時警察署附屬ノ留置場ニ於テ執行

明治十七年七月十七日
内務省乙第三拾四號警視廳府縣(東京府ヲ除クヘ達

罰金ヲ輕禁錮ニ換ヘタル場合ニ於テ其日數十日以下ナル時ハ拘留ノ例ニ依リ警察署附屬ノ留置場ニ於テ執行スルコト得ル儀ト心得可シ此旨相達候事

○典獄副典獄書記看守長監獄醫旅費支給方

二十年二月十八日
内務省訓令第十號集治監假留監

集治監及假留監官制被定候ニ付テハ典獄副典獄書記看守長監獄醫ノ旅費ハ明治十九年(六月)閣令第十四號内國旅費規則ニ據リ官等相當ノ旅費ヲ支給スヘシ

看守免職旅費及滿年賜金給否

明治十六年五月八日
內務省乙第貳拾壹號警視廳府廳(東京)

明治十五年(七月)第四拾壹號公達ニ依リ巡查看守給助例實施ノ府縣ハ看守免職歸郷ノ旅費及ヒ滿年賜金ハ給與セサル儀ト可心得此旨相達候事

懲役終身ノ刑又ハ徒刑ニ處セラレタル女囚留置及其費用支辨方

明治十八年九月十日

內務省番外警視廳府廳(東京府沖繩縣北海道三縣ヲ除ク)ハ達

懲役終身ノ刑又ハ徒刑ニ處セラレタル女囚ハ當分地方監獄ニ留置シ其囚徒ニ係ル一切ノ費用ハ從前ノ通國庫費ヨリ支辨候條此旨相達候事

假出獄停止手續

明治十八年九月十日

司法內務兩省丙第七號警視廳府廳(東京府ヲ除ク)集治監ハ達

假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者アルハ左ノ手續ニ依リ處分スヘシ此旨相達候事
假出獄停止手續

第一條 假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者アルトキハ其裁判確定ノ後現ニ之ヲ管束スル所ノ典獄ニ於テ直チニ假出獄ノ停止ヲ申渡シ當初下付シタル假出獄ノ證票ヲ取上クヘシ

第二條 典獄ニ於テ假出獄ヲ停止シタルトキハ其事狀ヲ具シ內務司法兩卿ニ開申スヘシ

第三條 甲地方ニ於テ假出獄ヲ許シタル者ヲ乙地方ニ於テ停止シタルトキハ乙地方典獄ヨリ其事狀ヲ甲地方典獄ニ通知シ假出獄ノ證票ヲ送致スヘシ

第四條 前條ノ場合ニ於テ乙地方監獄ニ拘禁スルトキハ其監ノ漸入者トナシ本刑後刑共乙地方ニ於テ執行スヘシ
假出獄停止申渡式書

刑名
刑期

府縣族籍

何

某

年 齡

其方儀受刑以來獄則テ謹守シ改悛ノ狀著明ナルニ由リ何年 月 日假出獄ヲ許シ其證票ヲ與ヘタル處復タ重(輕)罪ヲ犯シ拘禁ニ就クヲ以テ其出獄ヲ停止シ證票取上候事

集治監
監獄署

典獄 何

某 印

府縣族籍

何

某

年 齡

其方儀何年 月 日某集治監
監獄署ニ於テ假出獄ヲ許シ其證票ヲ與ヘタル處復タ重(輕)罪ヲ犯シ拘禁ニ就クヲ以テ其出獄ヲ停止シ證票取上候事

輕(罪)ヲ犯シ拘禁ニ就クテ以テ其出獄ヲ停止シ證票取上候事
年月日
某 集治監
監獄署
典獄 何 某印

○假出獄宣告狀書式

十五年四月四日
内務省番外集治監典獄府縣典獄へ送

已決ノ囚ニ假ニ出獄ヲ許ストキハ別紙書式ニ倣ヒ宣告狀附與ス可シ此旨相違候事
別紙

假出獄宣告狀

某管下國町村番地某子弟妻女
族 籍
何 某

某年月日生
明治何年何月何年何ヶ月

其方儀明治何年月日某裁判所ニ於テ何刑若干期ノ言渡ヲ受ケ來ル明治何年月日ニ至
テハ滿期之處其受刑以來能ク獄則ヲ謹守シ改悛ノ狀相顯ハレ本刑々期モ已ニ四分ノ
三ヲ經過ス由テ其筋ノ允許ヲ受ケ假出獄差許候事

某 集治監
監獄署
典獄 何 某印

明治何年月日

○處刑者并囚徒死亡ノ者届出方

十九年二月二十日内務省
甲第四號府縣(東京府ヲ除ク)へ送

徒刑流刑禁獄ノ刑ニ處セラレタル者アルトキハ監獄則第五十八條ニ依リ申報シ及該囚
徒拘禁中死亡セルモノアルトキハ其都度届出來リシ處自今以後總テ其儀ニ及ハス但變
死ニ係ル者ハ從前ノ通届出ヘシ

○集治監假留監ノ囚徒變死者届出方

十九年二月二十日内務省
乙第一號集治監假留監へ送

其監拘禁ノ囚徒死亡スルモノアルトキハ其都度届出來リシ處自今以後其儀ニ及ハス但
變死ニ係ル者ハ從前ノ通届出ヘシ

○舊刑法處刑囚徒假留監へ押送方

十九年六月廿八日内務省訓令第十一號
警視廳府縣(東京府沖繩縣ヲ除ク)

舊刑法ニテ國事犯禁懲役五年以上及ヒ常事犯禁獄終身ニ處セラレタル囚徒地方監獄ニ
拘禁ノ者ハ十七年當省乙第三十號達ニ準シ直ニ假留監へ押送スヘシ

○集治監囚徒費用金額編入方

二十一年九月二十九日
内務省訓令第十九號

明治十七年本省乙第二十九號達ニ據リ集治監ニ入ルヘキ囚徒ニシテ府縣獄ニ在ル者ノ
費用トシテ交付スル金額ハ府縣會ノ議決ヲ經地方稅ノ收入支出ニ編入スルコトヲ得

○在監人ニ給與スル工錢ハ府縣會ノ議決ヲ經監獄費雜

入ニ編入

二十一年十月十六日
内務省訓令第二十二號警視廳府縣(沖繩縣ヲ除ク)

監獄則ニヨリ在監人ニ給與スル工錢ハ自今府縣會ノ議決ヲ經監獄費内譯ニ給與錢ノ目
ヲ設ケテ之ヲ支拂ヒ其工錢ハ監獄費雜入ニ編入スルコトヲ得

○監獄内建物ノ新築ニシテ稟請セス處分後報告スヘキ

種類ヲ定ム

明治二十一年十二月十四日
内務省訓令第二十六號
府縣へ

監獄内ノ建物ニシテ左ニ掲クルモノハ自今稟請ヲ要セス處分シテ後其位置ノ畧圖ヲ具シ一箇年取纏ノ翌年一月三十一日迄ニ報告スヘシ

- 一倉庫ノ新築
- 一物置ノ新築
- 一人民控所ノ新築
- 一小使部屋ノ新築
- 一監舎ニ属セサル厠ノ新築
- 一馬建ノ新築

○看守押丁ノ特別功勞アル者賞與方

明治二十二年一月十一日
内務省訓令第一號
府縣集治監留監へ

看守押丁ニシテ左ノ各項ニ該當スル者ハ明治二十一年十月内務省訓令第二十一號警察賞與規則ニ據リ功勞ノ適度ニ應シ金拾五圓以下ヲ賞與スヘシ

- 一反獄ヲ鎮制スルニ當テ其功勞著シキ者
- 二自己ノ監守ニ非ラサル在監人ニシテ逃走スル者ヲ捕獲シ其功勞著シキ者
- 三監獄内ノ水火風災及ヒ流行病ニ付其功勞著シキ者
- 四自己ノ危難ヲ顧ミス在監人ノ性命ヲ救援シタル者

●伺指令

●犯罪人ノ携帶スル三歳以上幼児處分之議ニ付兵庫縣ヨリ内務省へ伺
十五年十月廿七日

第一條 拘引狀拘留狀收監狀逮捕狀ヲ執行シ若クハ重罪輕罪ノ現行犯ヲ逮捕スル時ニ於テ被告人又ハ犯罪人三歳以上ノ幼児ヲ携帶シタルハ該兒ハ其被告人又ハ犯罪人所在地ノ戸長へ交付スルヲ順序トスル哉

第二條 果シテ前條ノ如クナレハ戸長ニ於テハ被告人及犯罪人所在地即チ其原籍ナレハ該兒ハ直ニ其親戚故舊へ引渡至當ト考量ス然ルニ若シ親戚故舊アラサル歟假令有之モ赤貧ニシテ養育之費ニ極ヘサルハ辛未六月廿日公布及六年四月廿四日第百三十八號公布ニ據リ預リ人ヲ需ムルモ該養育米ハ糶ニ糊口ノ一端ニ止リ被服其他ノ諸費ニ充ツル能ハサルヲ以テ預リ人無之ハ養育米ノ餘ハ實費支給ヲ以テ其人ヲ需メサルヘカラス然ルハ該費ハ官費ニ屬スヘキモナル哉將々地方稅教育費ニ歸スルモノナル哉

但養育年齡ハ本文公布ノ通滿十三年ヲ限界トシ可然哉
第三條 前條被告人及犯罪人所在地其原籍ニアラサルハ直ニ原籍戸長へ送致シ而シテ該送致ニ係ル諸費ハ其原籍ノ官費又ハ地方稅ニ歸スルモノナル哉
但無籍ナルハ第二條ニ據テ處理ス

指令 十六年七月廿一日

第一條 家元又ハ親族アルモノハ之ニ引渡スヘク其家元親族ナキモノハ伺之通

第二條 恤救規則ニ適當スルモノハ右規則ニ依リ救助シ若シ増費ヲ要スル歟又ハ該規則ニ適當セサルモノハ本文伺之通

但養育年齡ハ本文規則之通

第三條 家元又ハ親族ヲシテ引取人ヲ差出サシメ之ニ引渡スヘク若シ引取人難差出事情アル歟又ハ無籍ナルハ第二條指令之通取計フヘシ

●犯罪人ノ携帶セル幼児養育之儀ニ付青森縣ヨリ内務省へ伺
十六年四月四日

無籍ノ犯罪人三歳以上ノ小兒ヲ携帶セル者其子養育方ノ領客歳九月十三日電報ヲ以テ相伺候處同月廿二日恤救規則ニ據リ支辨スヘキ旨御指令ノ趣モ有之候處有籍ノ者ト雖モ原籍地ニアル者ハ無籍者ト同シク其犯人ノ令狀ヲ受ケタル地ノ戸長ニ於テ其兒ノ養育方ヲ引受ケサルヲ得サル領ト存候果シテ然ラハ右費用ハ犯罪者ノ親族ニテ辨償シ親族貧困ニテ難償ハ原籍町村協議費ニテ支辨シ其町村ニテ償兼候節ハ其地方稅教育費ヨリ支辨スル儀ト心得可然哉

指令 十六年七月廿一日

伺之趣其家元及親族共貧困ニシテ辨償シ能ハサル者ハ本籍地方稅教育費ヲ以テ支辨スヘキ

●救育方之儀ニ付愛知縣ヨリ内務省へ伺十六年五月四日

監獄則第十一條ニ入監ノ婦女乳兒(三歳未満)携帶セント請フ者アル者ハ之ヲ許ストアリ其三歳以上ニ至ル者ハ許サ
ル御趣意ニ有之茲ニ有籍又ハ無籍者ニテ娘嬢ノ者在監中分娩ス然ルニ該兒三歳以上ニ至ルモ無籍ハ勿論有籍ノ者ト雖モ引渡スヘク親戚モ無之トキハ有籍ノモノハ原籍戸長へ引渡シ無籍ノ者ハ監獄所在ノ町村へ就籍致サセ而ル後戸長へ引渡シ恤救規則第四項ニ照準シ救助取計候テ可然哉

一前條果シテ然ル者ハ其町村戸長ニ於テ該兒ヲ他へ附托シ養育スル者ハ其教育費額ニテハ物價高貴ノ際衣服等取計フ事能ハス情勢不得止モノハ其不足費額ハ地方稅教育費ヨリ支辨シ可然哉

指令 十六年七月廿一日

伺之趣該兒引取人ナキモノ及本籍不分明ナル者ハ監獄則第三十條ニ準シテ處分スヘキ

●生活之道ナキ無籍人取扱方ノ儀ニ付滋賀縣ヨリ内務省へ再伺十六年二月廿六日

生活ノ道ナキ無籍人取扱方ノ儀ニ付客年五月中庶甲第七二號ヲ以テ云々相伺候處書面伺之趣刑罰期限ニアラスシテ在監候者ハ退監セシメ其自活ノ道無キ分并ニ今右等ノ分ハ今般第五十號布告ヲ以テ十年第九十五號違被懲候ニ付恤救規則ニ依リ救助可取計旨御指令有之然ルニ明治七年(二月)第六十二號公達恤救規則ニ依リ救助可取計モノハ極貧ノモノ獨身ニシテ癡疾或ハ重病又ハ十三年以下ノモノニ限ル儀ニ有之其餘ハ規則毎項但書ニ相當スルニアラサレハ救助難致儀ニ候然ラハ生活ノ道ナキ無籍人ニシテ該規則ニ相當セサルモノ有之節ハ其處分方如何取計可申候乎監獄則第十一條ニ入監ノ婦女乳兒三歳未満ノモノヲ携帶セント請フモノアル者ハ之レヲ許ストアリ然ルニ其三歳以上ノモノヲ携帶候モノ有之節ハ直ニ親族へ下付シ生活ノ道ナキニ於テハ恤救規則ニ依リ救助可取計ハ勿論ニ候得共若シ其者無籍ニシテ親族等無之時ハ其兒童ヲ引受サスヘキモノ無之如此場合ニ於テハ如何處分可然候乎

前項兒童救助之儀恤救規則ニ依リハ獨身又ハ獨身ニアラサルモ家人七十歳以上十五歳以下ニテ窮迫ノモノニ限ル儀ニ有之然ルニ前項兒童ノ儀ハ獨身ニ無之候得共其父母等入監中ハ獨身全額ノ姿ニ付其父母等入監中相當救助取計出監ノ上ハ直ニ給與テ阻止スヘキ儀ニ候乎

無籍在監人ハ在監中定額手續ヲ爲サシムルニ及ハス刑罰期限ノ后ト雖モ自活ノ道ナキモノハ監獄ニ留置クヘキ儀ニ有之然ルニ其携帶兒子三歳以上ニ候節ハ携帶ヲ許可スヘカラサル儀ニ候右ノ場合ニ於テハ其兒子ノニ給テ定メシムヘキ儀ニ候乎果シテ然ル者ハ其定額ノ手續如何取計可然候乎

指令 十六年七月廿一日

第一項 恤救規則ニ通セサルモノハ則ニ救助ノ成規ナシ

第二項 携引ヲ受ケシ地ノ戸長ニ引渡スヘシ

第三項 伺之趣

第四項 該兒ヲ引受ケシ地ノ戸長ニ記入シ置クヘシ

●生活ノ道ナキモノ處分方ノ儀ニ付滋賀縣ヨリ内務省へ伺十六年五月廿一日

入監ノ婦女三歳以上ノ兒ヲ携帶致候儀ハ不相成儀ニ付右等ノ者有之節ハ御指令ノ旨ニ依リ退監セシメタル上生活ノ道ナキモノハ恤救規則ニ照シ救助可致者ニ候ヘ共右ニ付實際上多少差支ノ儀モ有之依テ本年二月庶甲第四十三號ヲ以テ云云伺置候次第ニ候然ルニ果シテ恤救規則ニ依リ救助取計候節ハ救助米高規則ニ制限有之則チ三歳以下ノモノハ一ヶ年米七斗ノ割ニテ此代金目下當縣下滋賀郡ノ相場ヲ以テ算スルニ四圓三拾四錢餘(下米一石六圓二十二錢位)且一日ノ米高一合九夕餘此代金總計ニ相成申候右標ノ次第ニ候ヘハ實際前文ノ金額ノミニテハ多分ノ不足ヲ來候右標ノ場合ニ於テハ如何取計可然哉

指令 十六年七月廿一日

伺ノ趣不足ノ費用ハ地方稅教育費ヲ以テ支辨スヘキ事

但明治十四年十月十日付何へ同十五年四月廿二日及指令置候處該見引受人ナキモノ及原籍不分明ナル者ハ監獄則第十三條ニ準シテ處分スヘシ

●拘禁囚徒取扱之儀ニ付空知集治監典獄ヨリ内務省へ伺 十六年八月三十日

誠キニ懲役終身ノ刑ニ處セラレ服役中逃走ノ未更ニ無期徒刑ニ處セラレ候モノ本刑ヲ懲役終身ト爲シ囚籍面ニハ無期徒刑ト記載セシメテ可然哉果シテ然ラハ監獄則第九條ニ依リ處分セサルヤ差違ヲ取扱上懸議ヲ生シ候ニ付此段相伺候也

指令 十六年八月三十日

書面伺之趣監獄則第九條ニ據リ處分シ囚籍面記載方ハ懲役終身及ヒ無期徒刑ヲ併記スヘキ儀ト可心得事

●在監人隱匿物處分方之儀ニ付三重縣ヨリ内務省へ伺 十八年二月二十五日

監獄則第十四條ニ總テ入監人ノ携有スル財貨物件ハ悉ク點檢シテ云々(中略)但點檢ノ際隱匿セシ貨物ハ沒收スト有之候處茲ニ在監人ニシテ實印又ハ權利義務ニ關スル證書類ヲ隱匿スルモノアリ其實印ノ如キハ一已私有ノ物品ニ外ナラサルヲ以テ同條ニ照シ沒收シ可然見込ニ候得共權利義務ニ係ル證書類ハ單ニ物品トハ難見做乎ニ相考候所ノ如キモノハ監獄則第九條第五項第八項ニ準據シ本人ヲ相當懲罰スルニ止メ該證書類ハ所持品中ニ領置シ放免ノ節還付シ可然乎

指令 十八年三月二十一日

書面伺ノ趣證書類ハ勿論實印モ沒收セサル儀ト可心得事

●群馬縣ヨリ入監人携有金ノ儀ニ付内務省へ伺 十八年十月一日

巴茨因ノ監獄者へ入監ノ節携有スル財貨物件ハ點檢ノ上領置シ釋放ノ時其儘還付致來候然ルニ該金ノ内天保錢又ハ兩店銀行紙幣ノ如キハ引換期限ヲ要スル者モ可有之果シテ然ラハ釋放ノ迅速ニ由リ出獄スルノ際還付スルモ早已ニ不通用ニ相成候テハ折角保管ノ旨趣モ無之何分不都合ノ儀ト被在候條物品又ハ金銀貨(古金銀)ヲ除クノ外ハ最前預リタル紙幣ノ種類ヲ論セス現今通用ノ紙幣又ハ銅貨等ヲ以テ還附スヘキ積取計差支無之儀ト被在候得共爲念相伺候

指令 十八年十月九日

伺ノ趣ハ其旨本人へ申開タル上期限前ニ引換置キ還付スヘキ儀ト可心得事(十八年十月十二日官報)

●輕罪ニ係ル控訴者已決後服役ノ件ニ付富山縣ヨリ内務省へ伺 十八年十月三十日

(十八年十一月十四日官報)

輕罪ニ係ル控訴者已決後ハ現ニ拘禁スル地方ノ監獄ヨリ最初裁判會渡アリタル地方ノ監獄へ引戻シ服役セシムルモ差支無之候哉

指令 十八年十一月九日

伺ノ趣控訴裁判所所在ノ監獄ニ拘禁ノ上服役セシムル儀ト可心得事

●在監人食糧ノ件ニ付福岡縣ヨリ内務省へ伺 十八年十月廿八日

(十八年十一月十六日官報)

定役ニ服スル在監人食糧ノ儀ハ監獄則第六十八條ノ制限ニ隨ヒ給與スヘキハ勿論ニ候處各種ノ工務上ニ就キ之ヲ實檢スルニ暨ヘハ鑄造工總打工ノ如キハ強キ力業トシ從來七合食ヲ與ヘ來リシカ之カ米麥搗若シクハ開墾耕耘等ノ作業ニ比スルニ竹輕キモノト認メラル然ラハ之ヲ座作業ナル業工時計ノ工類ト同視シ輕役五合ノ食ヲ給セン歟又不備衛ナルヲ覺エ斯ノ如ク強役中ニモ力業ノ稍輕キモノハ其強役食七合ノ幾分ヲ減シ給與致シ不苦候哉

指令 十八年十一月十一日

伺ノ趣

●假免懲罰者換罰執行方ニ付靜岡縣ヨリ内務省へ伺 十八年十一月廿一日

(十八年十一月三十日官報)

假ニ懲罰ヲ免シ出獄セシメタルモノ主刑滿期迄ニ過料金納完スル能ハサル場合ニ於テハ更ニ入獄セシメ其物價ヲ執行シ可然哉

指令 十八年十一月廿七日

伺ノ趣

●已決囚留置ノ件ニ付宮城縣ヨリ内務省へ伺 十九年六月

(十九年七月十七日官報)

第一條 他縣監獄ニ在ル已決囚徒ヲ事實差考人トシテ控訴院へ喚出シ審理中常縣監倉へ留置スヘキ旨評定官ヨリ照會ヲ受ケ候場合ハ監獄則第十條ノ明文外ナルモ他ニ留置スヘキ箇所モ無之ヲ以テ右ノ照會ニ應ジ可然哉

第二條 前條ノ如ク照會ニ應ジ可然哉ナレハ留置中ニ係ル費用金額ハ他ノ裁判所ノ裁判ニ服セシメテシモノト例ニ準シ一日金貳拾錢ツ、裁判費用ヨリ請求致可然哉

第三條 若シ裁判費用中ヨリ請求スルニ當リ負擔者ニシテ無資力ナルハ該囚留置スヘキ縣ノ監獄費ヨリ償却ヲ求メ可然哉

指令 十九年七月十日

第一條 照會ニ應ジ已決監ニ拘置スヘシ

第二條 拘置中ノ費用ハ輕罪ニ付控訴ヲ爲シタル被告人ノ例ニ準シ送付シタル縣ヨリ受取ヘシ

第三條 第一條指令ニテ了解スヘシ

●未決者書籍等購求方ノ件靜岡縣ヨリ内務省へ伺二十二年四月五日

未決者領置金ヲ以テ書籍其他飲食物購求方ヲ願出ツル者アルハ之ヲ正當ノ費用ト認メ許可スルモ差支ナキ筋ナルヲ果シテ然ラハ現職故舊ヨリ右等ノ費用ニ充ツルメ會員ノ差入ヲ願出ツルトキモ亦之ヲ許可シ然ルヘキヤ

指令 二十二年四月十六日

伺ノ通

第五十六章 假出獄規則

十九年十一月十日
内務省令第二十四號

刑法第七十九條第八十條第八十二條ニ依リ懲治場ニ留置セラレタル者ニシテ獄則ヲ謹守シ改悛ノ狀アル時ハ警視總監北海道廳長官府縣知事ハ左ノ規則ニ據リ假ニ出場ヲ許スコトヲ得

假出場規則

第一條 假出場ヲ許スヘキ者アル時ハ典獄ヨリ其長官ニ狀ヲ具シテ認可ヲ受ケ可シ

第二條 假出場ヲ許シタル時ハ典獄ヨリ其許票ヲ本人ニ下付ス可シ

第三條 假出場許票ニハ左ノ條件ヲ記載ス可シ

一 本人ノ屬籍氏名年齢住所懲治期限及ヒ宣告并ニ滿期ノ年月日

一 殘期何年何月何日間假出場ヲ許ス 何年何月何日起
何年何月何日迄

一 本日出場ヲ許スニ由リ住居ノ地ニ歸着ノ上ハ即時所轄警察署ニ其旨ヲ届出ツ可シ

一 毎月一回謹慎ヲ表スル爲メ所轄警察署ニ到リ假出場證票ヲ出シ警察官吏ノ認印ヲ受ケ可シ但已ムヲ得サル事故アレハ其事由ヲ届出可シ

一 一日程ヲ過クル地ニ旅行スル時ハ其行先並往復滞在日數等ヲ詳記シ所轄警察署ニ届出可シ但シ其滞在一月以上ニ渉ル時ハ一箇月毎ニ其滞在地ノ警察署ニ到リ前項ノ手續ヲナス可シ

一 事故アリテ其住居ヲ轉スル時ハ所轄警察署ニ届出ツ可シ

一 第三項以下ノ事ハ本人自ラ爲ス能ハサル場合ニ於テハ親屬故舊代リテ之ヲ爲スコトヲ得

右ノ各項ニ違背シタルトキハ直チニ出場ヲ停止シ出場中ノ日數ヲ懲治期限内ニ算入スルコトヲ得

第四條 假出場ヲ許シタル時ハ典獄ヨリ假出場證票及懲治申渡書ノ原本ヲ具シ本人住居ノ地ノ警察署ニ通知スヘシ

第七類 監獄

第五條 警察署ニ於テ轉居ノ届ヲ得タル時ハ之ヲ其轉居地ノ警察署ニ通知シ第四條ニ記載シタル書類ヲ遞送スヘシ

第六條 假出塲ヲ許ス可キ者住所ナク及ヒ引取人ナキ時ハ猶ホ懲治塲ニ留置シテ他ノ懲治者ト嚴ニ別異ス可シ但住居遠地ニアリテ歸着スルノ資力ナキ者モ亦同シ

第七條 假出塲ヲ停止スヘキ時ハ本人住居ノ地ノ典獄ニ於テ其旨ヲ言渡シ直チニ假出塲證書ヲ取上ケ其殘期ヲ執行ス可シ但甲地方ニ於テ下付セシ證書ヲ乙地方ニ於テ取上ケタル時ハ其事狀ヲ甲地方典獄ニ通知シ證書ヲ送致ス可シ

第八條 假出塲ヲ許サレタル其懲治期滿限ノ日ニ到レハ假出塲證書ヲ所轄警察署ニ還納シ該警察署ヨリ證書ヲ出シタル典獄ニ之ヲ遞送ス可シ

○陸海軍々法會議ノ處刑者地方獄送付處分方

二十年三月十八日 内務省訓令第十六號

陸海軍軍法會議ノ處刑者費用區分方客歲(一月)甲第一號ヲ以テ相達候ニ付テハ來ル二十年度以降右處刑者アル毎ニ總テ該軍監獄ヨリ直チニ地方獄ヘ送付ノ等ニ付軍法會議所在ノ地方獄ニ於テハ其都度之ヲ收監シ普通裁判所處斷ノ者ト同様取扱ヒ其地方稅支辨ニ風スヘキ者ハ其刑ヲ執行シ國庫費支辨ニ風スヘキ者ハ直チニ假留監ニ押送スヘシ但從前陸軍法衛ヨリ發配ノモノ有之候ハ、本文同様取計フヘシ

●伺指令

●賭博犯懲罰者假免ノ件ニ付素本縣ヨリ内務省ヘ伺(十九年十二月六日(二十年一月十九日官報))

今般御訓令之御趣旨ニ基キ懲罰ヲ假免スルニ當リ既ニ過料金ヨリ換ヘラレタル懲罰モ共ニ假免スルヲ得ヘキモノト被存候得共若シ換罰ハ假免スル能ハサルモノトセハ主罰假免ノ期限ヲ終ルヤ直ニ換罰執行ノ爲メ再ヒ數月ノ久シキ時間入獄セシメサル可カラサルモノモ有之而シテ既ニ改悛ノ情者シキニヨリ一度假免ノ恩典ヲ與ヘタルモノナシテ換罰執行ノ爲メ更ニ入獄セシムル如キハ其情愾然ニ有之候ノミナラス御訓令ノ御趣旨ニモ相悖リ候モノ、如ク被存候ニ付主タル懲罰ヲ假免スルハ無論換罰モ共ニ假免スルヲ得ヘキ候ト相心得可然哉

指令 二十年一月二十八日

書而伺之通

●在監人携帶乳兒取扱方ノ件ニ付鳥取縣ヨリ内務省ヘ伺(十九年十二月廿八日(二十年一月廿二日官報))

當縣爲取監獄在監人中野ソノナル者即今無籍ノ乳兒携帶在候處在監中該兒年齡三歲以上ニ及ビ獄内ニ離置ニ付其母原籍地戶長役場ヘ引取方相達候處右ソノ儀ハ明治三年中原籍ヲ失踪シタルモノニシテ目下同人男某ナルモノ該家相續シ居ルモ同人ハ赤貧洗フカ如キ者ニシテ引取養育スヘキ資力ナク且他ニ親戚等絶テ無之旨該戶長役場ヨリ申出タリ然ルニ明治十七年中御省ヨリ岡山縣ヘノ御指令ニ據レハ携帶幼兒入監中滿三歲以上ニ及ビタルモ自今無籍ハ勿論有籍者ニシテ親戚等有之モ無資力ニシテ難引取ハ其母逮捕ヲ受ケシ地ノ戶長ヘ引渡シ恤救規則ニ據リ救助シ若シ該則ニ適當セサルモノハ有籍ハ未籍無籍ハ其地方ノ地方稅救費ヨリ支辨シ云々トアリ果シテ然ルモ其母ノ原籍ハ監獄接近ノ地ニ在ルモ親戚中引取ヘキ資力ナキモハ逮捕地遠隔ナルモ仍ホ其母逮捕地戶長役場ヘ引渡スヘキ儀ニ候哉

指令 二十年一月十八日

書而伺之趣原籍地ノ戶長ヘ引渡スヘキ候ト心得ヘシ 但岡山縣指令本文ニ抵觸スル處ハ取消ト心得ヘシ

第五十七章 囚人護送手續

明治十五年二月一日第拾號 内務省開拓使警視廳府縣(東京府ヲ除ク)ヘ伺

明治六年(十一月)第三百九十一號并同十年(七月)第四十九號ヲ以テ囚人護送規則及ヒ

遞傳方相達置候處今般更ニ別冊ノ通囚人護送遞傳方改正シ本年七月一日ヨリ施行候條
從前達中矛盾ノ難ハ同日限廢止ス此旨相達候事

(別冊)

囚人護送手續

第一條 甲屬ヨリ乙屬又ハ集治監ヘ送移スル囚人ハ囚籍及ヒ處刑宣告書所持ノ物品ヲ
併セ沿道警察本分署ニ於テ遞傳護送スヘシ

但一府縣管内本支監獄ノ間ニ護送スル囚人モ其距離拾里以外ニ至ルモノハ本文ニ
準スルヲ得

第二條 新タニ就捕セシ犯罪人及ヒ諸令狀ニ據リ引致スル刑事被告人又ハ脱走ノ軍人
軍屬ノ遞傳護送ヲ要スル者モ前條ノ手續ニ準スヘシ

但入監後糾問等ノ爲メ所在ノ法衙ニ往復スルハ本條ノ限ニ在ラス

第三條 第一條第二條ノ護送ニ付スル囚人ノ員數及ヒ發出日時ハ其當該官吏ヨリ前以
テ沿道警察本分署ヘ遞報スヘシ

第四條 護送囚人ノ數ハ一行拾名以下トス護送警吏及ヒ細取ノ人員ハ適宜タルヘシ

但便利海路ニヨルトキハ適宜囚人ヲ増加スルヲ得

第五條 遞傳護送ハ日出ヨリ日没マテヲ限トス

第六條 警察本分署ニ於テハ護送囚人ノ鄉貫氏名刑名又ハ犯罪見込書ノ要領及發日
時ヲ記載シ置クヘシ

第七條 護送ノ囚人ハ沿道警察本分署ニ宿セシムヘシ若シ支障アルトキハ該地戸長ニ
照會シ宿所ヲ定メ適宜取締ヲナスヘシ

第八條 護送途中囚人病發スルトキハ沿道警察本分署ニ付シ治療スヘシ若シ死去スル
トキハ該地戸長ニ埋葬ヲ囑シ引取人アル者醫師ニ死去證書ヲ作ラシメ戸長及ヒ護送警
吏連印シ書類物品ヲ併セ送達スヘキ衙署ニ遞付シ仍ホ發出衙署ニ報知スヘシ

第九條 護送途中囚人逃亡スルトキハ先ツ緝捕方ヲ最寄警察本分署ニ報告シ仍ホ發出
衙署及ヒ達スヘキ衙署ヘ報告スヘシ

但第八條及ヒ本文ノ手續ヲ爲スタメ他囚護送ヲ遅緩ス可ラス若シ速ニ手續ヲ了シ
難キ場合ハ最寄警察本分署ノ助力ヲ請フコトヲ得

第十條 遞傳護送スル警察官吏ノ旅費ハ都テ沿道地方ノ警察費ヲ以テ支辨スヘシ
但細取ノ雇給ハ第十一條第十二條ノ區別ニ依リ囚人ニ屬スル費用中ニテ支辨スヘ
シ

第十一條 第一條ニ掲グル囚徒ニ屬スル護送中ノ費用ハ明治十四年第十七號布告ニ依
リ區分シ集治監ニ送ルトキハ沿道府縣ノ仕拂ニ立テ其他ハ出發府縣ノ監獄費ヨリ支
拂フヘシ

第十二條 第二條ニ掲グル各犯人ニ屬スル護送中ノ費用ハ沿道地方警察費ヲ以テ支辨
スヘシ

第十三條 護送囚人死没シ引取人ナキモ其所持金錢物品埋葬費ニ足ルモノアル者及陸軍隊付下士

空海軍下士卒ノ埋葬費ハ第十一條第十二條支辨ノ限ニアラス尤其費額ハ都テ拾圓以
 内タルヘシ但下士卒ノ分ハ追テ陸軍省海軍省ヨリ各自ニ拂戻スヘシ十五年第六十八條公
 達ヲ以テ全條改正
 第十四條 遞傳ニ係ル囚人犯罪人ノ賄費額ハ警察本分署ニ於テハ都テ拘留人ノ例ニ依
 ルヘシ他ニ宿泊セシムルトキハ一宿ニ賄臥具點燈手數料ヲ併セテ金貳拾五錢以下一
 晝食金七錢以下藥價診察料等ハ實費支辨スヘシ

● 伺指令

● 已決囚押送及費用ノ件ニ付岐阜縣ヨリ内務司法兩省ヘ伺十九年十二月五日
 (四月廿日官報)

第一條 損害賠償私訴雜事件ニ付在監輕罪囚ニ對シ管轄控訴院ヨリ呼出狀送達アリ尙監獄ヘハ押送方照會アル場
 合ニ於テハ之レニ應シ被告入ヲ警察傳遞ニ付シ控訴院所在地ノ監獄ヘ押送シ同監獄ヨリ出處セシムル儀ト心得可
 然哉

第二條 前條押送スヘキモノトセハ其押送費用ハ沿道警察費支辨ニ屬スルモノニ候哉

第三條 控訴院所在ノ監獄ニ滯留中ノ衣食費ハ其監獄ニ於テ支辨スル儀乎又ハ發送地ノ監獄費ヲ以テ實費ヲ支辨ス
 ル乎或ハ在府縣獄囚徒費計算法ニ準シ一日金二十錢ノ制ヲ以テ退辨スル儀ニ候哉

指令 十九年十二月二十日

第一條 伺ノ通

第二條 第三條 其呼出ヲ請求シタル者ノ支辨タルヘシ

但隨送者旅費ハ本年内務省令第十一號ニ依リ囚徒ノ隨附費用ハ實費ニ據リ隨判所ニ請求スヘシ

第八類 戶籍

第五十八章

戶籍法則

明治四年四月四日
和告

今般府藩縣一般戶籍ノ法別紙ノ通改正被仰出候條管内普ク布告シ可申事

戶籍檢査編制ハ來申年二月一日ヨリ以後ノ事ニ候ヘ共右ニ關係スル諸般ノ事ハ今ヨリ
 處置致ス可ク尤三都府及各開港場ハ人民輻湊ノ地ニテ取締向速ニ不相立候テハ難相成
 ニ付送籍入籍並旅行寄留ノ者ヘ鑑札渡方寄留表取調方等當六月廿九日ヨリ後ル可サ
 ル事

但不審ノ廉ハ民部省ヘ可承合事

右之通被仰出候事

人生始終ヲ詳ニスルハ切要ノ事務ニ候故ニ自今人民天然ヲ以テ終リ候者又ハ非命ニ死
 シ候者等埋葬ノ處ニ於テ其時々其由ヲ記錄シ名前書員數共毎歲十一月中其管轄廳又ハ
 支配所ヘ差出サセ十二月中辨官ヘ可差出候事

右之通管内社寺ヘ可觸達候事

戶數人員ヲ詳ニシテ撰ナラサシムルハ政務ノ最モ先シ重スル所也夫レ全國人民ノ保
 護ハ太政ノ本務ナルヲ素ヨリ云フテ待タス然ルニ其保護スヘキ人民ヲ詳ニセス何ヲ以
 テ其保護スヘキヲ施スナ得ンヤ是レ政府戶籍ヲ詳ニセサルヘカテサル儀ナリ又人民

明治七年七月
陸軍部令
戸籍法
官内務省

明治七年七月
陸軍部令
戸籍法
官内務省

ノ各安康ヲ得テ其生ヲ遂ル所以ノモノハ政府保護ノ庇蔭ニヨラサルハナシ去レハ其籍ヲ逃レ其數ニ漏ル、モノハ其保護ヲ受ケサル理ニテ自ラ國民ノ外タルニ近シ此レ人民戸籍ヲ納メサルヲ得サルノ儀ナリ中古以來各方民治趣ヲ異ニセシヨリ僅ニ東西ヲ隔ツレハ忽チ情態ヲ殊ニシ聊カ遠近アレハ即チ志行ヲ同フセス隨テ戸籍ノ法モ終ニ錯雜ノ弊ヲ免レス或ハ此籍ヲ逃レ或ハ彼籍ヲ欺キ去就心ニ任セ往來規ニヨラス沿襲ノ習人々自ラ度外ニ附スルニ至ル故ニ今般全國總體ノ戸籍法ヲ定メラル、ヲ以テ普ク上下ノ通義ヲ辨ヘ宜シク粗畧ノコナカルヘシ

第一則 戸籍舊習ノ錯雜アル所以ハ族屬ヲ分ツテ之ヲ編製シ地ニ就テ之ヲ收メサルヲ以テ遺漏ノ事アリト雖モ之ヲ檢査スルノ便ヲ得サルニ依レリ故ニ此度編製ノ法臣民一般(華族士族卒爾官僧侶平民迄ヲ云以下准之)其住居ノ地ニ就テ之ヲ收メ專ラ遺スナキヲ旨トス故ニ各地方土地ノ便宜ニ隨ヒ豫メ區畫ヲ定メ每區戸長並ニ副ヲ置キ長並ニ副ヲシテ其區内戸數人員生死出入等ヲ詳ニスル事ヲ掌ラシムヘシ

第二則 戸長ハ必ス長ト副トニ限ルヘカラス時宜ニヨリ長副數名アルモ妨ケナシトス但戸長ノ務ハ是迄各處ニ於テ莊屋名主年寄頭下唱ル者等ニ掌ラシムルモ又ハ別人ヲ用ユルモ妨ケナシ

第三則 凡ソ區畫ヲ定ムル譬ハ一府一郡ヲ分テ何區或ハ何十區トシ其一區ヲ定ムルハ四五丁モシクハ七八村ヲ組合スヘシ然レ共其小ナルモノハ數十ニ及ヒ大ナルモノハ一二ニ止ルモ都テ其時宜ト便利トニ任セ妨ケナシ

華族士族住居ノ地從前武家地屋敷地ト唱ル類モ同類タル業ヨリ云テ得ス

明治七年七月
陸軍部令
戸籍法
官内務省

明治七年七月
陸軍部令
戸籍法
官内務省

但急ニ區畫ヲ定メ難キ所ハ假ニ便宜ニ從ヒ一村一町ニテ檢査セシムルモ妨ケナシ官ノ學校兵隊屯所等又ハ大社大寺ノ別ニ區域ヲナセシハ其官司ノ吏員其社寺ノ執事等ニテ戸長ノ事ヲ扱ハシムルモ妨ケナシ

第四則 戸長其區内ノ戸籍ヲ式ノ如ク之ヲ集メ一通ヲ清書シ更ニ第一號ト第二號ト式ノ如ク其區内總計ノ戸籍表ト職分表トヲ作り其集ル所ノ籍ハ戸長ニ備ヘ置清書二通りト共ニ其支配所ニ差出スヘシ支配所之ヲ其應ニ差出シ其應之ヲ第五號第六號ノ式ノ如ク其管内總計ノ戸籍表ト職分表トヲ作り戸籍一通ハ其應ニ備ヘ置キ一通ニ應印ヲ押シ表ト共ニ六ヶ年目ニ改メ太政官ヘ差出スヘシ(支配所トハ管轄内廣遠ノ處別ニ一小部ヲ置キ支配セシムル所ヲ云フ總テ出張所トイフノ類ナリ)

戸籍表ハ十六年内務省更ニ定メラレタルヲ以テ之ヲ除キ職分表ハ之ヲ略ス

但支配所ナキ所ハ直ニ其應ニ出スヘシ以下准之

第五則

第六則 管轄屬ニ於テ戸籍專任ノ吏員ヲ置キ其事ニ擔當セシムヘシ若シ遺漏粗略ノ事アルニ於テハ其吏員並ニ戸長戸長ナキ大社大寺ハ執事ノ責タルヘシ

第七則 區内ノ順序ヲ明ニスルハ番號ヲ用ヘシ故ニ每區ニ官私ノ差別ナク臣民一般番號ヲ定メ其住所ヲ記スニ都テ何番屋鋪ト記シ編製ノ順序モ其號數ヲ以テ定ルヲ要ス但區内ノ屋敷亡所トナリ又ハ一戸ヲ割リ二戸トシ二戸ヲ合セテ一戸トナストアルモ其由ヲ戸籍ニ記シ番號ハ其儘據置六ヶ年目ニ至リ改ムヘシ

十二年第八
ノ族管籍替
ノ山籍ニ不
及市ニ戸長
ハ届出シム

第八則 各地方官或ハ平民等事務アリテ全戸他ノ管轄所ニ引移ルモノハ其由ヲ本貫
管轄廳ヘ願出其廳ヨリノ送リヲ取リ在留地ノ廳ニ届ケ出其所ノ籍ニ編入スヘシ又故
アリテ元ノ管轄廳ヘ引移ル時ハ之ヲ戻ス其始メ出ル時ノ如クシ其所ノ籍ニ編入ス
ヘシ

但當時全戸既ニ引移リシ官員ノ如キハ其官省ヨリ名前書ヲ在留地ノ廳ニ達シ夫ヲ
證トシ其住居ノ地區ニテ其籍ヲ收ムヘシ又本貫管轄廳ニハ其由ヲ其官省ヨリ達シ
其廳之ヲ聽キ其所ノ籍ヲ除クヘシ尤此ヨリ後引移ルモノハ此限ニアラス送籍スル
ト本條ノ如クスヘシ(第八則ヲ云)若シ全戸引移ルト雖モ情故アリテ本貫管轄廳ノ
籍ニアルヲ願フモノハ其地寄留ノ部ニ入レ情願ニ任スルモ妨ナシ

第九則 他ノ管轄地ニ引移ル時元ノ廳ヨリ送籍スルニハ其當人ヨリ元住所ノ組合並ニ
戸長ニ其由ヲ届ケ長副連印シ其廳ニ届ケ其廳之ヲ受ケ其廳聽知ルノ證ヲ押シ當人ニ
渡スヘシ

但管轄内廣遠ノ場所別ニ支配所アラハ其支配所ニテ之ヲ達セシメ往來因却ノ弊ナ
カヲシムルヲ要ス

第十則 他ノ管轄所ヨリ此管轄所ニ入籍スル時ハ元ノ管轄所ノ證ヲ持參シ其入ル所ノ
戸長ニ其由ヲ通シ戸長其相違ナキヲ糾シ其所ノ籍ニ入ルヘシ而シテ戸長其元廳ノ證
ト其入籍セシ事ノ由ヲ時々其廳ニ届ケヘシ

第十一則 管轄内甲ノ區ヨリ乙ノ區ニ移ルカ如キモ第八則ヨリ第十則迄ノ例ヲ見合ス

ヘシ

但管轄内ナルヲ以テ送籍ハ戸長ヨリ之ヲ致シ入籍ノ上其入ル所ノ戸長ヨリ其廳ニ届
ケ其廳之ヲ聽キ即チ本條ニ加除スヘシ(加除ハ甲ノ籍ヲ除キ乙ノ籍ニ入ルノ類ヲ云)
但其區ニ於テ時々加除スルハ亡論ナルヘシ

第十二則 全戸引移ラス又ハ一時公私ノ用ニテ寄留スルモノハ其本貫管轄廳ノ鑑札ヲ
持參シ寄留地戸長ニ通シ其寄留スル所ノ廳ニ名前書ヲ添ヘ鑑札ヲ差出シ其廳之ヲ受
ケ即チ其廳ノ鑑札ト引替遣スヘシ鑑札ニハ當人名住所職分ヲ記スヘシ而シテ其者歸國スル節
ハ同様ノ例ヲ以テ元ノ鑑札ト引替歸國ス可シ

但管轄内廣遠ノ場所別ニ支配所アラハ其支配所ニテ引替シム可シ故ニ鑑札ハ豫メ
支配所ヘモ備ヘ置クヲ要ス

鑑札引替ノ節其戸長官ノ學校兵隊屯所ノ如キニ差出ス名前書ニハ官員ハ當人兵隊ハ隊
ハ其役場大社大寺ハ執事長證印シ自餘ハ戸主傭主請人等證印スルヲ要ス名前届書式ハ第
三號見合スヘシ

第十三則 修行又ハ奉公ノ爲メ他國ニ寄留スルモノモ第十二則ノ例タル可シ
全戸引移リシ官員等ノ内寄留情願ノ者モ第十二則ノ例タル可シ(第八則但書ト見合
スヘシ)

但是迄修行又ハ奉公イダシ寄留スル者及ヒ事務アリテ寄留スルモノ其本貫ノ廳ニ
届ケ鑑札請取第十二則ノ例ヲ以テ引替ヘシ若シ道路懸隔リ當人ヨリ本貫ノ廳ニ届
ケ難キ事故アルモノハ其寄留地ノ廳ニ於テ戸主傭主請人等ノ證書ヲ出サシメ其廳

十四年七月二
十日布告
ヲ以テ寄留
鑑札ヲ廢ス

但不得止事故アルニ由リ其人ハ移轉セシメ他ノ所ニ行カシムト雖モ戸籍ノ調ハ其本住所ノ應ニテ之ヲ取集ムヘシ此百日ノ間ニ一般ノ戸籍調終ルヲ待テ五月十六日ヨリ送籍入籍ノ事ヲ所置スヘシ

但戸籍検査ノ日ニ當リテ二月一日ヨリ五月十日迄凡百日間不得已移轉セシモノハ送籍入籍ノ時五月十日ハ必ス其由ト其月日トヲ本書ニ書顯スヘシ

第二十三則 六ヶ年目毎ニ五月十六日迄ニ戸籍検査既ニ終リ其應ニ於テ六月中第四則ノ例ノ如ク其管轄内總計ノ戸籍表ヲ作り第五號式本書共ニ七月中太政官ヘ差出スヘシ第四則ト見合スヘシ

但一紙ハ其應ニ留置毎年出ス所ノ表ノ基トスヘシ

第二十四則 寄留者ノ届書ハ其寄留スル支配所ニテ支配所ナキモノハ其應其時々之ヲ記録シ寄留表ヲ第七號式ノ如ク製シ出入人員増減ヲ隔月検査シテ其應ニ出シ其應之ヲ受ケ毎年十二月太政官ヘ差出スヘシ

但支配所アルハ某支配所ト表ノ左傍ニ記スヘシ

第二十五則 三都府ハ人民輻湊ノ地ナルヲ以テ寄留表ハ他ノ藩縣ニ拘ラス隔月検査ノ時々即チ太政官ヘ差出スヘシ

第二十六則 民産調ノ如キハ一般ノ御布告アルヘシト雖モ此迄地方官ニテ戸籍中家産等書載サセ來リシハ其儘出スヘシ

第二十七則 戸籍表ノ用紙ハ厚紙ヲ用ヒ戸籍ノ用紙ハ美濃紙ノ寸法ヲ準トシ公用ノ郵

紙ヲ用ユヘシ戸長ト其應ヘ收ムル分ハ其土地求メ易キ適宜ノ品ヲ用ユヘシ故ニ毎區戸長ヘ本書分ノ公用郵紙ヲ其應ヨリ下ケ渡スヘシ

第二十八則 各地ノ戸籍一例ナルヲ要スレハ字ノ細大行ノ高低ハ其記事ヲ標別スル爲メナルヲ以テ能ク注意シ成丈ケ細字ニ記スルヲ要ス

第二十九則 此迄厄介ト號セシモノ或ハ縁故アリテ養育スルモノ等ハ其族属ト續柄ヲ肩書ニシ其事由ヲ其名前ノ上ニ記スルヲ式ノ如クスヘシ

第三十則 華族等ノ從僕其邸内ニ住居シテ一戸ヲナセルモノハ式ノ如ク其主人ノ次ニ記シ社中寺内ニアルモノ此例ニ準スヘシ

第三十一則 凡ソ僧尼ハミナ式ニ依テ其本貫得度ノ年月及ヒ其所ヲ記シ院内受職ノ外ハ習弟子ヲ以テ記スヘシ

第三十二則 穢多非人等平民ト戸籍ヲ同フセサルモノ、如キハ其最寄ノ區ニテ其戸長ヘ名前書ヲ出サセ年輪廢疾等ヲモ認ムヘシ其人男女ヲ分チ戸籍表ニ書入レ差出シ應ニテモ戸籍表ニ入ル、ヲ式ノ如クスヘシ

但生死出入其最寄戸長ニテ取扱寄留旅行ノ規則等平民同様ノ例ニ從ヒ名前書ヲ六ヶ年目ニ出サシムルヲ戸籍ノ如クスヘシ

第三十三則 都テ書式ハ臣民トモ體裁一ナレハ彼此相通シ參用シテ妨ナシ

第五十九章 戸籍法第五則出生死去出入等届出方及寄留者届出方ヲ定ム(書式及表式略之)

十九年九月二十八日 内務省令第十九號

四年八月廿一日布告ヲ以テ一般稱ヲ非人等ノ稱入ス

明治四年四月四日布告戶籍法第五則出生死去出入等届出方及明治五年正月第四號布告第

- 八項寄留者届出方左ノ通相定メ來ル十二月一日ヨリ施行ス
- 第一條 出產アリタルトキハ十日以内ニ届出ヘシ
- 第二條 死者アリタルトキハ埋葬以前ニ届出ヘシ
- 第三條 失踪者復歸シ又ハ其行方知レタルトキハ十日以内ニ届出ヘシ
- 第四條 廢戶主廢嫡改名復姓身分變換其他願濟ノ上戶籍ニ登記スヘキ事項ハ其許可ノ指令ヲ受領シタル日ヨリ十日以内ニ届出ヘシ
- 第五條 前數條ニ記載シタル事項ハ戶主ヨリ届出ヘシ戶主未定又ハ不在ナルトキハ親族二人以上又ハ其事ニ關係アル者ヨリ本籍地戶長ニ届出ヘシ但本籍地外ニアルトキハ現在地戶長ニ届出且同時ニ本籍地戶長ヘ届書ヲ發送スヘシ
- 第六條 他府縣又ハ他郡區ニ寄留シタル者ヨリ所有地ニ於テハ寄留者ヨリ他人ノ所有地若ハ自己又ハ他人ノ借地借家ニ於テハ寄留者及地主又ハ家主又ハ其地所其家ヲ管理スル者ヨリ十日以内ニ其地戶長ニ届出且同時ニ本籍地戶長ヘ届書ヲ發送スヘシ
- 第七條 寄留地ヲ去ルトキ自己ノ所有地ニ於テハ寄留者ヨリ其他ニ於テハ地主又ハ家主又ハ其地所其家ヲ管理スル者ヨリ十日以内ニ其地戶長ニ届出ヘシ
- 第八條 寄留者本籍地ニ歸リタルトキハ戶主又ハ本人ヨリ十日以内ニ届出ヘシ
- 第九條 正當ノ理由ナクシテ前數條ニ違背シタル者ハ貳拾錢以上壹圓貳拾錢以下ノ料ニ處ス

○華士族ノ子弟民籍ニ加入 五年四月九日 第五號布告
自今華士族子弟厄介ノ輩民籍ヘ加入爲致候儀可爲勝手申

○華族養子女縁組離縁復籍及買屬替轉居等ノ送入籍ノ
トキ華族局ヘ通牒方 十八年十二月八日 宮内省乙第二號華族有之府縣ヘ通

華族ノ輩養子女縁組復籍及買屬其轉居等ノ節送入籍ノ手續ヲ了シ候ハ、其郡區長ヨリ直子ニ當省華族局ヘ通牒セシムヘシ此旨相達候事

○戶籍表ヲ改正ス 十九年五月六日 內務省令第三號北海道府縣

戶籍表左ノ通改正シ第一表ヨリ第七表迄ハ本年ヨリ毎年十二月三十一日ヲ以テ調査シ第八表ハ本年ヲ初トシ爾後六箇年目毎ニ十二月三十一日ヲ以テ調査シ各翌年三月限り差出スヘシ

但明治十六年十一月當省乙第四十三號達ハ廢止シ表式用紙ハ送付セス (表ハ十九年内務省令第七號ニ再出ニ付除ク)

○人民署名肩書 明治八年二月二十五日 第四十四號布告

人民署名肩書ノ儀自今貫風或ハ管下ノ文字ヲ除キ何府縣華族士族平民ト記載可致此旨布告候事 但從來ノ諸規則及ヒ離形中ニ掲載セル肩書ノ儀モ總テ本文ノ通可相心得事

○穢多非人等ノ稱ヲ廢ス 明治四年八月二十八日 布告

穢多非人等之稱被廢候條自今身分職業共平民同様タルヘキ事

○僧尼族籍編入方 明治七年七月十日 第七十四號布告

今般華士族分家候者ハ總テ平民籍ニ編入相成候ニ付本年(一月)第八號僧尼族籍編入ノ

布告自今左ノ通更定候條此旨僧侶へ布告スヘキ事

一 僧尼ノ輩族籍被相定候條各自其原籍ニ復スヘキ事

一 原籍不分明又ハ復籍ヲ望マサル者ハ現在地へ別ニ本籍相定若シ現在地ノ外へ本籍相定度望ノ者ハ一旦現在地へ定籍ノ上其地ヨリ望ノ地へ送籍スヘシ

但別ニ本籍相定候者ハ元身分ニ不拘總テ平民籍タルヘキ事

一 眞宗(維新以來華族ニ列セラレシ者ヲ除クノ外)并ニ舊修験等世襲ノ者モ一般平民タルヘキ事

一本末寺共住職タル者宗教事務管理ノ儀一般職分同様タルヘキ事

但一寺住職ノ者ハ平民タリ共總テ身分取扱士族ニ準シ候儀ハ從前ノ通タルヘキ事

○士族(卒)貫屬替出願ノ節取扱方

明治四年四月二十三日 府(藩)縣(布)告

士族(卒)貫屬替願出候節ハ戶籍法第八則ノ通處分濟ノ上雙方地方官ヨリ其時々可届出

尤戶籍表加除ノ儀ハ第五則ノ通可相心得事

○脱籍及行衛知レサル者除籍ノ年齢

明治六年五月二十八日 府(藩)縣(布)告

脱籍及ヒ行衛知レサル者家出後三十六ヶ月ヲ踰ヘ永尋中ノモノハ戶籍表總計人員ノ外ニ記載シ又當人年齢八十歳以上ニ相成候得ハ除籍シ何レモ毎年大藏省へ可届出事

○無籍在監人就籍方

明治十五年六月二十九日 内務省第三十九號警視廳府縣集治監へ達

無籍在監人ハ在監中定籍ノ手續ヲ爲サシムルニ及ハス本人放還ノ時籍ヲ望ノ地ニ定メ

シノ典獄ヨリ就籍地區戶長へ通知書ヲ作り本人ヲシテ携帶就籍ノ手續ヲ行ハシムヘシ此旨相達候事

○僧尼編籍處分方

明治八年十一月十七日 内務省乙第百五十一號府縣へ達

僧尼之輩定籍ノ儀ニ付昨七年第七拾四號ヲ以テ公布相成候處各自原籍ニ復スル分ハ格別現在地へ本籍ヲ定ムルニ至ツテハ自然各地方區々ノ所分ニ相涉リ候テハ不都合ニ付左ノ通相心得速ニ可致編籍此旨僧尼へ布達スヘキ事

心得方

一 原籍不分明又ハ復籍ヲ望マサル者ハ現今住所ノ區内へ別ニ本籍可相定尤本地ヲ定ムルニ付更ニ土地及ヒ家屋ヲ設クルニ及ハス現在地ノ區戶長へ申立其區内(村町)へ定籍スヘシ若シ現在地ノ區内(村町)ノ外へ本籍ヲ定メ度望ノ者ハ一旦前條ノ如ク定籍ノ上其地ヨリ望ノ地へ送籍スヘキ事

但別ニ本籍ヲ定ムル者身分ノ儀ハ昨七年第七拾四號公布ノ通タルヘキ事

○僧尼住職中寺院へ居住ニ付心得方

明治九年六月九日 教部省通世第貳拾壹號府縣へ達

僧尼編籍ノ件昨八年(十一月)内務省乙第百五拾壹號達書ニ據リ各自本籍爲相定候上ハ住職中其寺院へ居住ノ儀總テ從前之通可相心得答ニ付此旨寺院へ可布達事

●伺指令

●家督相續ニ關シ裁判處分ヲ受ケ控訴スルモノ戶籍屆方ノ件山口縣ヨリ内務省へ伺十七年二月六日

十九年五月
内務省令第
八號ヲ以テ
但懲罰除

十二年第八
號達ヲ以テ
不備出願ニ
及ビ其時々
戶長ニ届出
シム
十一月第四
號達ヲ以テ
以テ三十六
ヶ月永尋中
ヲ止ム

家督相續其他戶籍ニ關スル異動ハ其都度速ニ届出ツヘキ成規ニ有之候處去ル明治十年第十號公布控訴上告手續第四條第五條ニ據レハ凡ソ始審裁判所ノ判決ニ服セサルモノハ裁判官波ノ第七日ヨリ二箇月間ハ何時ニテモ控訴スルコト得且此ノ場合ニ於テハ始審裁判官波ノ執行ヲ停止セラレ然ルニ此ニ家督相續ニ關シ既訟ヲ起シ始審裁判所ノ判決ヲ得タル旨ヲ以テ立戸主ノ届ヲナス者アランニ戸長ニ於テ其届ニ依リ直ニ戸籍ヲ更正スルキハ其審即日ヨリ戸主ノ届ヲ有スルハ勿論ニテ財産ヲ賣却スル等モ亦戸主ノ自由他日 始審裁判官波ノ第七日ヨリ二箇月間 他ノ一方敗訴者ヨリ控訴シ控訴所ニ於テ原裁判所ニ於テ原裁判ヲ破毀スル場合モ有之不都合ヲ生候續被相考候處右ハ如何相心得可然哉

指令(内務省) 十七年三月廿一日

伺ノ懸控所期限内ハ勿論控訴ヲ爲シタルモ其終審ノ判決アル迄ハ始審直者ノ届出ノミニ依リ戸籍ヲ更正ス可カラサルモノトス

但他ノ一方ノ者ニ於テ控訴セサル旨申立ルカ若クハ裁判所ノ命令書ヲ置トシテ更正ヲ求ムルモハ格別ナリトス

●戸籍表疑義ノ件ニ付福井縣ヨリ内務省總務局ヘ照會 十九年六月一日

本年内務省第三號戸籍表式改正御達中疑義ノ廉左ニ

一私生ノ子ヲ男子已ノ子ト認メ其手續ヲ控テ男子ノ籍ヘ編入シタル場合ニ於テ戸籍表式第五表第六表中公生ノ欄内ヘ算入スヘキハ勿論ト被考候得共其僅婦女ノ籍ニ置キハ其婦女戸主ナレハ戸籍上稱呼ハ私生男女ト即スヘキトノ三付該表中私生ノ欄内ヘ算入スヘキヤ

一従前ノ戸籍表式中ニハ無籍在監人ノ欄有之候得共改正表式中ニハ無之右何ノ欄内ヘ算入スヘキヤ

回答 十九年六月十日

第一項ハ男子已ノ子ト見留メ其籍ニ入レタル場合ト雖モ其子出生ノ當時ニ在テ公生ニ非サルヲ以テ私生欄内ニ算入スヘキ備ニ有之第二項無籍在監人當省令第七號警察及監獄報告表ニ於テ則ニ調査スルヲ以テ戸籍表ニハ之カ調査ヲ要セス

●寄留者届出ノ件(石川縣)何明治二十二年二月六日

他府縣へ出寄留中本籍移轉スルハ寄留所ノ轉セサルモ本籍異動ノ爲メ更ニ本人ヨリ寄留届ヲ爲サシムヘキ候ニ候哉將本人ヨリハ寄留地戸長本籍異動セシノミノ届ヲナサシメ移轉地戸長ヘハ本人ヨリ更ニ寄留届ヲ爲サシムス前住地戸長ヨリ送籍ノ際該ニ受理セシ出寄留届ヲ引繼キ移轉地戸長ニ於テハ其引繼届ニ依リ出寄留届ヘ登記シ前引繼ニ依リ取扱タル事項ヲ記載セシメ出寄留ノ取扱ヲ了爲致可然候ニ候哉

(内務省)指令 明治二十二年二月二十一日

後段伺ノ通

第六十章 戸籍取扱手續

十九年十月十六日 内務省令第二十二號

戸籍取扱手續左ノ通相定ム

戸籍

- 第一條 戸籍ハ戸籍用紙ヲ以テ之ヲ造リ各戸ヲ別葉ニ登記シ一町村毎ニ帳簿ニ編製スヘシ
- 但便宜ニ因リ一町村ヲ數冊ニ分綴シ又ハ數町村ヲ一冊ニ合綴スルコトヲ得
- 第二條 戸籍簿ハ副本ヲ送り郡役所ニ納メ置クヘシ區長ニ於テ戸籍ヲ取扱フトキハ之ヲ管轄廳ニ納メ置クヘシ
- 第三條 若シ登記ノ事項多クシテ欄内ニ餘白ナキトキハ用紙ヲ以テ其欄上ニ掛紙シ之ニ登記スヘシ但本紙ト掛紙トノ綴目ニハ官印ヲ捺スヘシ
- 第四條 戸籍ハ字畫ヲ明瞭ニ記載シ濫ニ添削スルコトヲ得ス若シ錯誤脱漏ニ依リ添削スルトキハ之ニ認印ヲ捺シ且其刪ルヘキモノハ朱線ヲ畫シ原文ヲ存スヘシ

第八類 戸籍

第五條 戶籍簿ノ改製ヲ要スルトキハ管轄廳ノ許可ヲ受ケテ之ヲ爲スヘシ
第六條 戶籍簿燒亡紛失シタルトキハ郡役所又ハ管轄廳ニ納メ置キタル副本ニ據リ編製スヘシ

第七條 戶籍簿ノ改製又ハ編製ヲ爲シタルトキハ郡長又ハ管轄廳ニ差出シ其檢査ヲ受クヘシ但改製ニ係ル原戶籍簿ハ少クモ五十年間之ヲ保存スヘシ

登記

第八條 戶籍ニ關スル届書ヲ受領シタルトキハ先ツ届出ノ事項及届出期限アルモノハ其事項ノ年月日並届出ノ年月日届出期限ナキモノハ其届出ノ年月日ヲ登記目録ニ記入スヘシ

但本籍地外ニ在ル者ニ係ル事項ニシテ届出期限アルモノハ届書發送及受領ノ年月日ヲモ之ニ記入スヘシ

第九條 登記目録ハ左ノ三種ニ分チ毎年一種毎ニ之ヲ編製スヘシ但一種中ニ部門ヲ設ケ之ヲ分綴スルモ妨ナシ

- 一加籍目録
- 一除籍目録
- 一異動目録

第十條 第八條ノ手續ヲ了リタルトキハ直ニ戶籍ニ届出ノ事項及届出期限アルモノハ其事項ノ年月日届出期限ナキモノハ届出ノ年月日ヲ登記シ届書ニハ受領ノ年月日及登記済ノ旨ヲ記入スヘシ

第十一條 戶籍ニ入ル者アルトキハ其戶籍ノ末ニ登記スヘシ戶籍ヲ除ク者アルトキハ

其事項ヲ末ニ登記シ且其氏名ニ朱線ヲ畫スヘシ

第十二條 全戶入籍スル者アルトキハ直ニ戶籍簿ニ編入スヘシ

第十三條 全戶除籍スル者アルトキハ朱ニテ登記シ其戶籍ニ朱線ヲ畫シ便宜之ヲ除籍簿ニ移スヘシ

第十四條 戶主ニ代替アルトキ家族ハ總テ新戶主ノ綴柄ヲ以テ戶籍ヲ改寫スヘシ但舊紙ハ官印ヲ以テ新紙ト割印シタル上除帳簿ニ移シ綴ツヘシ

第十五條 戶籍ニ登記シ諸届ニ記入シタルトキハ總テ之ニ認印ヲ捺スヘシ又諸届ハ一箇月分ヲ類集分綴シ翌月中ニ郡役所區役所ハ電報廳ニ送付スヘシ但郡役所又ハ管轄廳ニ於テハ戶籍簿ヲ改製スル時マテ之ヲ保存スヘシ

送籍入籍

第十六條 送籍ヲ請求スル者アルトキハ戶籍用紙ヲ以テ送籍狀ヲ作り直ニ入籍地ノ戶長區長ヘ發送シ且其送籍ノ事項發送ノ年月日ヲ登記目録ニ記入スヘシ

第十七條 入別ノ送籍狀ニハ其人別ニ關シ戶籍ニ登記シタル事項及戶主ノ氏名身分住所ヲ記載スヘシ

第十八條 全戶ノ送籍狀ニハ戶籍ニ登記シタル事項ヲ遺漏ナク記載スヘシ

第十九條 入籍ヲ届出ルトキハ原籍地戶長區長ヨリ送達シタル送籍狀ト照査シ入籍ノ手續ヲ爲シ五日以内ニ入籍報知書ヲ原籍地戶長ヘ發送スヘシ原籍地戶長ニ於テ之ヲ受領シタルトキハ其受領ノ年月日ヲ登記目録送籍狀發送年月日ノ下ニ記入シ直ニ右

戶籍登記書式第一

何年何月何日何十何番地ニ移ル

何縣何郡何村何番地

何年何月何日何府何區何町何番地ニ轉籍

何年何月何日相繼何年何月何日願濟改名何年何月何日願濟復

姓

何年何月何日何縣何郡何村平民氏名ニ女入籍ス

何年何月何日何府何區何町士族氏名長女入籍ス

何年何月何日願濟復籍

士族

前戶主

何年何月何日願濟族ニ列セラル

亡父氏名

亡父名長男

復姓號

氏

新名

亡父名妻

名

何年何月何日生

名

何年何月何日生

名

何年何月何日生

何年何月何日何府何區何町平民氏名長男名ニ嫁	何年何月何日死亡	何年何月何日何縣何郡何町平民氏名長女トナル	何年何月何日同縣同郡同村何番地ニ分家ス	何年何月何日何縣何郡何村平民氏名ニ女入籍ス	何年何月何日夫名ニ從ヒ分家ス
長女	二男	二女	弟	弟	妻
何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生
名	名	名	名	名	名
		亡父名二男		弟名妻	

何年何月何日同縣何郡何村何番地絕家何氏ヲ再興ス		何年何月何日同縣同郡何村平民氏名ニ嫁ス		何年何月何日願テ大叔母ヲ大伯父ト正誤ス何年何月何日失踪		何年何月何日滯八十歲ニ付除籍		何年何月何日失踪何年何月何日何縣何郡何村ニ現在		何年何月何日何地某裁判所言波ニヨリ何縣何郡何村平民氏名妻離婚ニ付復歸	
弟		妹		大叔伯母		叔父		叔母		母	
亡父名三男		亡父名二女		亡祖父四女		祖父名三男		祖父名二女		叔母名二男	
何年何月何日生		何年何月何日生		何年何月何日生		何年何月何日生		何年何月何日生		何年何月何日生	
名		名		名		名		名		名	

何年何月何日同縣何郡何村平民氏名ニ男入籍ス		何年何月何日何縣何郡何村士族氏名方ニ離婚復歸ス		何年何月何日何縣何郡何村士族氏名長女入籍ス		何年何月何日何府何區何町平民氏名長男名妻離婚ニ付復歸何年何月何日養子名妻ト爲ル		何年何月何日同縣同郡何村平民氏名ニ男入籍ス	
從弟		婚		孫		長女		養子	
叔母名二男		長男名妻		長男名長男		養子名妻		何年何月何日生	
何年何月何日生		何年何月何日生		何年何月何日生		何年何月何日生		何年何月何日生	
名		名		名		名		名	

備考 願濟又ハ確定裁判言渡ニ係ル事項ハ何年何月何日願濟云々又ハ何年何月何日何地何裁判所裁判言渡云々ト記スヘシ
 朱線ハ除籍又ハ氏名身分變換又ハ訂正ヲ登記スルルニ當スルモノトス

戶籍登記書式第二

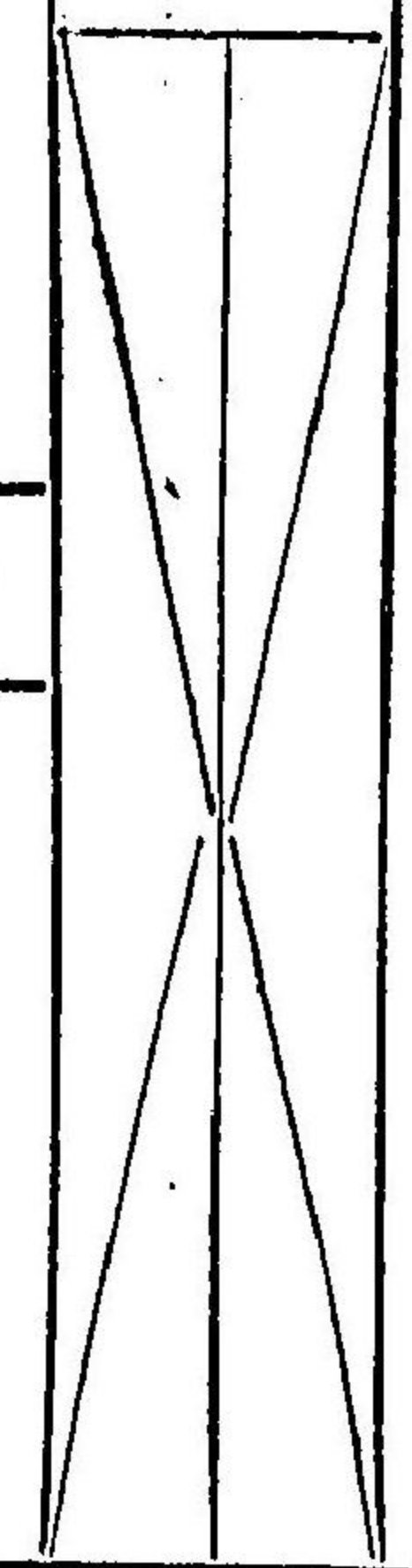
何府何郡何町

何年何月何日何町何番地地北ニ於テ拾上

何年何月何日何町平民氏名授予ト爲ル

何年何月何日何町逆何處ニテ拾上

何年何月何日何縣何郡何村平民氏名引受ト爲ル



兒 藥

氏 名

推測何年何月生

兒 藥

氏 名

推測何年何月生

入寄留簿登記書式第一

何縣何郡何町何番地持家寄留

本縣何郡何町何番地
士族

何年何月何日全戶寄留届出

何年何月何日退去届出

戶		主		母		妹	
亡父名二男	氏名	何年何月何日生	亡父名妻	名	何年何月何日生	亡父名長女	名
何年何月何日生			何年何月何日生			何年何月何日生	

入寄留簿登記書式第三

何年何月何日何町何番地平民氏名方(寄留届出) 何年何月何日改名 願濟何月何日届出	何年何月何日何町何番地平民氏名方(寄留届出) 何年何月何日死亡	何年何月何日何町何番地土族氏名方(寄留届出) 何年何月何日退去届出
何縣何郡何村何番地土族 此名二男 氏 一名 新名	何府何郡何村何番地平民 何年何月何日生 氏 一名	何縣何郡何町何番地平民 氏名妹 何年何月何日生 氏 一名

出寄留簿書式第一

他郡區之部

何年何月何日何町何番地平民氏名方(寄留届出)	何年何月何日何町何番地平民氏名方(寄留届出)	何年何月何日何町何番地平民氏名方(寄留届出)	何年何月何日何町何番地平民氏名方(寄留届出)
何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生
何府何郡何町何番地平民	何府何郡何町何番地平民	何府何郡何町何番地平民	何府何郡何町何番地平民
氏名	氏名	氏名	氏名

何年何月何日何府何區何町何番地氏名方(寄留替)
 右何年何月何日何縣何區何町何番地(寄留何月何日發送届書何月何日受領)
 何村何番地平民氏名三女

何村何番地土族氏名父

母 右同人妻

名 名

右同人二男

弟 一名

右何年何月何日本縣何郡何村何番地氏名方へ寄留何月何日發送屆書何月何日受領 名

何村何番地士族氏名弟

名

右何年何月何日本縣何郡何町何番地氏名方へ寄留何月何日發送屆書何月何日受領
出寄留簿書式第二

他府縣之部

何村何番地士族氏名二男

名

何年何月何日復歸何月何日届出

右何年何月何日何府何區何町何番地氏名方へ寄留何月何日發送屆書何月何日受領

何村何番地平民

氏名
母名
妻名

右何年何月何日何縣何郡何村何番地へ寄留何月何日發送屆書何月何日受領

登記目錄部門並事項書式第一

登記目錄

加籍目錄

本籍人管内出生之部
無籍者就籍之部

本籍人管外出生之部
他府縣ヨリ入籍之部

棄兒之部

- 一 結婚入籍
- 二 縁女入籍
- 三 養子女入籍
- 四 相續人入籍
- 五 携帶者入籍
- 六 親族入籍
- 七 私生子引受
- 八 棄兒引取
- 九 棄兒引受替入籍
- 十 離婚復籍
- 十一 養子女離縁復籍
- 十二 相續人離縁復籍
- 十三 分家入籍
- 十四 分家者復歸入籍
- 十五 附籍者入籍
- 十六 附籍者別立入籍
- 十七 絶家再興入籍
- 十八 轉住入籍

他郡區ヨリ入籍之部

事項同上

他戸長役場管内ヨリ入籍ノ部

事項同上

登記目錄部門並事項書式第二

登記目錄

除籍目錄

本籍人管内死亡之部

本籍人管外死亡之部

失蹤者及重籍者除籍之部
他府縣へ送籍之部

- 一 結婚送籍
- 二 縁女送籍
- 三 養子女送籍
- 四 相續人送籍
- 五 携帶者送籍
- 六 親族送籍
- 七 私生子引渡
- 八 棄兒引渡
- 九 棄兒引受替送籍
- 十 離婚送籍
- 十一 養子女離縁送籍
- 十二 相續人離縁送籍
- 十三 分家送籍
- 十四 分家者復歸送籍
- 十五 附籍者送籍
- 十六 附籍者別立送籍
- 十七 絶家再興送籍
- 十八 轉住送籍

他郡區へ送籍之部
事項同上

登記目錄部門并事項書式第三

登記目錄
管内異動目錄

管内送入籍之部
事項加籍目錄入籍之部除籍目錄送籍之部ニ同シ
異動之部

- 一 戸内結婚
- 二 戸内離婚
- 三 家名相續
- 四 廢戸主
- 五 庶嫡
- 六 廢嫡者復立
- 七 庶子私生子爲嫡出
- 八 棄兒立戸
- 九 失蹤
- 十 失蹤者復歸
- 十一 失蹤者所在分明
- 十二 改名
- 十三 復姓
- 十四 身分變換
- 十五 廢家
- 十六 絶家
- 十七 轉住
- 十八 戸籍訂正

登記目錄書式第一
明治何年加籍目錄

本籍人管内出生之部
第 號

父 氏
母 氏
二男 名
何村何番地士族

右名何月何日出生何月何日届出
第 號

父 氏
母 氏
長女 名
何村何番地平氏氏名長男
孫 名

第八類 戸籍

右名何月何日出生何月何日届出

何村何番地平民氏名妹

名名

母
私生子

右名何月何日出生何月何日届出

登記目錄書式第二

明治何年加籍目錄

本籍人管外出生之部

第 號

何村何番地平民氏名弟

弟 妻 名 名 名

父 母

長男

右名何年何月何日何府何區何町ニ於テ出生何月何日發送届書何月何日受領

第 號

何村何番地士族

父 母 妻 名 名 名

父 母

長女

右何年何月何日何縣何郡何村ニ於テ出生何月何日發送届書何月何日受領

第 號

何村何番地士族氏名叔母

母
私生子

右名何年何月何日何縣何區何町ニ於テ出生何月何日發送届書何月何日受領

登記目錄書式第三

明治何年加籍目錄

棄兒之部

第 號

棄兒

氏 名

推測何年何月生

右何月何日何村何番地ニ於テ拾上ケ

登記目錄書式第四

明治何年加籍目錄

無籍者就籍之部

第 號

何村(何番地)

氏 名

何年何月何日生

右無籍之處就籍ス何月何日願濟何月何日届出

登記目錄書式第五
明治何年加籍目錄

他府縣ヨリ入籍之部

第 號

何村何番地平民氏名婦

長男名妻

名

何年何月何日生

右何縣何郡何村何番地平民氏名二女ヲ娶ル何月何日届出何月何日入籍報知書發送

第 號

何村何番地士族氏名長男名縁女

名

何年何月何日生

右何縣何郡何町何番地平民氏名長女ヲ貰受ク何月何日届出何月何日入籍報知書發送

第 號

何村何番地士族氏名養子

名

何年何月何日生

右何府何區何町何番地士族氏名二男ヲ貰受ク何月何日届出何月何日入籍報知書發送

第 號

何村何番地平民氏名相續入實兄

亡父氏名二男

登記目錄書式第五
明治何年加籍目錄

他府縣ヨリ入籍之部

第 號

何村何番地平民氏名婦

長男名妻

名

何年何月何日生

右何縣何郡何村何番地平民氏名二女ヲ娶ル何月何日届出何月何日入籍報知書發送

第 號

何村何番地士族氏名長男名縁女

名

何年何月何日生

右何縣何郡何町何番地平民氏名長女ヲ貰受ク何月何日届出何月何日入籍報知書發送

第 號

何村何番地士族氏名養子

名

何年何月何日生

右何府何區何町何番地士族氏名二男ヲ貰受ク何月何日届出何月何日入籍報知書發送

第 號

何村何番地平民氏名相續入實兄

亡父氏名二男

名

何年何月何日生

右何縣何郡何村何番地平民氏名弟ヲ貰受ク何月何日届出何月何日入籍報知書發送

第 號

何村何番地平民氏名夫名長男

名

何年何月何日生

右何縣何郡何町何番地平民氏名甥ヲ父名結婚ニ付携帶入籍ス何月何日届出何月何日入籍報知書發送

第 號

何村何番地士族氏名母

名

何年何月何日生

右何縣何郡何町何番地士族氏名叔母亡父名二女ヲ實母ニ付引受ク何月何日届出何月何日入籍報知書發送

第 號

何村何番地平民氏名子

名

何年何月何日生

右何縣何區何町何番地平民氏名二女私生子ヲ引受ク何月何日届出何月何日入籍報知書發送

發送

第 號

何村何番地平民氏名三男

名

何年何月何日生

右何縣何郡何村何番地平民氏名引受棄兒氏名ヲ引取ル何月何日何地何裁判所裁判言渡
何月何日届出何月何日入籍報知書發送

第 號

何村何番地平民氏名引受棄兒

氏 名

何年何月何日生

右何府何郡何村何番地平民氏名引受棄兒ヲ更ニ引受ク何月何日届出何月何日入籍報知
書發送

第 號

何村何番地平民氏名二女

名

何年何月何日生

右何府何區何町何番地平民氏名妻離婚ニ付復籍ス何月何日届出何月何日入籍報知書發
送

第 號

何村何番地士族氏名三女

名

何年何月何日生

右何縣何郡何村平民氏名妻離婚ニ付復籍ス何月何日届出何月何日入籍報知書發送

第 號

何村何番地平民氏名弟

亡父名三男

名

何年何月何日生

右何縣何郡何村平民氏名相續人離婚ニ付復籍ス何月何日届出何月何日入籍報知書發送

第 號

何村何番地平民氏名孫

母名長女

名

何年何月何日生

右何縣何郡何村何番地士族氏名長女ヲ母名離婚ニ付携帶入籍ス何月何日届出何月何日
入籍報知書發送

第 號

何村何番地平民

氏 名

何年何月何日生

何年何月何日何縣何郡何村何番地士族氏名二女ヲ娶ル 妻

名

何年何月何日生

右何府何區何町士族氏名二男名分家入籍ス何月何日届出何月何日入籍報知書發送

第 號

何村何番地士族氏名二男

名

何年何月何日生

二男名妻

何年何月何日何縣何區何町何番地平民氏名二女ヲ娶ル

婦

名

何年何月何日生

同八長男

孫

名

何年何月何日生

右何府何區何町何番地へ分家之處復歸入籍ス何月何日届出何月何日入籍報知書發送

第 號

何村何番地士族氏名附籍平民

亡父名長男

氏

名

何年何月何日生

亡父名三男

弟

名

何年何月何日生

右何縣何郡何村何番地ヨリ附籍ス何月何日届出何月何日入籍報知書發送

第 號

何村何番地平民

前戶主名

氏

名

何年何月何日生

右何縣何區何町何番地士族氏名附籍之處別立入籍ス何月何日届出何月何日入籍報知書發送

第 號

何村何番地平民

氏

名

何年何月何日生

右何府何郡何村何番地平民氏名三男皆村何番地絶家何氏ヲ再興ス何月何日届出何月何日入籍報知書發送

第 號

何村何番地平民

亡父名長男

氏

名

何年何月何日生

何年何月何日何縣何郡何村何番地平民氏名長女ヲ娶ル

妻

名

何年何月何日生

長女 名

何年何月何日生

右何縣何區何町何番地ヨリ轉住入籍ス何月何日届出何月何日入籍報知書發送
登記目録書式第六

明治何年加籍目録

他郡區ヨリ入籍之部

登記目録書式第七

明治何年加籍目録

他戸長役場管内ヨリ入籍之部

登記目録書式第八

明治何年除籍目録

本籍人管内死亡之部

第 號

何村何番地平民氏名母

名

右名何月何日死亡何月何日届出
第 號

何村何番地士族

氏

名

右名何月何日死亡何月何日届出

登記目録書式第九

明治何年除籍目録

本籍人管外死亡之部

第 號

何村何番地平民氏名二男

名

右名何年何月何日何府何區何町ニ於テ死亡何月何日發送届書何月何日受領

登記目録書式第十

明治何年除籍目録

失踪者及重籍者除籍之部

第 號

何村何番地平民氏名又從弟

名

右名何年何月何日ヨリ失踪本年何月何日滿八十歳ニ至ルニ付除籍

第 號

何村何番地平民

氏

名

右名八十一歳何ヶ月何年何月何日ヨリ失踪本年何月何日滿三十六ヶ月ニ至ルニ付除籍

第 號

何村何番地平民

氏

名

右名何縣何郡何村何番地ニ現住シ同行在籍ノ者ニ付何月何日何村除籍

第 號

何村何番地士族氏名三男

名

右名何年何月何日何縣何郡何町何番地平民氏名養子ト爲リ同町在籍ノ者ニ付何月何日當村除籍

登記目録書式第十一

明治何年除籍目録

他府縣へ送籍之部

第 號

何村何番地平民氏名妹

父名三女

名

右何府何區何町何番地平民氏名妻ニ嫁ス何月何日送籍狀發送何月何日入籍報知書受領

何村何番地平民氏名長女

名

右何縣何郡何村何番地士族氏名長男名縁女ト爲ル何月何日送籍狀發送何月何日入籍報知書受領

第 號

何村何番地平民氏名二男

名

右何縣何郡何村何番地士族氏名養子ト爲ル何月何日送籍狀發送何月何日入籍報知書受領

第 號

何村何番地平民氏名弟

父名四男

名

右何縣何郡何町何番地平民氏名實兄ニ付相續人ト爲ル何月何日送籍狀發送何月何日入籍報知書受領

第 號

何村何番地士族氏名甥

弟名長男

名

右何縣何區何町士族氏名ト父名結婚ニ付携帶送籍ス何月何日送籍狀發送何月何日入籍報知書受領

第 號

何村何番地士族氏名叔母

亡祖父名三女

名

右何府何郡何村何番地士族氏名實母ニ付引受ト爲ル何月何日送籍狀發送何月何日入籍報知書受領

第 號

何村何番地平民氏名二女名私生子

名

右何府何郡何村何番地平民氏名子ト爲ル何月何日送籍狀發送何月何日入籍報告書受領
第 號 何村何番地平民氏名引受稟兒 氏 名

右何縣何郡何村何番地平民氏名三男ナルコト發覺シ何年何月何日何地何裁判所裁判言
渡ニ付引渡ス何月何日送籍狀發送何月何日入籍報告書受領
第 號 何村何番地平民氏名引受稟兒 氏 名

右何縣何郡何町何番地平民氏名更ニ引受夕何月何日送籍狀發送何月何日入籍報告書受
領
第 號 何村何番地士族氏名妻 名

右何縣何郡何村何番地平民氏名二女離婚ニ付送籍ス何月何日送籍狀發送何月何日入籍
報告書受領
第 號 何村何番地平民氏名養女 名

右何縣何區何町何番地平民氏名三女離婚ニ付送籍ス何月何日送籍狀發送何月何日入籍
報告書受領
第 號 何村何番地士族氏名相續人實兒 名

亡父名二男

右何縣何區何町何番地平民氏名伯父離婚ニ付送籍ス何月何日送籍狀發送何月何日入籍
報告書受領
第 號 何村何番地平民氏名長女 名

右何縣何郡何村何番地平民氏名孫母名離婚ニ付携帶送籍ス何月何日送籍狀發送何月何
日入籍報告書受領
第 號 何村何番地士族氏名二男 名

右何府何郡何町何番地ハ分家送籍ス何月何日送籍狀發送何月何日入籍報告書受領
第 號 何村何番地平民 妻 名

右何縣何郡何町何番地士族氏名二男分家ノ處復歸送籍ス何月何日送籍狀發送何月何日
入籍報告書受領 氏 名
妻 名
長男 名

第 號

何村何番地平民

氏 名

亡父名四男

弟 一 名

右何縣何郡何町何番地士族氏名方へ附籍ス何月何日送籍狀發送何月何日入籍報知書受領

第 號

何村何番地士族氏名附籍平民

氏 名

右何府何郡何村何番地へ別立送籍ス何月何日送籍狀發送何月何日入籍報知書受領

第 號

何村何番地平民氏名三男

名

右何府何區何町何番地ニ於テ絶家何氏ヲ再興ス何月何日送籍狀發送何月何日入籍報知書受領

第 號

何村何番地士族

氏 名

妻 名

長女 名

右何府何郡何村何番地へ轉住送籍ス何月何日送籍狀發送何月何日入籍報知書受領

登記目錄書式第十二

明治何年除籍目錄

他郡區へ送籍之部

登記目錄書式第十三

明治何年除籍目錄

他戶長役場管内へ送籍之部

登記目錄書式第十四

明治何年管内異動目錄

管内送入籍之部

第 號

何町何番地平民氏名弟妻

弟名妻

名

右何町何番地士族氏名長男名長女ヲ娶ル何月何日届出

何町何番地平民氏名夫

名

右何町何番地平民氏名伯父ヲ世受ク何月何日届出

何町何番地平民氏名長男繼女

名

第 號

右何町何番地平民氏名二女ヲ世受ク何月何日届出
第 號 何町何番地土族氏名妻女 名

右何町何番地土族氏名二女ヲ世受ク何月何日届出
第 號 何町何番地土族氏名養子 名

何年何月何日何縣何郡何村何番地平民氏名長女ヲ娶ル 婦 名
養子名妻 名

右何町何番地平民氏名廢家ノ上氏名ノ養子ト爲ル何月何日願濟何月何日届出
第 號 何町何番地平民氏名相續人實弟 名

亡父氏名三男 名

右何町何番地地平民氏名叔父ヲ世受ク何月何日届出
第 號 何町何番地平民氏名養孫 名

養子名長男 名

右何町何番地平民氏名廢戸ノ上氏名ノ養子ト爲リタルニ付携帶ス何月何日届出
第 號 何町何番地土族氏名父 名

二十三年三月
省令第十號
三項及以テ
本項正ス

父名妻 名

母 名

右何町何番地平民氏名祖父母ヲ實父母ニ付引受ク何月何日届出
第 號 何町何番地平民氏名姪 名

弟名子 名

右何町何番地平民氏名姪名私生子ヲ弟名子トシテ引受ク何月何日届出
第 號 何町何番地平民氏名引受棄兒 名

氏 名

何町何番地平民氏名姪 名

右何町何番地土族氏名二男名妻離婚ニ付復籍ス何月何日届出
第 號 何町何番地土族氏名二女 名

何町何番地土族氏名二女 名

右何町何番地土族氏名養女離婚ニ付復籍ス何月何日届出
第 號 何町何番地平民 名

何町何番地平民 名

何年何月何日何縣何區何町何番地平民氏名三女ヲ娶ル

妻 名
長女 名

右何町何番地平民氏名弟分家ス何月何日届出
第 號

何町何番地士族氏名叔父

名

右何町何番地へ分家ノ處復籍ス何月何日届出
第 號

何町何番地士族氏名附籍平民

氏 名

亡父名二女

妹 名

右何町何番地ヨリ附籍ス何月何日届出
第 號

何町何番地士族

氏 名

何年何月何日何府何郡何村何番地士族氏名長女ヲ娶ル

妻 名

右何町何番地平民氏名へ附籍ノ處離籍ス何月何日届出
第 號

何町何番地平民

氏 名

右何町何番地士族氏名ニ男絶家何氏ヲ再娶ス何月何日届出

第 號

何町何番地平民

氏 名

亡父名妻

母 名

長男 名

右何町何番地ヨリ轉住ス何月何日届出

登記目録書式第十五

明治何年管内異動目録

異動ノ部

第 號

何町何番地士族氏名長男

名

婦 名

右結婚何月何日届出

第 號

何町何番地平民氏名養子

養子名妻 名

長女 名

右離婚何年何月何日届出

第 號

右戸主ヲ廢ス何月何日願濟何月何日届出
第 號 何町何番地平民 氏 名

右父名退隱シ長男名相續ス何月何日届出
第 號 何町何番地士族 父 氏 名 名

右父名死亡跡相續ス何月何日届出
第 號 何町何番地平民 氏 名

右前戸主父名失踪シ何箇年經過ニ依リ相續ス何月何日願濟何月何日届出
第 號 何町何番地士族氏名長男 氏 名 名

右廢嫡何月何日願濟何月何日届出
第 號 何町何番地士族氏名長男 名

二十六年六月
四日內務省
令第三十
號ヲ以テ
附地ノ下
同居ノ二
字ヲ削ル

右廢嫡ノ處事故解除ニ付復立ス何月何日願濟何月何日届出
第 號 何町何番地平民氏名子 氏 名

右母名父名ト結婚ニ依リ嫡出ト爲ル何月何日届出
第 號 何町何番地平民 氏 名

右棄兒ノ處年齢十三歳ニ達シタルヲ以テ新ニ一戸ヲ立ツ
第 號 何町何番地士族氏名叔父 推測何年何月生

右何年何月何日ヨリ失踪何月何日届出
第 號 何町何番地平民氏名二男 名

右失踪ノ處何月何日復歸何月何日届出
第 號 何町何番地平民氏名弟 名

右失踪ノ處何月何日何縣何郡何村ニ現在何月何日届出
第 號 何町何番地平民 名

右舊稱名ヲ改ム何月何日願濟何月何日届出 氏名

第 號 右舊姓何ヲ原姓ニ復ス何年何月何日願濟何月何日届出 何町何番地士族 氏名

第 號 右平民ノ處何月何日士族へ編入セラル何月何日届出 何町何番地平民 氏名

第 號 右士族ノ處平民ニ歸入ス何月何日願濟何月何日届出 何町何番地平民 氏名

第 號 右廢家ス何月何日願濟何月何日届出 何町何番地士族 氏名

第 號 右死亡後六箇月ヲ過キ相續人ヲ届出サルニ付何月何日願家ト爲ル 氏名

第 號 右失踪ノ處年齢八十歳ニ達シ除籍シタル後六箇月ヲ過キ相續人ヲ届出サルニ付何月何日願家ト爲ル 氏名

第 號 右同町何番地ヨリ移轉ス何月何日届出 何町何番地平民 氏名

第 號 右右戸主トノ續柄何ハ何ノ錯誤ニ付訂正何月何日願濟何月何日届出 何町何番地平民氏名又從弟 氏名

第 號 右生年月日ニ何月トアルハ何月ノ誤ニ付訂正何月何日願濟何月何日届出 何町何番地平民氏名三女 氏名

第 號 右名某字ハ某字ノ誤ニ付訂正何月何日願濟何月何日届出 何町何番地平民氏名三女 氏名

○管廳郡役所ニ納ムル戸籍簿副本及寄留届書取扱方
十九年十月十六日
内務省訓令第二十號北海道廳府廳

省令第二十三號戶籍取扱手續第二條第十五條ニ依リ管轄廳又ハ郡役所ニ納ムル所ノ戶籍簿副本及諸届ハ之ヲ保存スルニ止メ加除異動ヲ登記スルニ及ハス又寄留ニ關スル届書ハ管轄廳又ハ郡役所ニ送付スルニ及ハサル儀ト心得ヘシ

○本籍外ノ者ヨリ差出シタル届書取扱方 十九年十月二十六日

内務省訓令第二十二號北海道廳府廳

内務省令第十九號第五條但書ニ依リ本籍外ノ者ヨリ差出タル届書ハ左ノ如ク取扱フヘシ

一寄留者ニ係ル届書ハ寄留簿ニ登記シタル上入寄留届書ト合綴スヘシ但出産ニ於テハ別ニ入寄留届ヲ爲サシムルニ及ハス

一寄留者ニ非サル者ノ届書ハ總テ便宜編綴スヘシ

全令第六條ノ入寄留届書第七條ノ寄留者退去届書及第八條ノ寄留者復歸届書ハ類集編綴スヘシ

○參賀參拜非役有位帶勳者達方并位官勳等前科有無調査

區役所戸長役場ニ於テ取扱方ヲ廢ス 二十年一月二十日

内務省訓令第三號北海道廳府廳

明治十九年(十月)内務省訓令第二十號ヲ以テ戶籍書式等相定メ位官勳等及處刑ハ戶籍ニ登記セサルヲ以テ從前新年朝拜祝節並御祭典ノ節參賀參拜ノ儀非役有位帶勳者へ通達方及位官勳等前科ノ有無調査方區役所戸長役場ニ於テ爲取扱候儀ハ自今相廢スヘシ
明治十四年(十二月)司法省丁第三十三號達及明治十九年(四月)司法省令丙第六號ニ依

リ輕罪裁判所檢事ノ通知書ヲ受ケタルトキハ便宜之ヲ編綴スヘシ

●伺指令

●單身戶主死亡跡財產處分ノ件(長崎縣)請訓明治二十年九月十日

單身戶主死亡跡相續者無之者ト財產成規ニ據リ五箇年間區戶長ニ於テ保管中左ノ場合ニ於テ處理上疑團ヲ生シ候ニ付此段請訓候也

第一條 遺留財產ノ内土地ハ税金不納ノ爲メ成規ニヨリ公賣ニ付シ所有權已ニ落札人ニ歸シタルヲ以テ地主ヨリ土地引渡ヲ請求スレトモ該地ニアル建物ハ第一債主アリテ今猶保管中ナレハ之レカ處分ヲ了ルノ後ニ非レハ右ニ當ル敷地落札人へ引渡スヘカラサル儀ト相心得可然哉

第二條 第一債主ハ戶主ト生前契約アル題ヲ以テ依然遺留家屋ニ住居セリ然ルニ未タ所有權ノ第一債主ニ移リタルニ非ス郡區役所ニ於テ保管スヘキ管ナルヲ以テ右等居住者ハ無論保管者ヨリ退去ヲ命スヘキモノト相心得可然哉

第三條 返金契約期限ヲ經過スルモ債主ヨリ裁判處分ヲ仰カサルカ爲メ成規ノ期限間之ヲ保管スルハ益々負債額相嵩ミ且ツ第一條ノ如キ地主ノ權利ヲ妨ケルノ不都合ヲ生ス右ノ場合ニ於テハ保管者ヨリ債主ヲ促シ告訴セシムヘキ儀ニ候哉

(内務省)指令 明治二十年十一月十六日(司法省運帶)

第一條 建物ノ保管中ニ拘ハラス公費ニ付セラレタル敷地ハ落札人へ引渡スヘキモノトス

第二條 家屋ノ所有者生存中負債ノ爲メニ債主ニ家屋ヲ貸與シ債主ニ於テ所有者生存中ヨリ引續キ現ニ住居シタルモノナレハ直ニ退去ヲ命スルヲ得サルモノトス但眞債者ノ利益ノ爲メ家屋賃借ノ解約ヲ爲スハ格別ナリ

第三條 債主ヲ促シ出訴セシムヘキモノニアラス但該財產成規ノ期限内保管ノ上ハ官沒ノ處分ヲ爲スヘキモノナレヲ以テ眞債償却方ニ付保管者ニ於テ意見アルトキハ裁判所ノ處分ヲ仰カシムヘシ

●國稅ニ關スル諸鑑札其他番地訂正方ノ件(岐阜縣)上申明治廿一年八月二日

戶籍編製方ニ關シテハ去ル明治十九年内務省訓令第二十號ノ趣モ有之本縣ニ於テハ右訓令ニ基キ此節戶籍整理ニ於

手ノ舊來地ト唱ヘシモノナシ代フルニ番戸ノ額ヲ以テシ其番號ハ一町村ヲ一貫シ列戸ノ順序ニ從ヒ月毎ニ之ヲ
付シ候次第就テハ此際從前ノ番地トハ盡ク異動ナシ生シ隨テ國稅ニ關スル諸管經札類其他標札等凡テ訂正ヲ要シ候得
共既ニ市制町村制ノ發布モ有之其實施ニ方リテハ勢ヒ町村ノ區段境界ノ分合等ニ依リ多少ノ變更ヲ生スヘキ見込
有之候ト訂正ヲ加フルカ如キハ學究徒勞ニ屬シ頗ル官民ノ手數ヲ煩ハシ候儀ニ付市町村制實施ノ日ニ至リ此等ノ秩
序整理完成候迄姑ク其訂正ヲ見合セ舊番地記載ノ儘使用候モ格別支障ヲ來ササル儀被在候間御差支ノ廉モ無之候ハ
特ニ御承察相成度
（大藏省）指令 明治二十一年八月十一日
上申ノ趣聞置ク

第六十一章 旅行死亡人取扱規則

明治十五年九月三十日
第四十九號布告

旅行死亡人取扱規則

- 第一條 凡ソ引取人ナキ行旅死亡人アルトキ所在戸長ハ之ヲ最寄墓地へ假埋葬スヘシ
其倒死變死等ニ係ル者ハ警察官ノ檢視ヲ受クヘシ
- 第二條 死亡人ノ本籍氏名詳ナルル戸長ハ死亡ノ狀況并ニ埋葬其他死亡人ニ屬スル費
用ノ計算書ヲ本籍戸長へ通報スヘシ本籍戸長ハ之ヲ其家ニ通示シ費用ノ辨償ヲ要ス
ルルハ三十日限差出サシメ埋葬地戸長ニ送付スヘシ若シ其家赤貧ニシテ辨償シ能ハ
サルルハ其本籍地方稅ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ
- 第三條 死亡人ノ本籍氏名詳ナラサルル戸長ハ其相貌狀附屬シタル物品場所年月
日等ヲ詳記シ三十日間最寄場示場へ揭示シ且兩度以上新聞紙ヲ以テ公告スヘシ公告
ノ日ヨリ九十日ヲ過キ仍ホ本籍詳ナラサルルハ該費用ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘシ

- 第四條 死亡人所持ノ金錢ハ埋葬其他死亡人ニ屬スル費用ニ供スヘシ又所持ノ物品ハ
前條ノ期限ヲ過キ仍ホ本籍詳ナラサルルハ之ヲ公賣シ同上ノ費用ニ充ツヘシ
但本籍氏名詳ナル者其家赤貧ニシテ費用ヲ辨償スルコト能ハサルルハ直ニ其物品ヲ
公賣スルモ妨ケナシ
 - 第五條 死亡人ノ遺財前條ノ費用ニ充テ餘贏アルルルハ之ヲ本籍へ送付スヘシ其本籍氏
名詳ナラサルモノハ之ヲ五ヶ年間戸長役場ニ保管シ仍ホ本籍氏名詳ナラサルニ於テ
ハ地方稅雜収入ニ組入ルヘシ
- 右奉 勅旨布告候事

○旅行死亡人埋葬表

明治十五年十一月十七日
內務省乙第六十一號府縣へ達

今般第四拾九號布告ヲ以テ行旅死亡人取扱規則被定候ニ付テハ明治十年(五月)當省乙
第五十號達ヲ廢シ表式別紙ノ通相定候條右ニ照準半年分宛取纏メ毎年八月限り進達可
致尤モ届出ヘキ事項無之向ハ其旨同期限迄ニ可申出此旨相達候事
但當半年分ノ儀ハ第四十九號布告前後ヲ以テ區分テ立テ以前ノ分ハ最前表式ニ依リ
以後ノ分ハ本達表式ニ依リ各表進達可致儀ト心得ヘシ
(別紙略之)

●伺指令

●軍人行旅中死亡等ノ節取扱方ニ付廣島縣ヨリ海軍省へ伺十六年八月十日
客第第四十九號ヲ以行旅死亡人取扱規則公布有之並本年三月廿四日附ヲ以行旅人ニシテ重症飢餓等ニ迫リ目下離捨

死者ハ長役場ニ於テ適宜救護ヲ加ヘ其費用ハ本人家元ヨリ辨償セシメ家元赤貧ニシテ辨償難相成有籍者ハ本籍無籍者ハ救護地々方稅ヲ以支辨スヘキ旨内務省ヨリ訓示有之候處海軍下士兵卒ニシテ單身旅行中萬一右等ノ場合ニ於テ假埋葬又ハ一時救護スヘキハ勿論ナレ其者引渡方及之ニ係ル諸費辨償ノ儀ハ御省軍務局又ハ鎮守府へ照會可然哉身分管轄一般人民ト異ル廉有之爲念此段相伺候也

指令 十六年八月二十五日
何之趣單ニ東海鎮守府へ照會候儀ト可相心得事

●海軍下士兵卒等旅行中死亡之節取扱方ノ儀ニ付滋賀縣ヨリ海軍省へ伺
十六年十一月二十二日

- 第一條 明治十五年第四十九號公布ヲ以テ行旅人死亡取扱規則被定候處海軍下士兵卒等ニテ單身旅行中死亡スルモノ有之ハ總テ該規則ニ準シ可取扱ハ勿論ノ儀ト相考候得共其死体引渡方及入費却方ノ儀ハ諸役歸郷等ノモニ在テハ右規則第二條ニ依リ本籍戶長へ照會セシメ其他ノ者ハ東海鎮守府へ照會シ可然哉
- 第二條 前條果シテ然ラハ埋葬其他ノ費用 食料 藥價 醫師診斷 檢案料 通信費等ハ東海鎮守府ヨリ悉皆償却相成ル乎或ハ其幾分ヲ償却相成ル儀ニ候哉果シテ然ルハ其不足分ハ家元ヨリ償却爲致可然哉
- 第三條 本年三月二日付ヲ以テ内務卿ヨリ行旅人ニシテ重症飢餓等ニ迫リ目下難關モノハ適宜救護ヲ加ヘ右ニ属スル費用ハ自辨タルヘク若シ本人又ハ家元赤貧ニシテ辨償スル能ハサルハ地方稅教育費 無籍者ハ救護地ヲ以テ支拂ヘキ旨通有之候ニ付テハ下士兵卒等ニシテ萬一右等ノ場合ニ於テハ一時救護ヲ加ヘ其費用償却ノ儀ハ諸役歸郷等ノモノヲ除キ其他ノ者ハ東海鎮守府へ照會セハ該費悉皆償却相候儀ニ候哉又ハ本人資力限リ追償シ尙不足スルハ其家元ヨリ辨償爲致候儀ニ有之候哉
- 第四條 下士兵卒等單身旅行中盜難ニ罹リ亦ハ旅費金遺失等ニテ歸途補給等ノ差關ル旨ヲ以テ救護方申出候モノ有之ハ亦事實取調相違無之ニ於テハ衣服ナキモノハ衣服購求費宿泊ヲ要スルモノハ其宿泊料ヲ糧費貸與シ可然哉

指令 十七年一月廿四日
何之趣左ノ通可相心得事

- 第一條 在職ノ下士卒旅行中死亡スル者有之其死体引渡方ノ儀ハ直ニ東海鎮守府へ照會スヘキ儀ト心得ヘシ但親戚故舊ヨリ死體引取方出願スルハ下士金拾五圓卒金拾圓ヲ埋葬料トシテ下付スヘクニ付該金額ハ同府ヨリ受取ルヘシ
- 第二條 前條ニ於ケル埋葬料其他ノ費用ハ前段何之通東海鎮守府ニ於テ處辨スヘクニ付該費目ヲ區分シ各調書ヲ以テ其都度照會セシムヘキ儀ト心得ヘシ
- 第三條 前段何之通
- 第四條 旅行中盜難又ハ旅費金遺失等ニテ困難ノ者アルハ明治十一年乙第十號當省通旅行證規則第三條ニ比準シ事實相違ナキモノハ一時救護ヲ加ヘ其費用ハ前二條ノ通同府へ照會スヘシ

●下士兵卒旅行中一時救護ノ儀ニ付茨木縣ヨリ海軍省へ伺 十六年十二月十九日

海軍下士兵卒ニシテ單身旅行中重症飢餓等ニ迫リ一時ノ救護又ハ假埋葬セシ者引渡方及諸費ノ儀本年八月廿五日度島縣何ニ對スル御指令ニ據リ其時々東海鎮守府へ照會可致ハ勿論ナレ右ハ官私ハ官命ヲ帶フル者或ハ私事ニ出ル者ノ別ナク之ニ係ル費用ハ悉皆下附セラル、御主趣ニ候哉

指令 十七年二月十九日
何而埋葬費ハ何之通其他ノ費用ハ事故ヲ明記シ更ニ可伺出事

第六十二章 通稱名乘兩様用フルヲ禁ス
從來通稱名乘兩様相用來候輩自今一名タルヘキ事
明治五年五月七日 第百四十九號布告

○國名舊官名ヲ通稱ニ用ルヲ禁ス
自今舊官人元諸大夫侍並元中大夫等位階總テ被廢候事
明治三年十一月十九日 布告

○僧侶苗字

明治五年九月十四日
第二百六十五號布告

自今僧侶苗字和設住職中ノ者ハ某寺住職某氏名ト可相稱事
但苗字相設候ハ、管轄廳へ可届出事

○御歴代御諱並御名ノ文字人民一般名乗ルヲ許ス

明治六年三月二十八日
第二百十八號布告

御歴代御諱并御名ノ文字自今人民一般相名乗候儀不及憚事
但熟字ノ儘相用候儀ハ不相成候事

○平民苗字

明治八年二月十三日
第二百二十二號布告

平民苗字被差許候旨明治三年九月布告候處自今必苗字相唱可申允祖先以來苗字不分明
ノ向ハ新タニ苗字ヲ設ケ候様可致此旨布告候事

○苗字名屋號共改稱ヲ禁ス

明治五年八月二十四日
第二百三十五號布告

華族ヨリ平民ニ至ル迄自今苗字名並屋號共改稱不相成候事
但同苗同名等ニテ無餘義差支有之者ハ管轄廳へ改名可願出事
九年第五號布告ヲ以テ但書中
(同名)ノ下(等)ヲ加ヘ(管轄
廳へ)ノ下
二字ヲ加フ

第六十三章

華士族相續法

明治六年一月二十二日
第二百二十八號布告

今般華士族家督相續ノ儀ニ付左之通被相定候條此旨相達候事
家督相續ハ必ス總領ノ男子タルヘシ若シ亡没或ハ廢篤疾等不得止ノ事故アレハ其事
實ヲ詳ニシ次男三男又ハ女子ヘ養子相續願出ツヘシ次男三男女子無之者ハ血統ノ者

ナリテ相續願出ツヘシ若シ故ナク順序ヲ越テ相續致ス者ハ相當ノ咎可申付事
第六十三章
テ全條改正
幼少ニテ家督爲致候節ハ親戚又ハ他人ニテモ相當ノ者相撰後見可爲致事

當主隠居致シ實子又ハ養子家督相續致シ候上其相續人多病或ハ不埒ノ儀有之歟又ハ
病死致シ最前ノ隠居壯健ニテ再相續願出候節ハ開届不苦事
但再相續人ト可稱事

當主壯年ナレモ疾病其外無據事故有之養子致シ候處前當主疾病平愈又ハ事故相解
候節再家督致シ右養子ハ實家ヘ立戻リ候歟又ハ當主他ヘ縁付候共雙方熟談ノ上願出
候ハ、開届不苦事
九年第七十五號布告ヲ
以テ次ノ一項ヲ廢ス

父兄伯叔總テ目上ノ者子弟甥等ノ目下ノ家ヲ繼承スルトキハ相續人ト稱シ養子ト稱
スヘカラス

當主死去跡嗣子無之婦女子ノミニテ已テ得サル事情アリ養子雖致者ハ婦女子ノ相續
差許從前ノ給祿可支給事

婦女子相續ノ後ニ於テ夫ヲ迎ヘ又ハ養子致シ候ハ、直ニ其夫又ハ養子ヘ相續可相續
事
六年第二百六十三
號布告ヲ以テ追加

右之通條條華族ハ管轄廳ヨリ正院ヘ相伺士族ハ管轄廳ニ於テ開届可申事

第六十四章
合家ヲ禁シ從前合家セシ分取扱方

明治九年五月二十日
第七十五號布告

明治六年(一月)第廿八號第五項及ヒ同年(八月)第三百壹號ヲ以テ合家ノ儀布告候處詮

議ノ次第有之自今被禁止候條此旨布告候事

但從前既ニ合家セシ分ハ今後左之通可取扱事

一分家セント欲スルモノハ其合家セシ本人ノ一代中ニ限り復舊スルヲ許ス其子孫ニ至テハ七年第七十三號布告分家ノ例ニ據ルヘシ

一戸籍記載方及ヒ刑律上ノ關涉ニ於テハ戸主ノ血屬ハ等親ニ依リ其血屬ナキハ等親外ノ親屬タルヘシ

一士族平民合家セシモノハ總テ士族ニ編入スヘシ

○華士族分家ノ者平民籍ニ編入
明治七年七月十日
第七十三號布告

但分祿ノ儀ハ不相成其宗家祿高ノ中適宜給與候儀ハ勝手タルヘキ事

○華族ノ輩隱居及養子出願方
明治三年閏十月十七日
華族へ布告

一華族之輩年五十歳ヨリ隱居願之儀可爲勝手事
但癡疾及事故ニ罹リ候輩ハ此限ニ非ス

一實子無之候ハ、年齢ニ不拘養子願之儀可爲勝手事
右之通更ニ被仰出候條此旨相違候事

○士族ノ輩隱居及養子出願方
明治三年閏十月十七日
士族へ布告

一士族之輩年五十歳ヨリ隱居願之儀可爲勝手事
但癡疾及事故ニ罹リ候輩ハ此限ニ非ス

十七年七月
令以
令以
令以

一實子無之候ハ、年齢ニ不拘養子願之儀可爲勝手事
右之通更ニ被仰出候條此旨相違候事

○華士族ニ不拘家督相續出願中死去ノ節届出方
明治四年九月晦日
布告

華族士族ニ不拘病氣危篤ニ付家督相續願中死去候ハ、願濟ヲ不待直ニ可届出候事

○華士族ヨリ平民ニ至ルマテ互ニ婚姻ヲ許ス
明治四年八月廿三日
布告

華族ヨリ平民ニ至ル迄互ニ婚姻被差許候條雙方願ニ不及其時々戸長エ可届出事
但送籍方ノ儀ハ戸籍法第八則ヨリ十一則迄ニ照準可致事

○華士族平民互ニ養子取組方及届出方
明治六年一月二十二日
第二十七號布告

自今華士族平民互ニ養子取組不苦候事
但華族ハ管轄廳ヨリ正院へ伺出士族ハ管轄廳ニテ開届平民ハ戸長へ可届出事

第六十五章 華士族當主死亡後相續人ヲ定ムル期限
明治十三年一月二十九日
第三號布告

華士族當主死亡後相續人無之親族協議ノ上家名預リ置追テ相續人ヲ定ムルハ當主死亡後日數五十日ヲ過クヘカラス若不得已事情有之親族連印管轄廳へ延期願出ルモノハ更ニ相當ノ猶豫ヲ與フルト雖モ死亡後六ヶ月ヲ過キ仍ホ相續人ヲ届出サルトキハ其族稱ハ廢絶候儀ト可相心得世旨ハ告候事

○婦離縁ヲ請フモ夫肯セサル節出訴ヲ許ス
明治六年五月十五日
第六十二號布告

夫婦ノ際已ムテ得サルノ事故アリテ其離婚縁ヲ請ブト雖凡夫之ヲ肯ンセス之レカタノ
數年ノ久テ經テ終ニ嫁期ヲ失ヒ人民自由ノ權理ヲ妨害スルモノ不少候自今右様ノ事件
於有之ハ婦ノ父兄弟或ハ親戚ノヲ附添直ニ裁判所へ訴出不苦候事

○婚姻養子養女ノ取組若クハ離婚縁等戸籍ニ登記

セサル内ハ其効ナシト看做ス 明治八年十二月九日
第二百九號使府廳へ達

婚姻又ハ養子養女ノ取組若クハ其離婚縁縁令相對熟談ノ上タリ凡雙方ノ戸籍ニ登記
セサル内ハ其効ナキ者ト看做スヘク候條右等ノ届方等開ノ所業無之標精々説諭可致置
此旨相達候事

第六十六章 戸籍ニ登記セサル者裁判處分方

明治十年六月十九日
司法省丁第四十六號大審院上等裁判所地方裁判所へ達

八年第二百九號御達ノ儀ニ付有馬判事ヨリ甲號ノ通伺出ニ因リ乙號ノ通太政官へ上申
候處丙號ノ通御裁令相成候條此段爲心得相達候事

甲號 擬律伺

明治八年第貳百九號公布婚姻又ハ養子養女ノ取組若クハ其離婚縁縁令相對熟談ノ上
タリトモ雙方戸籍ニ登記セサル内ハ其効ナキ者ト看做ス可ク云々ト有之候付テハ雙方
父母親屬熟談ノ上ハノ妻トナリ男女ノ子アル者ト雖凡戸籍ニ登記無之者ハ犯姦告訴等
ノ節無論處女ト看做シ處分致ス儀ニ可有之尤右ノ者夫又ハ夫ノ祖父母父母ヲ謀殺故殺

假傷罵詈等ニ至ル迄總テ凡人ヲ以テ論シ且人ノ養子女トナリテ同居シ實際親子ノ會釋
ヲ爲ス者ト雖凡前同斷ノ者ハ皆凡人ヲ以テ處分致シ可然哉已ニ戸籍法規則確定ノ上ハ
婚姻又ハ養子女等其時々送籍等ヲ不爲者ハ無之等ニ候得共邊土僻隅ノ愚民ニ至テハ絶
テナシトモ難確定候ニ付犯者アルニ臨ミ實際ト條理上下不都合ヲ可生様有之關係不勘
聊疑義ヲ生シ候條豫メ御指揮ヲ受置度此旨相伺候也

在官崎縣

明治九年四月十八日

七等判事有馬純行

司法卿大木喬任殿

乙號

太政官へ上申

婚姻又ハ養子女ノ取組若クハ其離婚縁等ノ儀ニ付テハ八年第二百九號ヲ以テ使府廳へ達セ
ラレタリ然ルニ該達ハ文意稍明確ナク或ハ官崎縣伺ノ如キ疑團ヲ生スルアリト雖凡
篇ト該達ノ文意ヲ熟按スルニ假令ヒ相對熟談ノ止タリ凡云々ノ文字アリテ既ニ其婚姻
ヲ行ヒ夫婦ト爲リタル者ヲ指シタルニアラヌ其主意ヲ約言スレハ婚姻養子ノ取組等ヲ
爲スニ當リ雙方ノ熟談ノミニテハ一概ニ之ヲ夫婦父子ト見ル可カラサル旨ヲ示シタル
モノナリ(尤モ最初該達施行ノ際ハ此辨明ト其旨意ヲ異ニセシヤモ知ル可カラサレト
今日ノ日法律ノ改良修正ヲ要スルニ當テハ成ルヘク舊法ヲ破毀セス之カ辨明ヲ以テ其
効ヲ得シムルヲ其トス)然ルニ若シ之ヲ以テ既ニ婚姻ヲ行ヒ親族隣里モ之ヲ認許セシ

者ニ適用シテ凡人ヲ以テ處分スルハ實ニ人類社會ノ根本タル一家親族ノ大倫ヲ亂スヘキ法律ト云ハサルヲ得ス

別紙有馬判事伺ノ如キ其實明々タル夫婦親子ニシテ獨リ戶籍ノ登記ヲ欠ク者若シ謀殺故殺犯姦等ノコアラシニ凡人ヲ以テ之ヲ論セン耶是レ其形ヲ論シテ其實ヲ論セサル者大ニ法律ノ原旨ニ悖戾スト謂フ可シ

然リト雖モ其戶籍登記ノ届ヲ爲サ、ル情實ニ因リ元ト其婚姻等ノ成リ立タサル不其ノ所爲アルモノハ其効ヲ失ハシムル者モ之レアルハシ因テ別紙之通指令可及ト存候且左ノ指令案ノ趣旨ニ從ヒ各裁判所ヘ念ノ爲メ本省ヨリ布達ニ及ヒ度此段相伺候條早速御裁令相成度存候也

丙號

大政官ヨリ御指令

伺之趣八年第二百九號ノ諭達後其登記ヲ怠リシ者アリト雖モ既ニ親族近隣ノ者モ夫婦若シクハ養父子ト認メ裁判官ニ於テモ其實アリト認ムル者ハ夫婦若シクハ養父子ヲ以テ論ス可キ儼ト相心得ヘシ

○離縁争訟ニ付處分方

明治十年七月十三日 司法省丁第五十號大審院上等裁判所地方裁判所へ通

離縁争訟ノ儀ニ付甲號ノ通名古屋裁判所ヨリ伺出ニ因リ乙號ノ通太政官へ上申シ御裁令ノ上丙號ノ通及指令候條此段爲心得相達候事

甲號

士族養戶主離縁ノ儀ニ付伺十年五月十八日

當主實子ナク親族或ハ他ヨリ養子致シ既ニ戶主ト成リタル後身持放蕩養父母等ノ侍繼ヲ欠キ又ハ身族ノ扶助ヲナサ、ル等ヨリ一家不和ヲ生シ遂ニ尊屬及ヒ親戚連署シテ戶主ノ離縁ヲ願フ者往々有之然ニ其故障ナク養實熟議ノ調タルハ府縣限リ離縁開届行政ト裁判トノ權ハ熟ト不熟トニヨリ別チ來リタル處明治八年四月中別紙佐賀縣伺ヘ朱書ノ如ク内務省指令アリシヨリ假令戶主及ヒ實家ニ於テ云々故障アリ未タ承諾ナサスト雖モ養母又ハ養祖父母養家ノ親戚連署シ縣廳工願出ル時ハ直ニ行政官ニ於テ離縁申付ルニ至レリ 愛知縣ノ如キ現今依之處分スルモノナリ抑モ如此ニシテ養實熟議相整以テ離縁ヲ要スル者固ヨリ行政ノ權内ナリト雖モ其戶主及ヒ實家之ヲ肯セサル等ハ即チ裁判權内ニシテ行政官ノ處斷スヘキニ非ラス然ニ今哉兩屬ニ亘レリ權限歸着スル所以來如何相心得可然裁別紙相添此段相伺候也

別紙略之

乙號

名古屋裁判所伺養子ノ戶主離縁ノ儀ニ付太政官へ上稟十年五月六日

告達若クハ裁令ニ依リ事情ヲ開糺シ離縁ヲ聽許スルハ現今ノ體裁姑ク地方官ノ職任トスルモ甲之ヲ要求シ乙之ヲ肯セス雙方相争ノ處分ニ至テハ之ヲ裁判所へ訴へ裁判官ノ裁判ニ任ス可キト當然ノコナラン

別紙名古屋裁判所伺援引スル所ノ内務省指令ニ據ル時ハ養子ノ戶主縱令之ヲ承諾セサルモ放蕩一家ノ沈没ニ管スルノ事實アリテ養母親族連署シテ願出ツルニ於テハ事情開糺ノ上離縁ヲ開届タルト地方官ノ權内ニ委スルモノ、如シ然ル時ハ離縁ノ際雙方熟議

整ハス如何ナル紛争ヲ生スルモ地方官之レヲ裁制處分スヘキ歟是レ決シテ其理ナキナ
リ抑モ離縁ノ争モ即チ人民私權上ノ争ニシテ他ノ普通ノ争訟ト異ナル所ナシ然ルチ之
ノミ地方官ノ權任トスル時ハ裁判所ノ權限ニ牴觸シ如何ニモ不都合ナラン現今既ニ各
地方裁判所ヲ設ケラレタル上ハ右等ノ裁判ハ勿論裁判所ノ權任ナリト思考セリ因テ左
之通指令可及ト存シ候得共一應爲念仰高裁候條至急御裁可相成度候也

明治十年五月六日

右大臣岩倉具視殿

司法卿大木喬任代理
二等判事玉乃世履

丙號 指令

伺ノ趣發實熟議整ハサル争訟ヲ裁制スルハ因ヨリ裁判所ノ權ナリト心得ヘシ

○子女アル者養子入夫ヲ以テ相續人ト爲スヲ許ス

明治九年六月五日
第五十八號使府縣へ達

實子アル者養子ヲ以テ相續人トシ子女アルノ寡婦夫ヲ迎ヘテ前夫ノ跡相續人ト定ムル
等ハ一般難差許定規ニ候得共華士族ヲ除クノ外現實極貧或ハ老病等ニテ實子孫アリト
雖モ幼少ナルカ又ハ有子ノ寡婦タリトモ極貧或ハ其子女幼少且後見スヘキ者モ無之歟
ノ場合ニテ親族協議ヲ以テ願出候節不得止事情ニ係ル者ハ地方官限リ聽許不苦此旨相
達候事

○戸主其家ヲ廢シ他ヘ入夫或ハ養子女トナリ又ハ

復籍等出願者取扱方
明治十年八月廿一日
第六十號府縣へ達

男女ノ戸主 其身實子養子家他女若クハ相續人タルヲ問ハス 其家名ヲ廢シ他ヘ入夫縁付或ハ養子女トナリ又ハ實家
ヘ復籍等願出候ハ、地方官限リ聞届不苦此旨相達候事

但華族ハ此限ニアラス

○士族家督相續養子貫籍替戸長へ届出方

明治十二年二月十三日
第八號(使)府縣へ達

士族家督相續養子貫籍替ノ義是迄管轄廳へ出願シ來リ候處自今出願ニ不及直ニ戸長へ
届出シムヘシ此旨相達候事

但廢嫡ニ属シテ特許ヲ經ヘキモノハ從前ノ通タルヘシ

第六十七章 失踪逃亡跡遺留財產處分方

司法省丁第四十一號大審院諸裁判所へ達

明治十一年一月二十六日

失踪死亡跡遺留財產處分ノ義ニ付太政官裁令ノ趣左ノ通内務省ヨリ通知有之候條爲心
得相達候事

内務省ヨリ通知明治十一年十一月十八日

失踪並ニ死亡遺財處分ノ義ニ付別紙寫ノ通太政官ヘ伺ヒ候處即チ朱書ノ通御指令相成
候仍テ爲御心得此段及御通知候也

(別紙)

内務省ヨリ太政官ヘ伺明治十一年五月十日

失踪並死亡跡遺財處分ノ義ニ付テハ追々御指令ノ次第モ有之即今當省ニ於テ右御指揮

十九年第九十號
士族ヲ以テ
同族トナシ
曾目取テ選
ス不モテ

ニ準據シ各府縣へ及指令候得トモ猶ホ穩當ナラサル廉モ有之更ニ左ノ通更定致度相伺候

一 失踪逃亡者ノ遺財ハ家族ニテ保管シ家族ナキハ親族親族ナキハ區戸長役場ニテ保管セシメ負債アルモノハ其償却處分モ取計ハスル例ニ有之岡山縣同租稅未納ノ者逃走處分ノ件ハ十年六月十二日御指テ例トス候處右負債處分ノ義ハ種々差岡ノ廉モ有之候ニ付以來ハ保管財産中書入質トナリタル分ハ其約定期限ニ至リ償却ノ處分地方官ニテ開屆書入質ニアラサル負債ノ義ハ一切裁判處決ヲ經テ償却候様致度

一 前條ノ遺財負債ナキカ又ハ負債償却シテ猶ホ餘財アル分ハ三十六ヶ月ヲ過キテ復歸セサル時ハ官沒スル例ニ有之候處筑摩縣同村民退轉所布地ノ件ハ八年五月二日御指令並野前縣例與家死失踪處分ノ件ハ九年四月十七日御指令等ニ由テ例トス右三十六ヶ月ノ期限ハ裁判上失踪者負債處分ノ期限ニテ官沒ノ期限モ之ニ準スルハ穩當ナラス依テ該財産ハ可成丈永久ニ保護スルノ趣旨ヲ以テ自今十年ヲ期滿トシ官沒ノ處分ニ及ヒ候様致度

一 死亡跡相續人無之遺財ハ三十六ヶ月ヲ待タス直ニ官沒シ負債アル時ハ償却スル例ニ有之第貳條制註同御指候處右負債償却處分區別ノ義ハ第一條ノ通取計ハセ候様致度右ハ各府縣ヨリ續々伺出候事件モ有之義ニ付至急御裁令被下度候也

朱書御指令明治十一年十一月四日
第一項 區戸長ニ保管スル財産中負債償却處分ノ義ハ其書入質公證ノ有無ニ拘ハラ

ス都テ裁判上ノ處分ニ任シ區戸長ハ之ヲ保存スルニ止ルヘシ
第二項 追テ法律制定迄ハ官沒ノ處分ヲ爲サズ本人歸來セハ其遺財ヲ返付スヘシ
第三項 負債償却處分ノ義ハ第一項指令ノ通

○戸長ノ保管スル失踪逃亡及絶家ノ財産ハ目錄ヲ作
リ郡區長ニ差出方明治十七年一月十日
内務省外府縣へ達
失踪逃亡死亡及絶家ノ財産ヲ戸長ニ於テ保管スルハ財産目錄ヲ作り郡區長ニ差出候様可致此旨相達候事

○廢戸主並財産管理ノ儀ニ付左ノ通り太政官ヨリ御達相成候條此旨爲心得相達候事
廢戸主並財産管理ノ儀ニ付別紙ノ通内務省ヨリ伺出朱書ノ通及指令候條其旨爲心得諸裁判所へ可相達事
明治十五年八月十四日
太政大臣三條實美

(別紙)
廢戸主并ニ財産管理ノ儀ニ付備
別紙島根縣伺ノ趣審案候處第一條受刑者廢戸主ノ義ハ去ル明治十年中法制部ニ質問ノ上ニ一年以上ノ懲役ニ處セラレ一家營生難相立場合ニ於テハ戸主ヲ廢スルヲ許可致來候處今般新刑法御實施ニ付爾後ハ舊例ニ準據シ輕重禁錮一年以上ノ處刑ヲ受ケ一家生

計難相立者ニ限り父母若クハ親屬協議ノ上廢戶主出願スレハ聞届不苦候哉又其第三條
禁治産ノ處分ヲ受クル者ノ財産管理ハ曩日上申致置候通り後見人規則御設定相成候上
同規則ニ據リ可取扱心得ニ有之候得共其第四條管理ノ職ニ任スヘキ家族親戚ナキ者ハ
戶長ヲシテ財産保管セシメ其負債償却等ハ總テ裁判處分ニ歸セシメ候テ可然候哉全縣
伺書之相添此段相伺候也

明治十五年五月十九日

内務卿山田顯義

太政大臣三條實美殿

朱書

伺ノ趣左ノ通り可相心得事

明治十五年八月十四日

第一條 廢戶主ノ儀ハ伺之通

第三條 財産管理人ノ儀ハ受刑者ヲシテ家族又ハ親戚ノ内ニ就テ之ヲ撰定セシメ其
姓名ヲ管轄裁判所ニ届出テ置キ他日賣買貸借等ノ「アル」ハ都テ該所ノ處分ヲ仰
カシムヘシ

第四條 戶長管理ノ儀ハ伺ノ通

○有位者改名貫屬替死去願届ヲ取扱タルトキ郡區長

自今有位者(華族ヲ除ク)改姓名貫屬替又ハ死去セシトキハ其願届ヲ取扱ヒタル郡區長ヨリ直

ニ當省華族局へ通牒セシムヘシ

○華族貫屬替願出方

二十一年十月十五日
宮内省通第五號華族一般

自今地方ニ就キ産業ニ從事シ或ハ家計ヲ維持スルノ目的ヲ以テ各府縣並北海道へ移住
セントスルモノハ其事情ヲ具シ貫屬換願出ヘシ其目的至當ト認ムルモノハ聞届クヘシ

●伺指令

●水戸輕罪裁判所檢事ヨリ司法省へ養子養女戶籍ニ登記セサル前犯
罪處分ノ義ニ付請訓 十六年十月十八日

婚姻又ハ養子養女ノ取組整ヒタル上ハ明治八年第二百九號御布告ニ基キ速ニ戶籍ニ登記スヘキハ勿論ナレモ邊土僻
隅ノ愚民ニ至テハ其ノ手續ヲ盡サ、ル者往々有之然ル内妻其ト稱スル者姦罪ヲ犯シ或ハ養子女ナル者祖父母父母ト
稱スル者子毆打ナシタル等ノ節ハ何レモ戶籍上登記ナキキ以テ姦罪ハ夫ト稱スル者ヨリ告訴スルモ處女ト見做シ不
問ニ措キ毆打罪等ハ凡人ヲ以テ論スル儀ニ可有之哉將々假令戶籍ニ登記セサルモ親族近鄰ノ者モ夫婦若クハ養父子
ト認メルニ於テハ明治十年本省丁第四十六號御達ニ基キ處分可然哉

内訓 十六年十月二十六日

養子女戶籍登記以前犯罪處分ノ儀請訓ノ趣右ハ後段見解ノ通此旨及内訓候也

●養子戶主携子離縁ノ儀ニ付茨城縣ヨリ内務省へ伺 十六年十二月廿日

養子離縁ノ際嫡子連師候儀ハ養實兩家ノ協議ニ任セ不苦モ養子戶主タル上ハ不相成候ニ可有之而シテ嫡子トハ嫡長
男又ハ庶長男ニ限リ候儀ニテ女子ハ假令獨子ト雖モ養實協議ノ上引連離縁致シ不苦哉云々明治十三年三月二日本縣
伺ニ同月廿三日付テ以テ書面之趣嫡男ノ例ニ準シ取扱候儀ト心得九一男女子トモ不得止事情有之願出候節ハ聞届
不苦事ト御指令有之然ルニ年月日不詳(明治十四年官令新誌第二號)第一條茲ニ甲家乙家ヨリ養子致居候處該養子一
男ヲ娶クル後故アリテ離縁セントスルニ方リ甲家ニテ娶クシ一男ヲ乙家へ携帶候儀ハ双方協議ニ任セ不苦哉願出候